

論文執筆支援シリーズⅥ

『太陽コーパス』の入門と ケーススタディ

グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
東京外国語大学大学院総合国際学研究院
2011



早津恵美子(監修) 佐藤佑(編)

論文執筆支援シリーズVI

『太陽コーパス』の入門と ケーススタディ

グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
東京外国語大学大学院総合国際学研究院
2011



早津恵美子(監修) 佐藤佑(編)

目次

編集にあたって	1
第 I 部 『太陽コーパス』 概説	3
第 1 章 『太陽コーパス』 概説	4
1. 『太陽コーパス』 って何?	4
2. 何に役立つの?	4
3. どうやって使うの?—検索編:「ひまわり」「たんぽぽ」の使い方—	5
3.1. 「ひまわり」	5
3.2. 「たんぽぽ」	10
4. どうやって使うの?—発展編:「プリズム」の便利な機能—	13
4.1. 本文を直接閲覧するには?	13
4.2. JIS 外字を確認するには?	15
4.3. 原典のエラーを追うには?	15
4.4. その他の情報を一覧するには?	16
4.5. 「プリズム」は毎回起動しないとイケないの?	16
5. 『太陽コーパス』 の限界	18
6. 結び	19
第 2 章 解説 異表記の検討について	
—戦前の書き言葉における旧字旧仮名と表記揺れ—	20
1. 仮名遣いの問題	20
1.1. 文語と旧字旧仮名	20
1.2. 『太陽コーパス』 における仮名遣いの揺れ	21
2. 表記のバリエーションの問題	21
2.1. 漢字表記	21
2.2. 送り仮名の揺れ	23
3. おわりに	24
[第 I 部 参考文献]	25
第 II 部 ケーススタディ	26
序 データ収集の実践について	27
第 1 章 無活用語編	28
第 1 節 「外国人」「外人」 など	29
第 2 節 「客観」と「主観」	38
第 3 節 「限り」	46
第 4 節 「～ため (に)」	52

第2章 活用語編	59
第5節 「頼る」	60
第6節 「思は(れ)る」と「考へら(れ)る」	64
第7節 「言はせる」と「聞かせる」	70
第8節 「～てやる」	77
第9節 「～はじめる」と「～をはる」	82
第10節 「～化す(る)」	92
第11節 「～つつある」	96
第12節 「うれしい」と「かなしい」	100
付録	107
「ひまわり」「たんぽぽ」での検索に用いる基本的な正規表現	108
用例収集の条件設定 チェックシート	110
「ひまわり」のバージョンアップ方法	111
用例サンプル	112

編集にあたって

『太陽コーパス』は、博文館新社より 2005 年 11 月に発行された、国立国語研究所編纂のコーパスである。同コーパスは総合雑誌『太陽』（博文館）の本文を、創刊年（1895 年）から 1925 年までのほぼ 8 年間隔でデータ化した XML ベースのコーパスで、明治後期から大正末期までの日本語の、主として書き言葉の使用実態を如実に反映していると言える。

同コーパスは言語資料として非常に優れたものであるにもかかわらず、日本語学において必ずしもこれを用いた研究が十分に蓄積されているとは言えない。このことの遠因として、一つには、特に「近代語」を対象とした「コーパス」というものの自体の専門性、漠然とした近寄りがたさのようなものがあるように思われる。しかしながら、同コーパスは最低限の操作を把握し、また収録データの内訳・整備のされ方といった実情を理解していれば、さほどの困難を伴わず大量のデータを収集・分析するのに用いることのできる、高い利便性を有するコーパスである。本書はその具体的な使い方を種々のケーススタディと併せて紹介し、初心者でも簡単に『太陽コーパス』を使いこなし、研究に役立てていけるようにするための解説書として企画・作成された。

本書は二部構成になっており、第 I 部では編者によるコーパスの概要・付属ツール等の解説を行う。第 II 部では 12 名（編者本人を含む。次頁に分担者一覧を掲載）の分担者が行った用例収集、その手順を詳しく紹介している。『太陽コーパス』では、本文データに品詞などのタグ付けがされていないため、文字列による検索しか行えない。そのため、分担者は、データ整理を行うとともに①用例の検索に先立って行った検討・調整、②検索にあたって用いた検索条件、③検索後の取捨選択などの経緯、についてまとめた上で、④『太陽コーパス』に対する提言（改善の可能性、追加を望む機能など）・今後の展望などをまとめることとした。また、収集に際しては、各人が担当する単語・言語形式の異表記の可能性について、ツール「ひまわり」などのルビ検索機能を用い検討（後述）することを条件とした。編者は各人の①-③の各プロセスおよび④の内容について検討し、適宜改善案を提示するなどして、収録データを必要十分なものとする助力に努めた。

検索の結果として得られた用例データ（Microsoft Excel 形式）は付属 CD-ROM に収録し、一部をサンプルとして本冊子の巻末にも掲載する。また、CD-ROM には、『太陽コーパス』対応の検索ツール「ひまわり」の最新バージョン（ver.1.3β05）を『太陽コーパス』用に調整したものも収録し、より高度な検索を行うための便宜を図っている。

なお、本書で紹介するようなデータ収集の実践に際しては、中山編（2009・2010）の、特に第 8 章・第 9 章で紹介されているデータ検索・整備に関する説明が役立つ部分が多い。必要に応じてこれらも参照されたい。

本書の作成に関わったメンバーは、以下の通りである。

【作成チーム】

監修・チームリーダー： 早津恵美子（大学院総合国際学研究院 教授）
編集： 佐藤 佑（GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程）
レイアウト調整： 中山 健一（GCOE リサーチフェロー）

執筆：

第Ⅰ部 『太陽コーパス』概説

佐藤 佑 GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

第Ⅱ部 用例収集のケーススタディ 分担者一覧（掲載順）

金 俸呈 GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

睦 俊秀 博士前期課程

茶谷 恭代 GCOE ジュニアフェロー

高 秀辰 GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

李 丹 GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

ナオサラン アーパーポーン GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

高 京美 GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

アクマタリエワ ジャクシルク GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

辺 純影 GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

佐藤 佑 GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

中山 健一 GCOE リサーチフェロー

福原 聡美 GCOE ジュニアフェロー/博士後期課程

アドバイザー： 樫本 るい（博士前期課程）

宮野谷 希（博士前期課程）

挿絵： あおみ（イラストレーター）

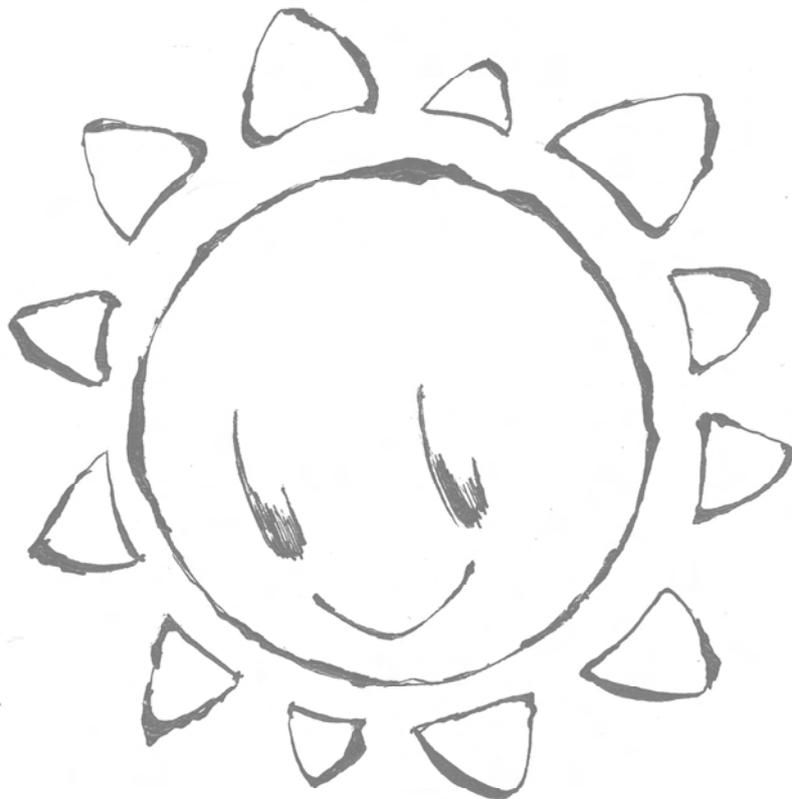
ホームページ「ひよこのこ」 <http://hiyo.suichu-ka.com/>

本書のデータおよび用例収集のケーススタディは、『太陽コーパス』のみならず広くコーパスを用いた日本語研究全般に、直接的にであれ間接的にであれ役立つものとするを旨とした。これらの成果が、そうした研究を志す人々の一助となることを願ってやまない。

2011年3月

佐藤 佑

第 I 部 『太陽コーパス』 概説



第1章 『太陽コーパス』概説¹

1. 『太陽コーパス』って何？

『太陽コーパス』は、博文館（現・博文館新社）より1895（明治28）年～1928（昭和3）年まで発行された総合雑誌『太陽』をデータベース化したコーパスである。計5年（1895、1901、1909、1917、1925²）・60冊分（増刊号を除く各年12冊分）がデータ化されている。収録データは記事総数3,408、延べ14,451,642文字分に上る。国立国語研究所編纂の研究資料集で、2005年に博文館新社より発行された（なお、定価は税抜き9,500円である）。

データは構造化テキスト（XML形式）で収録されている。形態素解析・品詞などによるタグ付けは行われていないが、12項目（「雑誌名」³「年」「号」「題名」「著者」「欄名」⁴「ジャンル」⁵「文体」「話者」「種別」⁶「位置」⁷「原文」⁸）の情報が記事ごとにタグづけされているため、それらの情報によって検索時の絞り込み・検索結果のソートをしたり、それらを元に検索結果から原文を参照したりといった使い方が可能である。

2. 何に役立つの？

『太陽』は、多様な執筆者による様々なジャンルの記事が収録されている総合雑誌であり⁹、当時の日本語（主に書き言葉）を代表する資料として非常に有用である。

『太陽コーパス』を用いることで、明治中期から大正末期にかけての言語使用、言語変化の実態について簡単にかかなりの量のデータを得て分析することができる。ただし、数年ずつの区切りで年単位のデータ化がされている（つまり、空白の期間の方が長い）ため、真に漸次的な変化を捉える上では必ずしも万全とはいえない面もあるかもしれない。

言うまでもないがすべていわゆる戦前のデータであり、また文語の記事も少なからず含まれるため、利用に際しては旧仮名遣いや旧字体、文語・口語の異同といった問題を常に念頭に置く必要がある。

¹ 本稿は、東京外国語大学 GCOE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」の合同ゼミ「初心者のための『太陽コーパス』概説」2回分（入門編：2009年10月19日、実践編：同年11月2日）の発表レジュメを統合・改稿したものである。

² 創刊年および、1901年を始点として8年間隔の4年分の、計5年分である。

³ 『太陽コーパス』のみを用いる限りは問題にならないが、別途コーパスを追加した場合はその弁別に不可欠になる。

⁴ 雑誌『太陽』における欄名。「小説」「美術」「政治時評」など、雑誌上で付された、編集側により明文化されたジャンル分けの内訳である。

⁵ NDC（日本十進分類法）による。

⁶ 引用や小説の会話文など、本文の筆者や語り手とは異なる人の発言・談話などの場合、「話者」（誰によるものか）「種別」（引用か会話文かなど）が示される。

⁷ XMLファイル全体の中でどのファイルのどの位置であるかを示す値で、後述する「プリズム」における「行番号」と同義である。

⁸ 原文に誤字・脱字がある場合、修正した旨の注記とともに「原文ママ」の表記が表示される。ただし、本書で紹介する「ひまわり」のバージョンアップを行うと、この情報は用いられなくなる。

⁹ 無記名記事などもあり正確な数は不明であるが、小説家・政治家・科学者など様々なジャンルの執筆者がおり、バラエティに富んだ内容になっている。

3. どうやって使うの？—検索編：「ひまわり」「たんぽぽ」の使い方—

『太陽コーパス』のCD-ROMには、同コーパスの検索に最適化されたXML検索ツール「ひまわり」「たんぽぽ」が収録されている。以下、これらのツール2種について概説する。

3.1. 「ひまわり」

<特徴>

インデックス化されたXMLを対象に検索が行え、動作が比較的軽快である。通常は全文(60冊分すべて)を対象になっているが、「フィルタ」機能により対象を限定して検索を行うことも可能である(後述)。

<起動の仕方>

CD-ROMをドライブに挿入すると自動的にブラウザが立ち上がり、『太陽コーパス』のインデックスページが表示される。同ページの「CD-ROMの内容」下にある“・Himawari/”(……全文検索システム『ひまわり』)をクリックすると“Himawari”フォルダの中身が表示されるので、そこにある“himawari.exe”のアイコンをダブルクリックして起動する¹⁰。



画像1 『太陽コーパス』インデックスページ

なお、本書の付属CD-ROMには、2011年3月15日時点での「ひまわり」の最新バージョン

¹⁰ 以下、ファイルの拡張子は表示する設定になっているものとする(設定方法は中山編2009:80、2010:93など参照)。

ョンに必要な修正を行い、種々の正規表現を用いて『太陽コーパス』の検索を行えるよう調整したものを収録している。参照の上、活用されたい（以下では、この最新バージョンを用いた検索方法について解説する）。

<基本的な利用方法>

検索条件入力ウィンドウ左のプルダウンで「本文」「本文（正規表現）」¹¹「ルビ（rt）完全一致」「ルビ（rt）部分一致」のいずれかを選び、検索条件を入力して【検索】ボタンをクリックする。

「本文」および「本文（正規表現）」は、実際の表記¹²で検索する場合に選択する。高度な正規表現を用いる必要がある場合は「本文（正規表現）」の、特に必要ない場合は「本文」のメニューを用いることになる¹³。なお、『太陽コーパス』は Unicode（世界で最も標準的な文字コードの一つ）に依拠しており、正規表現“[一龠]”ですべての漢字を網羅できる。

「ルビ」を指定すると、『太陽コーパス』内で原文のルビが再現されている範囲で¹⁴、漢字に振られたルビを対象に検索を行うことができる。たとえば「完全一致」の検索条件を「あそ」とすると「^{あそ}遊ば/^{あそ}遊び/^{あそ}遊ぶ……」などしかヒットしないが、「部分一致」にすると「遊（あそ）した」「彼所（あそこ）」などもヒットする、といった使い方が可能である。ルビ機能を活用すると、たとえば「ひとり（一人/独り）」の用例を集める際、「^{ひとり}獨身」のような当て字・熟字訓の（漢字 2 字以上で不可分な一語として読まれるような）例も漏らさず採ることが可能になる。ただし、音が一字ずつに分割できるような場合、二字以上の熟語はルビで検索できない。たとえば、「どくしん」を条件に設定してルビ検索を実行しても、「^{どくしん}獨身」の例は「^{どく}獨」と「^{しん}身」が各々別個にタグ付けされているため採れない。このような例を漏れないように集めるには、後述（3.2.）する「たんぼぼ」を使う方が簡単かつ確実な場合もある。

表記・当て字の問題が気になる場合はまず「ルビ」（「完全一致」または「部分一致」）で検索し、辞書の記述などと併せて当時の表記として考えられるものをリストアップした上で「本文」や「本文（正規表現）」の検索を行う、という流れが比較的確実である（このことについては、p.20 からの「異表記の検討」で再度詳しく扱う）。

なお、前文脈・後文脈は初期設定では 10 文字ずつしか取られず、それだけで文の流れを追うのには不十分なことが多いので、「検索オプション」タブ→「前後文脈長」で適宜調節し、十分な長さを収集対象に含めることが望ましい。さらに検索文字列の下のプルダウン

¹¹ 「ひまわり」がバージョンアップ済みの場合に限り利用可能。検索条件に正規表現を用いない場合、以下の使用方法はすべて共通である。

¹² ただし、本文データにおいて誤字・脱字などは修正されている。詳しくは 4.3. で扱う。

¹³ grep における正規表現については中山編（2009・2010）第 8 章なども参照のこと。

¹⁴ なお、『太陽コーパス』で「ルビ」は文学作品についてのみデータ化されている（小木曾 2009）。また、初期の記事を中心にそもそも原文にも付けられていない（したがってデータにも反映させることができない）ものが少なくないので注意が必要である。

傾向として、1910 年代までは小説がほぼ総ルビ、一部ジャンルの記事がパラルビ（一部のみにルビ付加）であるが、それ以降は一部の例外を除いてほぼ総ルビである（国立国語研究所編 2005:7）。

メニューで指定文字列「で始まる」（たとえば「學」をキーとした場合「學校」「學ぶ」…）、「と一致する」（學）、「を含む」（「學習」「進學」「大學校）」「で終わる」（「數學」「退學」……）など、様々な指定の仕方が可能である。

これらの条件を設定し、検索条件ボックスの右側にある**【検索】** ボタンをクリックすると検索が実行できる。検索に際して、旧字体の表記が分からない字については、「検索」ボタンの下にある**【字体変換】** ボタンをクリックすると、たとえば「学」→「學」のように、『太陽』で用いられる字体に変換してくれる（詳細は後述）。なお、言うまでもなく新旧で字体が違わない場合は変換が行われない（たとえば条件に「日」と入れて**【字体変換】** ボタンをクリックしても何も起こらない）。



画像2 検索実行時の「ひまわり」

なお、項目名をクリックするとその項目の昇順で検索結果を並べ替えることが可能である（画像3を参照）。

検索終了後は、画面左上の「ファイル」→「名前を付けて保存」で、検索結果のデータをテキストファイルとして保存できる。保存されたファイル内では、「雑誌名」「年」「号」「題名」「著者」「欄名」「ジャンル」「文体」「話者」「種別」「位置」の順でタブ区切りがされている。このテキストファイルをエディタで開き、全選択→コピーして Excel に貼り付けるとデータの整理がしやすい。



画像3 「著者」項目でソート（昇順のみ対応）

＜さらに高度な利用方法＞

検索時は特に指定しなければ収録されたデータすべてが検索の対象となるが、1年分ずつ検索するなど、対象とする範囲を何らかの形で限定したい場合は「フィルタ」機能が役立つ。「フィルタ」タブをクリックして各項目を設定することができ、「雑誌名」「年」「号」「題名」「著者」「欄名」「ジャンル」「文体」「話者」「種別」「位置」の各項目について絞り込み（フィルタ操作）ができる¹⁵。プルダウンにより3項目まで同時に指定して絞り込むことが可能で、たとえば検索文字列を指定した後、「年」を「1917」、「ジャンル」を「NDC913」¹⁶、「文体」を「口語」として「検索」ボタンをクリックすると、【1917年発行の12号分の範囲で、口語で書かれた小説・物語の】用例だけを採る、といった使い方が可能になる（画像4を参照）。

¹⁵ この他、CD-ROM収録バージョンの「ひまわり」には検索キー内に誤字・脱字等のエラーがある場合のみ「原文ママ」の表記を付記する「原文」の項目があるが、最新バージョンはこれに対応していない。もっとも、後述（4.3.）するように別途確認する手段はあること、またそもそも他の項目に比べ重要度は高くないことから、本書では最新バージョンを用いることによる検索の利便性を優先する。

なお、「雑誌名」は『太陽コーパス』においてはすべて「太陽」（雑誌『太陽』）であり、別途コーパスを追加するなどしない限りはこの項目をフィルタやソートに用いることはない。

¹⁶ NDC番号については、書籍版『日本十進分類法』で確認できる。また、以下のサイトなどでも調べることができる。Cyber librarian > 「日本十進分類法 (NDC) 9版 2次区分表」<http://www.asahi-net.or.jp/~ax2s-kmtm/ref/ndc/ndc.html>



画像4 「フィルタ」機能の活用

検索文字列およびこれらのフィルタ項目も含め、入力した文字列をすべて消して一から入力し直したい場合には、[字体変換] ボタンの下にある [クリア] ボタンをクリックする。

「本文」「ルビ (完全一致)」「ルビ (部分一致)」の検索文字列や、上述した [フィルタ] の各項目についても、“[]” (半角大括弧) の文字セット指定のみ正規表現が利用可能である。文字範囲指定は不可で、具体的には、動詞「歩む」の用例を検索したい場合、「本文」検索でも“歩[まみむめん]”であれば問題ないが“歩[ま-めん]”とすると「歩ま」「歩め」「歩ん」しかヒットしないことになる (なお、「本文 (正規表現)」であれば文字範囲指定も利用可)。「ルビ (完全一致)」「ルビ (部分一致)」でも、“あゆ[まみむめん]”は漏れなく検索ができるが“あゆ[ま-めん]”では検索漏れが出る。

このように文字セット指定のみ可能になっているのは、主に「字体変換」機能との兼ね合いによるものである。新字体で入力した漢字は、[字体変換] ボタンをクリックすることでコーパス内における異体字に一括変換でき (例: 学→學)¹⁷、さらに本文に用いられうる異体字が複数存在する場合は“[]”で括ってすべてを対象に含めるように変換してくれる (例: 本→[本本]) のである。旧字体をあまり知らなくても検索がしやすいので便利な機能であるが、検索条件にも“[]”を用いている場合は“[]”が重複しないように (たとえば“根

¹⁷ 『太陽コーパス』には、専用の字体変換辞書が収録されている (ファイル名は“jitaidic.xml”で、コーパスのデータを格納している“Taiyo”フォルダ内にある)。JISX0208 1997 に異体字が存在するとされるもののうち、『太陽コーパス』の範囲内で等価な字体と認められるもの (等価字体) とそうでないもの (参考字体) の2種が指定可能である。初期設定では前者のみ使用するようになっており、通常これを変更する必要はない。

[元本]”に「字体変換」を用いて“根[元[本本]]”のような検索の不可能な形になってしまった場合は、手動で修正し“根[元本本]”とするなど) 注意する必要がある。

検索キー以外に、前文脈および後文脈についても文字列を指定できる。たとえば、名詞の用例を採る場合で、「前文脈」に「の」と入れれば、ノ格名詞の修飾を受ける例(ただし、直前に現れるものに限る¹⁸⁾)を絞り込むことができる。これもプルダウンで指定文字列「で始まる」「と一致する」「を含む」「で終わる」など、様々な指定ができる。

なお、全データを一括して検索できることが「ひまわり」の利点であるが、あまりにヒット数が多い(メモリに結果を格納しきれなくなる)とエラーになる可能性がある。したがって、あまり文字数の少ない、一度に膨大にヒットすることが予測されるような条件指定(たとえば「が」「から」のような格助詞の収集を意図してそれらを検索条件とするなど)は避けた方が無難である。

3.2. 「たんぽぽ」

<特徴>

正規表現を駆使した柔軟な検索条件指定が行え、またルビ・踊り字を展開するなどの利便性の高い機能を持つが、個々(1号ごと)のXMLファイルを対象としたgrep方式のため検索に時間がかかる。特に全データを一括して検索しようとするマシンスペックによってはフリーズする可能性が高くなるので、番号分ずつ分けて行うことを推奨する。

<起動の仕方>

『太陽コーパス』のインデックスページから、「XML ファイルを直接利用するためのアプリケーション」> “XML/Tanpopo.hta”をクリックして起動する。

<利用方法>

メイン画面(画像5)で検索文字列を入力し、検索対象とする号のチェックボックスにチェックを入れて¹⁹⁾「検索」ボタンをクリックする。

検索対象の形式を「ルビなしテキスト」「ルビを開いたテキスト」「ルビ入りテキスト」から選択できる。「ひまわり」で行った本文検索と同様に文字列のみで検索する場合は「ルビなしテキスト」、ルビも対象に含めて検索したい場合は「ルビを開いたテキスト」を選択する²⁰⁾。後者を活用すれば、たとえば「どくしん」で検索することで「獨身」の例も漏らさず採ることができるのは、「ひまわり」にはない特徴である。

¹⁸⁾ たとえばキーを「友情」、前文脈を「の」とした場合、「篤き男の友情」はヒットするが「男の篤き友情」はヒットしない。このように、語と語の共起関係をくまなく見るような目的には向かないことが多い。

¹⁹⁾ 右にある「全号」ボタンをクリックすると、その年の12号分に一括してチェックを入れることができるが、動作の安定上、必ずしも推奨できない。

²⁰⁾ 「ルビ入りテキスト」を指定すると、たとえば「一寸通りますよ」のような例にルビが振られていた場合、“一寸[ちよつと]通[とお]りますよ”のように本文中に角括弧で囲まれたルビを挿入したテキストが検索対象となる。すなわち、本文がルビの振られる語ごとに分割された形になってしまい、たとえば“一寸[一翫]”で検索しても上記の例はヒットしないことになる。このように、他2種に比べて使い勝手は良くない。



画像5 「たんぼぼ」メイン画面

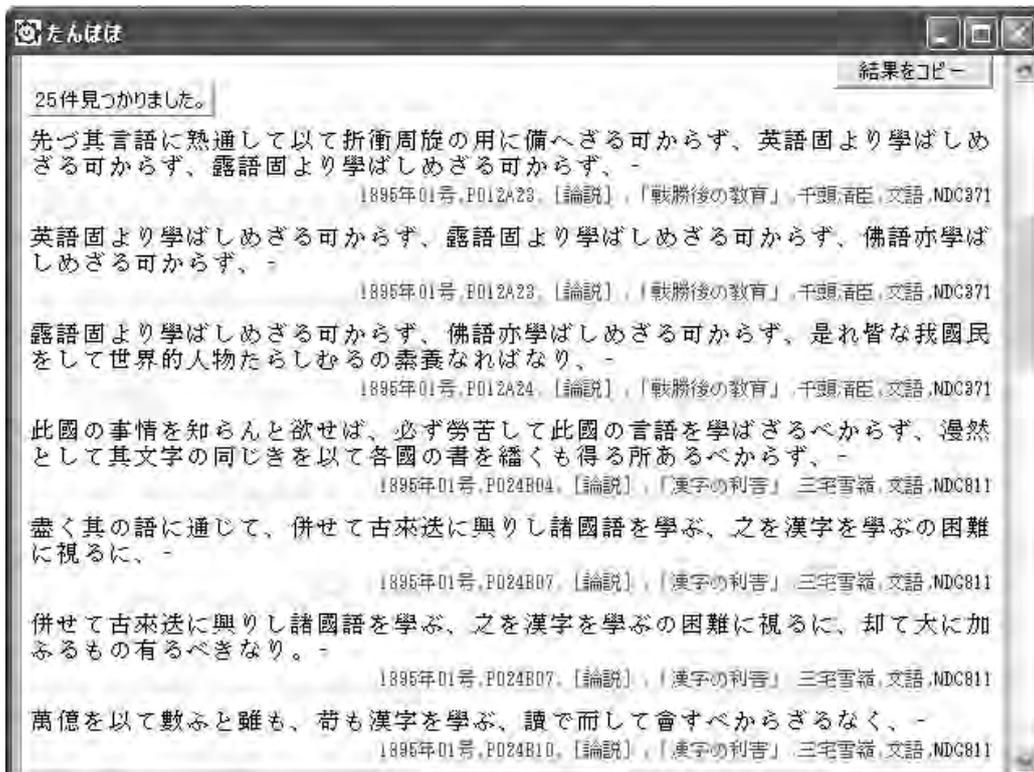
また、「ひまわり」の場合、たとえば「まま」のような同じ字の繰り返される語形を検索する場合、踊り字（ゝ、ゝ……）²¹を考慮に入れないと大量の取りこぼしが出ることになるが、「たんぼぼ」では画面右下の「踊字をひらく」ボックスにチェックを入れることで、「まま」で検索すれば「まま」「まゝ」の例を一括して収集することが可能になる²²。

検索結果画面（画像6）の右上にある「結果をコピー」ボタンをクリックすると、情報（本文・収録号・位置・欄名・記事タイトル・著者名・文語/口語・ジャンルおよび、小説の会話文や引用の箇所は「引用種別：話者」）がタブ区切りされた状態で検索結果がクリップボードに保存される²³。Excelを開いて「貼り付け」（右クリック→「貼り付け(P)」またはCtrl+Vのショートカットキー）を行うと、簡単にデータを保存できる。

²¹ 踊り字はMS-IMEおよびATOK（いずれも現行のWindows PCで問題なく動作するもの）では、通常「おなじ」を変換すれば出すことができる。

²² なお、「くの字点」については公式に説明がなされていないが、『太陽コーパス』では「たまたま」であれば「たま～～」というように「～～」で代用されているようである。「ひとびと」など連濁する場合は「～^ゝ」が基本であるが、「がらがら」のように後藤が濁音である場合は「がら^ゝ」「がら～^ゝ」いずれの表記も見られ、注意が必要である。

²³ 項目など異なる部分もあるが、先に紹介した「ひまわり」の場合、①検索結果を「名前を付けて保存」する（テキストファイルができる）②できたテキストファイルを開く③すべて選択しコピーする④Excelに貼り付ける というように4段階の行程を行う必要があるが、「たんぼぼ」の場合はこの①～③までをワンクリックで行ってくれるということになる。



画像6 「たんぼぼ」検索結果画面

ただし、こうしただけではキーの部分がセル分けされていない点が不便である。対処法として、(検索文字列が複雑な場合など用いられないこともあるが) 以下のような方法がある。まず、検索結果を Excel に貼り付けた後、ファイル種別を xls ではなく csv (カンマ区切り) として保存する。そうしてできあがった csv ファイルをサクラエディタ等の正規表現に対応したテキストエディタで開き、置換機能を使ってキーの前後に半角カンマ “,” を挿入する (この詳細な方法および csv に関する説明については中山編 2009:96、2010:110 などを参照)。完了後、上書き保存してから Excel を使って開くとセル分けがされている。

<利用上の注意>

ほとんどの正規表現が利用可能であるが、半角の丸括弧 “()” は不可である。メイン画面上部にある **[正規表現について]** ボタンをクリックすると詳しい説明が読める (この機能を利用すると確認できるが、「ひまわり」の場合と同様、正規表現 “[一・龠]” ですべての漢字を網羅できる)。

検索条件の漢字表記については、「ひまわり」と同様、**[字体変換]** ボタンをクリックすることで字体の変換が可能である。ただし、“[]” で複数の字体が指定された場合は、やはり他の正規表現に干渉しないよう工夫する (たとえば、先述のように“根[元[本本]]”は“根[元本本]”に修正する) 必要がある。

柔軟で有用な機能が多い反面、外字の扱いに関しては少々弱いという欠点がある。具体的には、「ひまわり」のように外字を別字体に自動変換してくれないため、「利用方法」の項で述べた方法だと、検索結果に含まれる外字はすべて“=”に置き換わって表示されてしまう。対処法として、結果の画面をドラッグして選択してコピーし、Excelなどに貼り付けるとルビや外字（画像ファイル）を保ったまま保存することが可能であるが、必要に応じて出典情報その他をセル分けする等の編集を強いられ、少なからず負担になる。

このように、「ひまわり」「たんぼぼ」はそれぞれに一長一短であり、必要に応じて使い分ける、また2種をうまく連携させて用いることが肝要になる。熟字訓などにより表記が多岐にわたりうる語を検索する場合などは、「たんぼぼ」の[ルビを開いたテキスト]オプションを利用して異表記の可能性を確認し、最終的に「ひまわり」で検索を実行する際の条件を決めるといった流れが考えられる（詳しくは次章で扱う）。

4. どうやって使うの？—発展編：「プリズム」の便利な機能—

上述の2ツールどちらを利用しても、得られた用例は掲載号・記事名などの情報と併せて保存することができる。したがって、必要に応じてそれらの情報を元に本文を参照することが容易になる。本節では、閲覧・変換ツール「プリズム」を使った本文データの参照方法およびその応用について概説する。

4.1. 本文を直接閲覧するには？

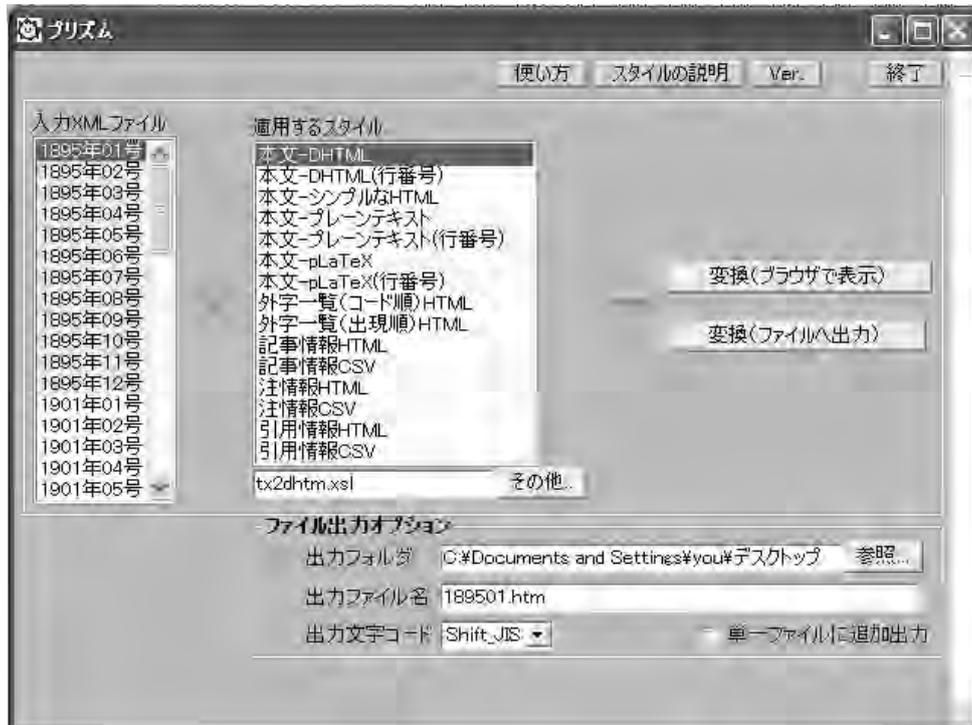
本文を参照する場合、有用なのが閲覧ツール「プリズム」である。「たんぼぼ」と同じく「XMLファイルを直接利用するためのアプリケーション」下部の“XML/Prism.hta”をクリックして起動し（画像7）、使用する。

本文を直接開きたい場合、ファイル形式としては“DHTML”または“(シンプルな)HTML”のいずれかを選択する。前者のほうが利便性その他において優れているため、今回は前者に絞って解説する²⁴。

表示したい号数をクリックした後、位置情報（行番号）の要否に応じて“本文-DHTML（行番号）”“本文-DHTML”のいずれかを選択し、[変換（ブラウザで表示）]のボタンをクリックすると、ブラウザが立ち上がり、まずはその号の目次が表示される（画像8）²⁵。記事タイトルの上にある[開く]ボタンをクリックすると、記事毎に閲覧することができる（画像9）。

²⁴ 後者については、本文中に外字が表示されない（したがって、4.2.で述べる外字一覧を別途表示するなどの手間がかかることがある）など不便な点が多い。

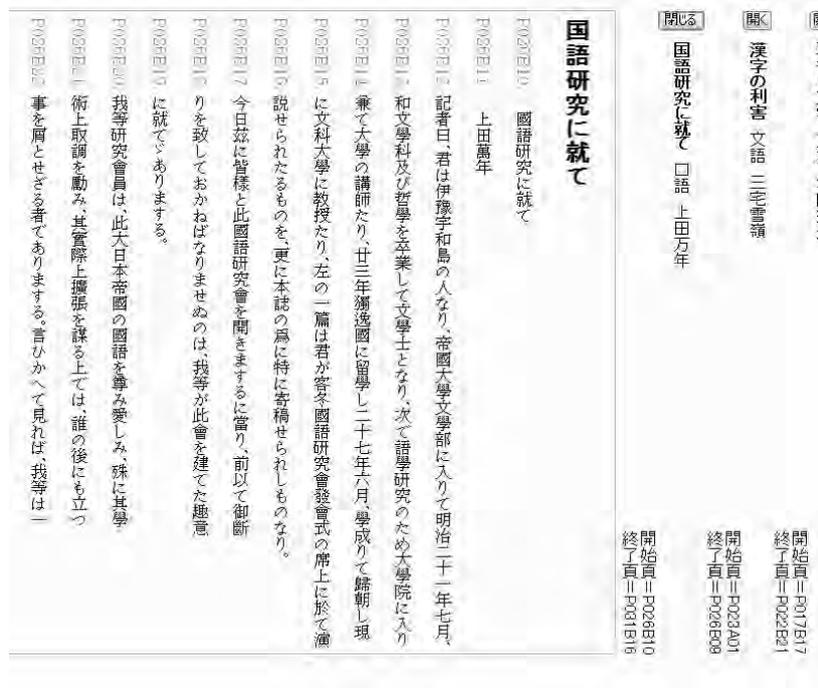
²⁵ 環境によってエラーが発生し、表紙から本文を（画像9のように）開けないようになるなどする場合がある（Windows Vista以降では、表示されたDHTMLが正常に動作しないことが多いようである）。その場合、後述（4.5.）するようにDHTMLをいったん保存してから開くようにすると解決する場合がある。



画像7 「プリズム」メイン画面



画像8 DHTML表示 (一部)。目次が表示され、上部「開く」ボタンをクリックすると記事毎に閲覧可



画像 9 記事を開いた状態。先頭の行番号の有無は変換時の設定で選択可

4.2. JIS 外字を確認するには？

『太陽コーパス』の XML ファイルでは、原典に JIS（第一・第二水準）外の字が含まれていた場合、以下の (A) (B) いずれかの処理が施されている。

- (A) 同範囲内の他の字で補える場合：それに置き換えられている。
- (B) 同範囲内に置き換えられる字がない場合：特殊なタグ付けがなされる。

検索範囲に (A) (B) のパターンの文字が含まれていた場合、検索ツールの検索結果画面では画像ファイルで補われるが、テキストファイルなどにペーストすると (A) は置換可能な字に、(B) は “=” に、それぞれ置換されてしまう（「ひまわり」利用時。「たんぼぼ」の場合はどちらも “=” に置換）。

これらが元々どういう字であったのかを個別に確認したい場合は、「プリズム」の「適用するスタイル」に「外字一覧（コード順）HTML」または「外字一覧（出現順）HTML」を指定して表示すると便利である。通常であれば後者の方が便利であろう（なお、表示までの流れは DHTML の場合と同様なので割愛する）。

4.3. 原典のエラーを追うには？

『太陽』の特に初期の号には濁点の脱落、誤字などの問題が少なくないが（田中・小木曾 2000）、検索時にはそれらが修正された状態のデータが対象になる。そうしたエラー箇所

が原文でどのようになっていたかはタグに明記されており、DHTML 上でも確認できる（該当箇所が青字で表示されており、カーソルを合わせると画像 10 のようにポップアップで表示される。この場合、原文では「ゞ」となるべきところの濁点が脱落し「ゝ」となっている旨が表示されている）が、やはり検索結果を保存したテキスト・エクセルのファイル上では視認できなくなってしまう²⁶。こうしたエラー箇所だけを一覧したい場合は「プリズム」の「適用するスタイル」に「注情報 HTML」を指定して表示することで可能になる。



画像 10 注記のポップアップ (DHTML 上で表示)

4.4. その他の情報を一覧するには？

他者の著作・講演などからの引用や小説の会話文など、書き手自身の手になる本文（ないし地の文）以外の発言・発話の箇所は、「ひまわり」「たんぼぼ」いずれのツールを用いても検索結果のデータに明示される。これらの情報のみを抽出する必要はあまりないかもしれないが、他の情報と同様に「プリズム」を使って一覧することも可能である（「プリズム」の「適用するスタイル」に「引用情報 HTML」を指定）。

また、各号に収録された記事の内訳については、基本的に DHTML 上の目次で事足りるが、これらのみを抽出したければ「記事情報 HTML」を表示することもできる。

4.5. 「プリズム」は毎回起動しないとイケないの？

以上で述べた閲覧の用途以外に、指定した号の本文や、各種情報（4.2-4.4.で紹介したも

²⁶ ただし、「ひまわり」使用時は、検索キーの範囲にこうしたエラーがあった場合に限り「原文」の項目に「原文ママ」の表記が示される。

の) をテキストファイルなどに変換して保存することも可能である。また、逐一「プリズム」を起動して DHTML を表示させる手間を省き、すぐに必要なファイルを開けるようにしたい場合、DHTML ファイルを保存しておくという使い方もできる。

方法としては、号数・ファイル形式を選んだ後、「変換 (ブラウザで表示)」ボタンの代わりに「変換 (ファイルへ出力)」ボタンをクリックするだけである。この場合、Ctrl キーを押しながら号数をクリックしていくと複数の号を同時に選択することも可能である。

なお、各種情報をファイル出力する場合は、いずれも“HTML”より“CSV”を選んで出力した方が Excel への展開が容易であり (直接 Excel で開いて処理できるファイルが得られる)、利便性が高い。

「変換 (ファイルへ出力)」を選択した場合、デフォルトであればファイルはデスクトップに一括して保存される。必要に応じて、画面右下の「ファイル出力オプション」でファイル名²⁷や保存先などが変更可能である。

なお、ファイル出力の場合に限り、複数の号を同時に出力したり一つのファイルにまとめたりすることが可能である。Ctrl キーを押しながら対象とする号数をクリックしていき、「変換 (ファイルへ出力)」ボタンを押す (なお、こうして複数号を選択した状態では「変換 (ブラウザで表示)」ボタンはクリックできなくなる)。



画像 11 複数号のデータを一括出力

²⁷ 初期設定では年次+号数を 6 桁の数字で表したファイル名の htm ファイルとして出力される。たとえば、1895 年 1 号は“189501.htm”となる。ファイル名を任意のものに変更する場合は数字部分のみ編集し、ファイルの拡張子を表す“.htm”には変更を加えないよう留意する必要がある。

このとき画像 11 のように画面右下の「単一ファイルに追加出力」チェックボックスがオンになっていれば 1 つのファイルにまとめられ、オフになっている場合は選択した号数分のファイルが別々に生成される²⁸。

5. 『太陽コーパス』の限界

前節までで、『太陽コーパス』の基本的な利用方法について概説した。実際には、各ツールには上述した以外にも様々な機能・設定項目があるが、ここでは省略する。

同コーパスおよび付属のツールをどういった研究に利用しうるかについて、具体的なところは「第2部 ケーススタディ」に譲るが、一つの指標として「〇〇表現の歴史的推移を見る」というような、特定の文法形式一般をくまなく観察するような用途には往々にして向かないということが言える。

たとえば、受身文の用例を **grep** で採集する場合、新字新仮名で書かれた現代語を対象とするのであれば、“[かがさたなばまらわ]れ”で絞り込めば（無論、多少とも関係ない例が混ざるので手動で取捨選択する必要はあるが）用例を集めるのは比較的容易である。一方、『太陽コーパス』に関しては、この条件だけでは限られた範囲、すなわち、口語の例のうち現代語と仮名遣いが共通のものしかヒットしないことになってしまう。

旧仮名遣いでは「言う」ではなく「言ふ」であり、その受身形は口語であれば「言はれる」であるが、文語の場合は「言はる」である。こうした例は上述の、現代語の受身文を採る場合と同じ検索条件ではヒットしない。加えて、受身文全体を扱うのであれば「打たる」「放たる」などの例も当然採ることになるが、それらを意図して「たる」「たれ」を条件に含めることは、とりもなおさず「堂々たり」などのタリ活用形容詞（および助動詞「たり」）の連体形や命令形といった無関係な例が大量にヒットすることを意味し、途方もないゴミ捨ての作業を強いられることになる。さらに言えば、「ルビ」検索で「うた」を見ると当時は「打る」のような表記がされている場合もあるが、このようなことをも一々の語について意識しつつ「受身文全体」のような広範にわたる検索を行うのは現実的ではない。使役文などについても同様の問題が指摘できよう。

文語と口語の入り交じる資料について一般論的なことを扱おうとした場合、上述の受身の場合のように非現実的とは言わないまでも、極めて高度な条件指定が必要になることが少なくない（たとえば、小木曾 2002:130 では、単純語に対応する可能動詞の実例を極力漏れのないよう採る目的で、1143 字に上る正規表現が用いられている²⁹）。国立国語研究所編（2005）に収録されている論文が多くそうであるように、対象となるデータの膨大さを考

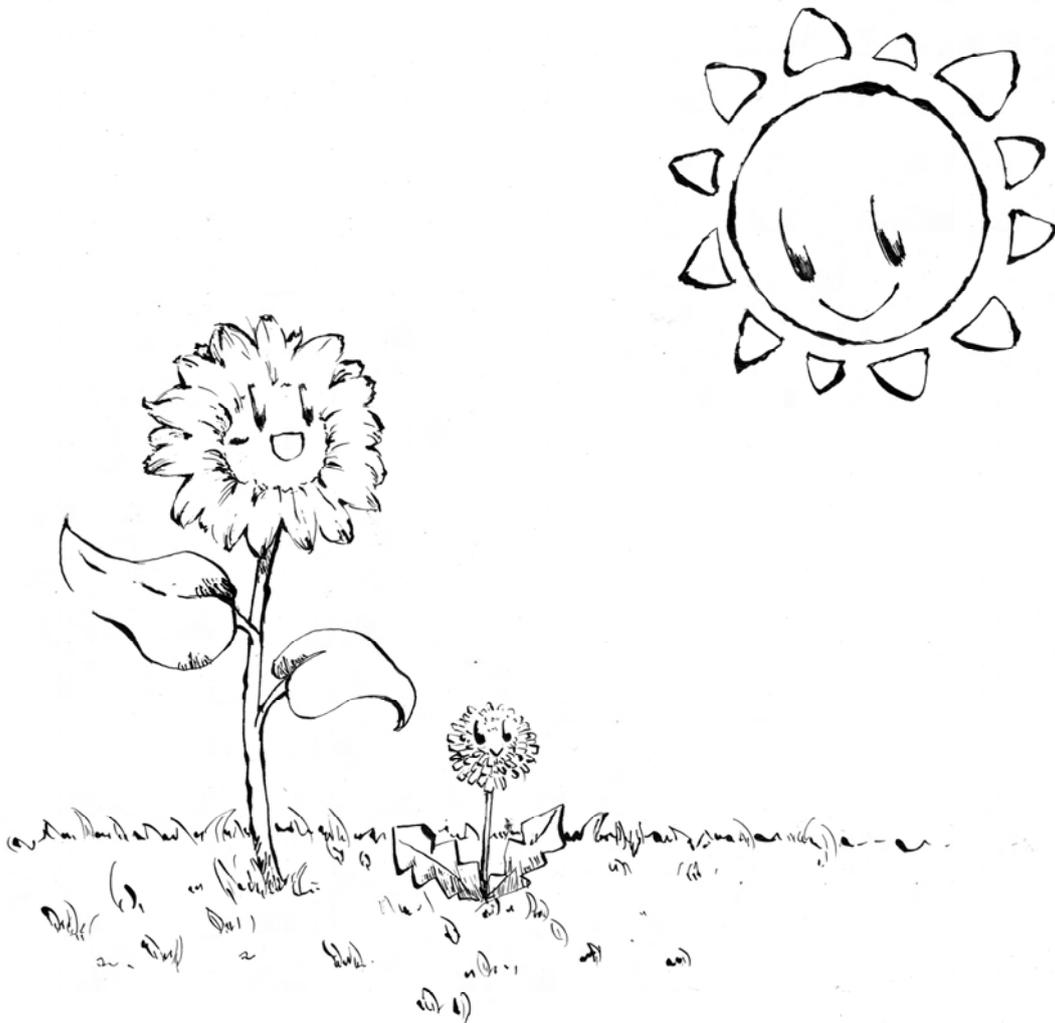
²⁸ この場合、ファイル名は“189501.htm”“189502.htm”……のように年次+号数を 6 桁の数字で表したものに固定され、変更できなくなる。

²⁹ 小木曾氏は後続する仮名別に条件を設定しているが、たとえばア行ハ行五（四）段活用動詞に対応する可能動詞を検索するだけでも“**[逢扱罌謂窺唄云厭沿歌会鑑願希揮疑擲吸救糾給競狂喰遇憩敬結嫌遣言屢乞抗構行購合同使思支賜飼失杓呪拾習臭襲集祝潤償商笑拭食醉誓請占宣戰洗繕狙争装遭諾奪担逐弔追通敵艦闕匿句能培買這伴煩庇被漂負舞覆弘奮補慕傲報縫訪迷貫問誘備誦養恋勞弄賄惑會冀勞圍從戀戰擔拂撓攫浚渌爭槁篩絢銜裝詛詔諛譎躑躅隨醉圖][えへ]**”という極めて長大な条件になっている。

えれば、語レベル³⁰、あるいは範囲の決定しやすい語彙レベル³¹での分析が基本線ということになる。また、そうした場合でも、先述(3.1.)の「ルビ」検索の活用、あるいは『岩波国語辞典 第五版』を用いて異表記の可能性を逐一考慮した小木曾(2002:126)のような努力は不可欠になる。

6. 結び

以上、本項では、『太陽コーパス』の概要と、利用する際の注意点などを紹介した。次項では特に重要な問題を多く含む表記のバリエーションの検討について、さらに詳しく解説する。



³⁰ 「掠奪」と「奪掠」、「現出」と「出現」のペアに関する研究や、副詞「とても」や接続詞「そして」に関する研究など。なお、「そして」の例として「ソシテ」が3例、「ソして」も1例のみであるが現れているという事実から、ひらがなとカタカナが混在する可能性を常に考慮する必要がある（こうした問題については次項で詳しく扱う）。

³¹ たとえば漢語形容詞「非○○な/なり」に関する研究など。

第2章 解説 異表記の検討について

—戦前の書き言葉における旧字旧仮名と表記揺れ—

『太陽コーパス』を含め、いわゆる旧字旧仮名の資料を対象として用例を収集するにあたり、異表記、特に漢字表記のバリエーションが問題になる場合がある。本項ではそうした問題について、用例収集時に確認すべき事項、行うことが推奨される行程をまとめたものである。なお、言うまでもなく本書第Ⅱ部のケーススタディにおけるデータ収集はすべてこれらに留意しつつ行われたものである。

旧字旧仮名および擬古文という表記体系・文法体系の問題は、コーパスを用いたデータ収集・分析に限らず、国語学・日本語学の古典として研究者には必読と言える山田孝雄・松下大三郎らの著作を読む上でも避けて通ることのできないものである。以下ではそうした文章に触れる際に留意すべきことから全般について、主として『太陽コーパス』を用いた用例収集を例に取る形で説明する。

1. 仮名遣いの問題

1.1. 文語と旧字旧仮名

明治～昭和前期（おおむね終戦まで）の日本語の表記は、基本的に旧字旧仮名である。当時はたとえば「ゐる（居る）」「こゑ（声）」のように、現代では通常用いられないような仮名や、「まゝ（→まま）」「タゞ（→タダ）」のようないわゆる「踊り字」など、現代日本語の話者から見れば馴染みのない文字が少なからず用いられている。また、文語・擬古文を中心に、カ行上二段「生く」やマ行下二段「始む」のように、今では用いられないような動詞の活用が残っていることがある。ハ行四段「言ふ」などについては、（たとえば「言はう」と書いていても発音上は[イオー]であったように）表記に限った問題ではあるが、口語・文語の別を問わず現代語とは異なる活用型を見せている。

『太陽コーパス』の収録対象となっているのは明治末期から昭和初期までの書き言葉であり、すべてこうした問題が関わってくるものである。

これら近代語の用例を収集する上で、踊り字については適宜気をつけていれば問題ないが、活用などの問題については見当が付きにくい場合も多々ありうる。そうした場合は、まず国語辞典が有用である。多くの辞典において、現在通用の語については文語および旧仮名遣いと異なる点を確認できるように旧仮名の表記などが付記されている（たとえば『広辞苑』で「こえ」を引くと「コエ（こゑ）」というように）。また、文語の活用語の例のうち、特に現代語と活用の体系そのものが異なると言える下二段・上二段に関しても注記がある（たとえば「はじめる」には「文はじ・む（下二）」と付記されている）。これらは『太陽コーパス』の用例を収集する前の確認作業には大いに役立つものであるが、たとえば「毅

然たり」「美しからず」といった形容詞の活用など、文語と口語で異なる点について辞書だけでは分からない場合もあるので、別途古語辞典や古典語の入門書などを用いて確認・検討する必要が出てくることもある。

1.2. 『太陽コーパス』における仮名遣いの揺れ

旧字旧仮名・文語と口語といったことは戦前の全年代を通じて問題になるが、必ずしもすべてのデータについて規範的な旧仮名遣いが遵守されているわけではないので注意が必要である。たとえば一段動詞に後接する助動詞「よう」であるが、『太陽』の発刊当時としては「(あげ) やう」のような表記が基本ではあるものの、『太陽コーパス』での使用実態を見てみると「(食べ) よう」の表記も全年にわたって観察される。

また、促音の表記についても問題になる部分が多い。「っ」をキーとして本文を検索すると71件、「ッ」では942件ものヒット数がある。この事実は、特に外来語を中心としたカタカナ表記において「ツ」と「ッ」の役割がすでに分化し始めていたことを示唆するものである。いずれの字もほぼすべての年代に見られ(ただし「っ」は1925年のみ見られない)、発音上(=現代語の、新字新仮名における表記上)促音を含みうる語の検索に際しては、「っ」「ッ」「ツ」「ッツ」のいずれも考慮に入れなければならないということになる。

このように、対象とする資料にもよるが、基本的には新旧仮名遣いをもれなく考慮する必要があるということが言えよう。

なお、現代語において「漢字・仮名混じり文」と言えば当然のように漢字・ひらがなの混在した文(表記)が思い浮かべられるであろうが、当時は漢字・カタカナ混じり文も混在している。また、国立国語研究所編(2005)では「そして」の例として「ソして」のような表記も見られるように、ひらがなとカタカナが入り混じる可能性もゼロではない。どのような語・形式の例を収集する場合であれ、こうした問題も考慮しつつ検索を行わなければならない。

2. 表記のバリエーションの問題

2.1. 漢字表記

検索の際、注意する必要があるのは異表記の問題である。たとえば現代語では形容詞「はやい」の漢字表記として「早い」「速い」「疾い」「捷い」の4つが考えられるが(『広辞苑』および『大辞林』に掲載の表記)、当時はさらに様々な表記がされている。

このことを確認するには、「ひまわり」のルビ検索や「たんぼぼ」の「ルビを開いたテキスト」の機能などを用いる。後者の方法は環境によって正常に行えないほどシステム負荷が高くなるため、基本的には前者の方法を推奨する³²。

たとえば「はやい」の場合、まず、漢字表記される際には送り仮名の手前の漢字要素を

³² ただし、いわゆる熟字訓の問題以外を考慮する必要がある場合は「たんぼぼ」でしか検索できない(詳細は「概説」を参照のこと)。その場合、前述のように数号分ずつ分けて行う必要が出てくる。

「はや」と読ませるものが基本となる。したがって、まずはルビの中でもカタカナ表記やひらがな・カタカナが混ざった表記がされる可能性も考慮した上で検索条件を“[はハ][やヤ]”で「ルビ (完全一致)」検索を行い、結果を Excel などに保存した後、関係ない例を排除しつつ「はやい」の異表記をリストアップしていく。この際、後続文脈でソートすると、「い」「さ」「し」……のように関係しそうな文字列ごとにまとめて確認していけるので、見落としが生じにくい (画像 10)。



画像 10 ルビ検索による異表記の検討

このように検索を行った結果、上記の 4 通りに加え「敏い」「迅疾い」「逸き」「夙く」「迅さ」といった表記で「はや」と読ませる例が見出され、「はやい」の表記として 9 通りが想定されることになる (さらに別途送り仮名の問題も考える必要があるが、このことについては次項で述べる)。

注意しなければいけないのは、この時点でヒットしているのは「はやい」(および「囃し」「流行る」など一部の関係ない例) の一部に過ぎないということである。『太陽コーパス』では文学作品についてのみルビが反映されており、それも原典にルビがなかった分についてはその限りではない (小木曾 2009)。バリエーションという言葉で言えば文学のジャンルが最も豊富であると考えられるため、ルビ検索機能を用いることで同コーパスの収録範囲における表記の可能性は可能な限り「検討した」ことにはなるであろうが、それだけで同コーパス全体を網羅的に「検索した」ことにはならないのである。したがって、こうして得られた異表記のバリエーションを元に、本文全体を検索するための(「本文」または「本文(正規表現)の)条件を改めて設定し、検索を実行しなければならないということになる。

ここで、たとえば名詞に転成した「はやさ」の検索を行う場合、条件は以下のような（形容詞全般を採る場合については語尾の部分も複雑になるためここでは扱わない。詳しくはケーススタディの該当する項を参照されたい）。

〔敏|逸|夙|疾|迅|早|速|捷|はや|ハヤ|はや|ハヤ〕〔さサ〕

なお、「かんがへる（文語では「かんがふ」）」などは「かん（む）が」と読ませる字の直後に来る文字としては「ふ/フ」「へ/へ」の他、「み（←^{かんが}鑑み）」などごく限られたものしかないように、他の語との混同が起りにくい。このような語の場合は、ルビ検索の際に後続文脈でなくキー（この場合、読みが問題となる漢字）でソートするのが有効な場合もある。

語によってはこうした表記確認の作業だけで数時間かかることもあるが、自分の研究を深める上でも大いに役立つことなので真摯に取り組むべきである。

その他、「熱爛でいっぱい飲ろうか。」のような当て字も問題になる場合があるが、今回は割愛する。

2.2. 送り仮名の揺れ

漢字表記については、多くの場合は以上の方法で検討することができる。ただし、現代語ではあまり見られない表記揺れの問題として、送り仮名の揺れの問題がある。

現在の送り仮名は、昭和48（1973）年の内閣告示において定められたものである（『現代仮名遣い』に関する内閣告示及び内閣訓令について）：http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19860701002/t19860701002.html なども参照）。特に戦前は、送り仮名は現在の書き方に比べて少なく、読み方の混同³³などをいとわず使用文字数を節約する傾向にあったようである。

たとえば、「思ひ」と書いて「おもひ」と読ませる例も当然あるが（2897件ヒット）、同様に「思」だけで「おもひ」と読ませる場合もあるということである。実際に「ルビ完全一致」で「おもひ」を検索すると、221件がヒットする（うち189件が「思」、7件が「想」）。こうしたことは動詞の場合、主として連用形（あるいは連用形から転成した名詞）において問題となり、他の活用形ではあまり見られないが、「おも【はふへつ】」で「ルビ完全一致」検索をしても7件はヒットするように、完全に無視していいわけではない。

また、逆に「考がへる」「働らく」のように、一部で現代より送り仮名が余計に用いられる例もありうる。

このような揺れ（送り仮名が用いられず、漢字だけで表記されてしまうような場合および送り仮名が現代より多いパターン）についても別途検索して確かめるか、「ルビ（完全一致）」だけでなく「ルビ（部分一致）」での検索も併用するなどして漏れが出ないように気を

³³ たとえば「後」→「うしろ」「あと」……など。

つける必要がある。先述の「はやい」についても、たとえばルビ完全一致で「はやし/はやく/はやく……」などの検索（送り仮名が少ない場合）や、ルビが「は（ハ）」・後続文脈の開始文字が「や（ヤ）」の検索（送り仮名が多い場合）についても行う必要があることになる。こうした問題を一括して処理する上では「ひまわり」のルビ検索よりも「たんぼぼ」の「ルビを開いたテキスト」検索の方が採り漏らしも起こりにくく無難な場合もある（検索文字列は単に“[はハ][やヤ]”とすればいいであろう。ただし、「たんぼぼ」を用いる場合はマシン負荷を考慮して数号分ずつ小分けにして行う必要があるため、手間と時間はかかる）。

このように、様々な表記の揺れを意識しつつ検索条件を定めていかなければならない。これは、言うまでもなく、扱う対象の品詞を問わず気をつけるべきことである。

3. おわりに

以上、『太陽コーパス』の用例収集において考慮すべき表記の諸問題について概説した。第Ⅱ部のケーススタディと併せて参照しつつ、用例の収集・整理に役立てられたい。



[第 I 部 参考文献]

- 小木曾智信 2002「近代語テキストからの可能動詞の抽出—『太陽コーパス』を例に—」『明
海日本語』第7号
- 2009「コーパスを利用した近代語研究～太陽コーパスと近代文語 Unidic」東
京外国語大学大学院 GCOE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」2009
年度第6回講演会配布資料（2009年12月2日 於 東京外国語大学語学研究所）
- 国立国語研究所（編）2005『雑誌『太陽』による確立期現代語の研究—『太陽コーパス』
研究論文集一』博文館新社
- 田中牧郎・小木曾智信 2000「総合雑誌『太陽』の本文の様態と電子化テキスト」『日本語
科学』8 国立国語研究所
- 中山健一編／早津恵美子監修 2009『論文執筆支援シリーズⅡ 外大生のための日本語研究
ガイドブック』東京外国語大学大学院地域文化研究科 グローバルCOEプログラム「コ
ーパスに基づく言語学教育研究拠点」.
- 中山健一編／早津恵美子監修 2010『論文執筆支援シリーズⅣ 外大生のための日本語研究ガ
イドブック—増補改訂版 2010—』東京外国語大学大学院総合国際学研究院 グローバ
ルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」.

第Ⅱ部 ケーススタディ



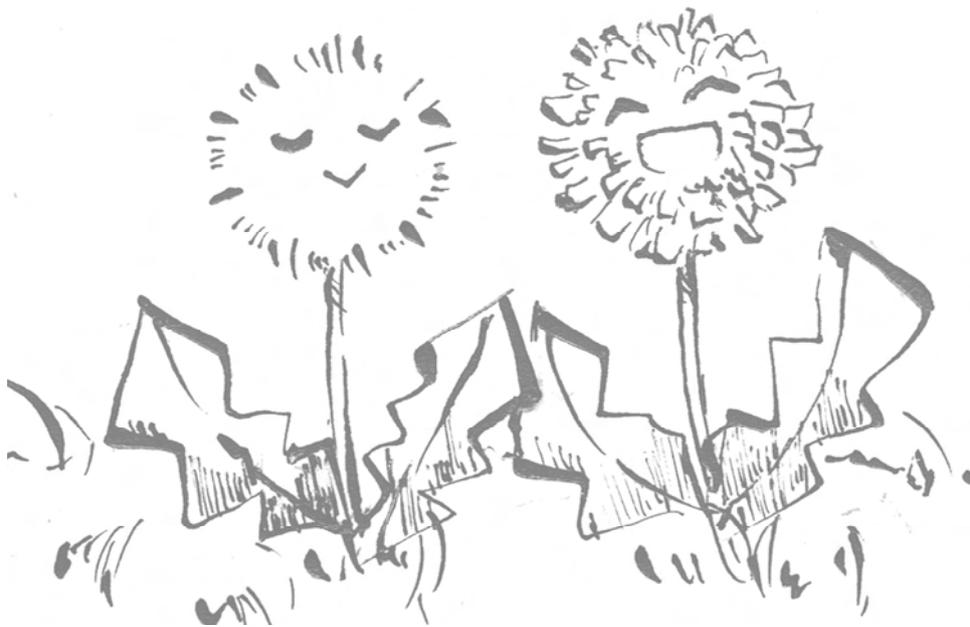
序 データ収集の実践について

本書の分担者は、第 I 部で解説したような『太陽コーパス』の諸特徴、注意点について十分に理解した上で、活用語・無活用語をバランス良く検討できるよう設定された 12 のテーマから各人 1 つを選択し、検索条件の検討・設定と検索、データの整理を行った。以下、それぞれの行程の実践について、分担者から寄せられた報告を掲載する。

なお、本書の成果を踏まえた、『太陽コーパス』のデータに基づく研究論文集を近く刊行予定であり、これらのデータはその際に利用される予定である。したがって、読者諸氏においてこれらをそのまま個人の研究に利用されるようなことはご遠慮いただきたい。



第 1 章 無活用語編



第1節 「外国人」「外人」など

金 俸呈

1. 収集の目的

『太陽コーパス』(利用した検索システム:「ひまわり」「たんぽぽ」)を用いて、「外国人」¹と「外人」の語彙的な意味の変化や時代別用例数の推移を調査することを目指して「外国人」と「外人」(また、関連する語として、「異人、異邦人」のような類義語、「土人、土民」のような語彙的な意味の面に対立する語)の用例収集を行なう。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

名詞の検索であったため、用言のような活用がないという点では検索は比較的容易であった。ただし、検索に先立って次のような点を確認した。

a. 検索システム「たんぽぽ」での検索の際、対象とする雑誌を3号ずつ程度に分けて検索する。

「全号」を対象に検索すると、検索される語の量が多くて止まってしまったりエラーが出たりするおそれがあるので、少しずつ分けて作業するようにした。

b. ひらがな、またはカタカナ表記の可能性を確認

「たんぽぽ」を用いて「ルビを開いたテキスト」という条件で [がガ][いイ][ココ][くク][じジ][んン] および、[がガ][いイ][じジ][んン] を検索したが、ヒットしなかった。

c. 「外」の読み方、および、表記法が二つ以上混合している可能性を確認

本文を読んでみて、「外国人」「外人」の「外」の読み方に関しては、「がい(ガイ)」以外にも、「ぐわい(グワイ)」または「ぐわい(グワイ)」の可能性があると判断した。また、ルビがカタカナ、あるいはひらがな・カタカナの混合である可能性があるかと判断した。例えば、「グワイコクジン」「グワイジン」のようにカタカナで表記されている場合、あるいは、「ぐわ」「ぐっ」「ぐわ」「ぐわ」のようにひらがな・カタカナの混合で表記されている場合が考えられる。これらを考慮して、「たんぽぽ」で「ルビを開いたテキスト」という条件で、[ぐグ][わわワ][いイ][じジ][んン] および、[ぐグ][わわワ][いイ][ココ][くク][じジ][んン] で検索した。

その結果、二つ以上の表記法が混合しているものはないことを確認した。ただ、「外」が「ガイ」以外のよみ方で表記されている場合はいくつかあった。「ぐわいこくじん」(6例)

¹ 「外国人」の旧字体における表記である。検索システム「ひまわり」の字体変換で表記できる。2.2.を参照。

と「ぐわいじん」(1例)である。ただし、いずれも「外国人」「外人」検索から出た例と重複するものであった(詳細は2.3の「◆「たんぼぼ」の「ルビを開いたテキスト」での検索」を参照)。

d. その他

①今後の分析のために「外国人」「外人」に関連する語を検索する。

「外国人」の類義語として【異人】【異邦人】(補助資料①)、「外人」の(現在の使い方を考慮した類義語として)【西洋人】、またそれと関連して【東洋人】【亞細亞人】(補助資料②)、「外国人」と「外人」の反対語として【土人】【土民】(補助資料③)という七つの名詞を検索し、三つの補助資料を作った(類義語の選定には、Yahoo! 辞書(武部良明(2004)『必携 類語実用辞典 新装版』)を参考にした)。

②参考までに「人」がつく漢語を検索する。

「人」がつく漢語にはどのようなものがあるか参考までに[一龠]人 で検索した。[一龠]はすべての漢字を範囲とするための検索条件で、[一龠]人 という条件では、「人」の直前になんらかの漢字があらわれるもの、つまり、漢字で表記される「〇〇人」を網羅的に検索することができる²。

このような検索で、露西亞人/魯西亞人/亞刺比亞人/亞細亞人/伊人/亞刺伯人/佛人/南人/唐人/英國人/米國人/我國人/李國人/佛國人/独逸國人/清國人/魯國人(中国人)/露國人/伊國人/甲國人などがヒットした。この結果をもとに、【西洋人】と関連する語として、【亞細亞人】という語も検索する必要があると判断し、補助資料②に付け加えた。

ただ、この検索条件では、カタカナ表記の「〇〇人」はとることができない。今回は、類義語の資料収集においてカタカナ表記の「〇〇人」は考慮できていない。今後、上の検索で出てきた漢字表記の語のうち、分析対象とする語のカタカナ表記を一つ一つ検索する必要も出てくるかもしれない。

2.2. 検索の実行

以上を踏まえ、検索システム「ひまわり」を用いて「本文(正規表現)」に、「外国人」「外人」という漢字表記を入力して検索した。「外国人」に関しては、「外国人」と書いて「字体変換」の機能を用いた。なお、前文脈・後文脈は特に指定しなかった。

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

2.2.で設定した条件で検索した結果、「外国人」は444例が、「外人」は426例がヒットした。そのうち関係のない例を次のような手順で除外した。

² 正規表現 “[一龠]” については、p.12 も参照。

- ①「ひまわり」での検索結果をテキストファイルとして保存(ファイル→名前を付けて保存)する。
- ②Excel を使って、そのファイルを開く。以下の手順は、Excel で、テキストファイルを Excel ファイルとして開く方法の一つである。

「ファイル(F)」→「開く(O)」→「ファイルの種類」プルダウンで「テキスト ファイル(*.prn; *.txt; *.csv)」を選択し、保存するテキストファイルを選択する

↓

「テキスト ファイル ウィザード-1/3」のウィンドウが表示されたら「次へ」をクリックする

↓

「テキスト ファイル ウィザード-2/3」のウィンドウが表示されたら「区切り文字」の中の「タブ」のチェックボックスをオンにして「次へ」をクリックする

↓

「テキスト ファイル ウィザード-3/3」のウィンドウが表示されたら「完了」を選択する

※以上の手順を経ることで、Excel 上で「ひまわり」の検索結果画面と同じように各項目がセル分けされた状態になる。

- ③Excel 上でデータを最初から読みながら、関係ないと判断される例がキーになっている行を削除する。
- ④データの取捨選択、調整が済んだら、そのファイルを Excel ファイルとして保存する(ファイル→名前を付けて保存：ファイルの種類を「Microsoft Office Excel ブック(*xls)」とする)。

検索対象の語列のヒット数と対象外の用例数、および対象とする用例数を示すと以下のようになる。

表(1) 検索結果

検索対象の語	ヒット件数	対象外の用例数	対象とする用例数
外国人	444	—	444
外人	426	62	364

- ◆「外国人」で検索してヒットした 444 例のうち、関係ないものはないと判断した。

◆「外人」で検索してヒットした 426 例のうち、関係ないため削除したものは 62 例である。
以下、その内訳を示す(例の後の括弧に年/記事名/著者名を示す)。

①ないがいじん(内【外人】):「外人」ヒット 426 例中 51 例

(1) (一) 京城には外国人居留地として定めたる區劃なし__京城は仁川、釜山及元山等の開港場と異なり外国人居留地として定めたる區域なく一般に内外人の雜居地にして本邦人は他の諸外国人と均しく城内何の地方と雖も其好む所に従ひ地所家屋を買求め…(1895/商業/*)

(2)…或は之を數重に賣渡し或は之を數人に質入し以て詐欺の手段を恣にする者あり本邦人も其の手段に陥り屢々紛議を生ぜしが昨明治二十七年五月當國政府は新に家券を發行し京城内に於て家屋を有する者は内外人の別なく凡て新家券を交付し從來各家屋に附屬せる舊文記は一切之を其筋に引上げ…(1895/商業/*)

(3)假に國內に於ける外人の犯罪を我刑法に據て處分するには別段明文あるを要せずとするも國外に於ける内外人の犯罪には果して我刑法を適用すべきや否や其幾分に付ては之を適用し…(1901/刑法改正非改正/岡田三面子)

※注意：次のような「何人の内、外人」の例を削除しないようにする。

(4)それによつて見ると、明治四十四年一個年の來客數は一萬九千二百十八人内外人二百五十六人、侯の外出された回数九十回、四十四年頃は侯も餘り得意の時代ではなかつたのにそれでもこれ丈の來客があつた。(1925/書翰礼讚(下)大隈家書簡の涉獵/市島春城談)

②かいがいじん(海【外人】):「外人」ヒット 426 例中 5 例

(5)…外品模造といふも妨げなし乃ち我美術品を以て齒科器械函、時計鎖、燐寸等と同格なりとせば海外人の目より見るときは品模の本は彼に在るを以て美術品も甚だ低度のものとなし之を輕視するは當然の事なりと商定せざるべからず…(1895/博覽会と美術/野口勝一)

※①と②は、今後、「外人」の類義語として考察してもよさそうなものであるが、「外人」の例ではないため、ここではいったん削除した。

③こくがいじん(國【外人】(國內人の反対語として)):「外人」ヒット 426 例中 1 例

(6)そして、各國外人に對しては、内國人に對し取引上、其他に於て、…(1925/明治初年外交物語(その四)八太郎の虎の巻/豹子頭)

④ ちゅうがいじん(中【外人】): 「外人」 ヒット 426 例中 1 例

(7) 日本人は武士道の徳義に於て世界の稱讃を得たれども其の實業道德に於て幼稚なること中外人の認識する所なり。(1909/太陽/浮田和民)

⑤ ないがいじんこう(内【外人】口): 「外人」 ヒット 426 例中 1 例

(8) 明治二十三年議會創設當時の我國の歳入歳出は僅かに一億六千萬圓内外人口は三千餘萬、領土も殆んど日本本土と北海道だけであつた。(1917/寒心すべき議会の現状/植原悦二郎)

⑥ ほかじんるいがく(【外人】類学): 「外人」 ヒット 426 例中 1 例

(9) この外人類學、人種學等の書が愛讀されるのは勿論である。(1925/最近の読者に顕はれた内的生活の諸相/今沢慈海)

⑦ あんがいじんしゅ(案【外人】種): 「外人」 ヒット 426 例中 1 例

(10) されど、其は感情又は煽動より來て居る附和雷同で、親しく労働者の状態を觀れば、歡然と手を握つて、案外人種上の毛嫌が尠い。(1909/排日問題の真相及其の将来/安孫子久太郎)

⑧ こうがいひとなきところ(郊【外人】無きところ): 「外人」 ヒット 426 例中 1 例

(11) …盧醫は欺きて我に隨つて我が庄上に來らば還すべしと云ひ、郊外人無きところに誘ひ行きて突然と繩を以て勒殺せんとす、…(1895/元時代の雜劇(六)/幸田露伴)

◆ 「たんぼぼ」の「ルビを開いたテキスト」での検索(2.1.の「c.」も参照)

「たんぼぼ」で「ルビを開いたテキスト」という条件で、[ぐぐ][わわわ][い][じ][ん] および、[ぐぐ][わわわ][い][こ][く][じ][ん] で検索した結果、「ぐわいこくじん」(6例)と「ぐわいじん」(1例)がヒットした(ただし、いずれも「外国人」「外人」検索から出た例と重複するものであったのでデータ全体の延べ語数に変更はない)。具体例としては次のようなものがある。

① ぐわいこくじん: ヒット 6 例(1917年: 3 例、1925年 3 例、三つの作品)

(12) 岡本^{をかもと}の一家^{いっか}について興味^{きょうみ}を持つ人^もをこの羅馬^{ろーま}で、然も^{しか} 外国人^{ぐわいこくじん}の間^{あひだ}に見出さ^{みだ}うとは偶然^{ぐうぜん}とは云ひながら夢^{ゆめ}にも期待^{きたい}してゐなかつたのである。(1917/イエッタトリイチエ/有島生馬)

(13) ^{ぐわいこくじん}外国人なる^{かのちよめ}彼女の^{にほん}目には日本の^{うつく}美しい^{をとめ}少女が^うどんなに^う寫つるであらうか。
 どのような^{ことば}言葉でその^{かん}感が^{いひあら}言表はされるであらうか。(1917/イエッタトリイチェ/有島生馬)

(14) ^{わか}若い^{ひとたち}人達ではあるまいと^{おも}思つた。^さ更らに^{ちか}近づいた^{とき}時^{ぐわいこくじん}外国人で^{らうじん}老人である
^{こと}事まで^{あきら}明かになつた。(1917/イエッタトリイチェ/有島生馬)

(15) ^も最一ツある。^{ぐわいこくじん}外国人だと、^{にほんじ}日本字の^{しんぶん}新聞は^よ讀めない。(1925/怪奇探偵 悪獣性の女/江見水蔭)

(16) 『^{かんしん}感心。^{ぐわいこくじん}外国人と^き氣が着いたのは^{ひじやう}非常に^よ好い^{あたま}頭だ。さすがは^{たんていぶんがくしや}探偵文學者
 だ……^{ぐわいこくふじん}外国婦人には^{びやくこ}白狐の^{かたかけ}肩掛をして^{べつ}みるのが^{おほ}別して多い。(1925/怪奇探偵 悪獣性の女/江見水蔭)

(17) ^{ちろちろ}チロチロ^{うごしろしろ}動く^み白さを見て、^{みやうてうくわいけん}ふと明朝會見の^{ぐわいこくじん}外国人との^{おもひだ}ことを^{おもひだ}思出すと、^{かれ}彼は^{かいぼうしつ}解剖室で^{しかばね}いぢる^{かち}屍ほどの^{みすご}價打もなく^{みすご}見過した。(1925/長篇小説 蛇人(第十二回)/三上於菟吉)

②ぐわいじん：ヒット1例(1909年)

(18) ^{ぐわいじん}外人の名ではない、つまり、何んでも屋だねえ。服から、靴から 鞆から、洋傘から、香水から、石鹼から、洗粉から、何んでも有る。(1909/喜劇 無能病/江見水蔭)

本節の最後に、参考までに、資料①、②、③にまとめたものの総数、および、削除した例を示す。

補助資料①

【異人】(4例)

◆関係ないため削除した例

①いじんしゅ(【異人】種):「異人」ヒット39例中33例

②どうめいいじん(同名【異人】):「異人」ヒット39例中1例

③いじんぶつ(【異人】物):「異人」ヒット39例中1例

【異邦人】(4例)

³ これは、今後「外国人」の類義語として考察してもよさそうなものである。今回は考慮できなかったが、今後の作業では「ぐわいこく」(即ち、「じん」は検索ワードに入れず)で検索して、このような類語語も収集する必要があると思われる。

補助資料②

【西洋人】(169例)

◆関係ないため削除した例

①とうせいようじんしゅ(東【西洋人】種):「西洋人」ヒット172例中1例

②せいようじんしゅ(【西洋人】種):「西洋人」ヒット172例中2例

【東洋人】(61例)

◆関係ないため削除した例

とうようじんしゅ(【東洋人】種):「東洋人」ヒット69例中9例

【亞細亞人】(17例)

◆関係ないため削除した例

あじあじんしゅ(【亞細亞人】種):「亞細亞人」ヒット25例中8例

補助資料③

【土民】(53例)

【土人】(360例)

◆関係ないため削除した例

①(水【土人】情):「土人」ヒット376例中1例

②(砂【土人】馬):「土人」ヒット376例中1例

③(彼【土人】土):「土人」ヒット376例中1例

④(風【土人】情):「土人」ヒット376例中6例

⑤(【土人】形):「土人」ヒット376例中3例

⑥(乙【土人】民):「土人」ヒット376例中3例

⑦(國【土人】民):「土人」ヒット376例中1例

3. 総括

検察システム「ひまわり」に関しては、前後の文脈の文字数を設定することができるが、文の途中だったりすることが多かったので、本文が直接閲覧できるということが非常に便利であった。

今回の検索から次のような分析ができると思われる。

①用例数の推移を考察することができる。

表(2) 用例数の推移

対象とする語		外国人	外人
検索総数		444	364
年度別数(%)	1895	119(26.8)	76(20.9)
	1901	120(27.0)	109(29.9)
	1909	69(15.5)	73(20.1)
	1917	89(20.0)	59(16.2)
	1925	47(10.6)	47(12.9)

②当時はどのような複合語があったのか考察することができる。

例えば、当時は「観光にきた外人」のことを「観光外人」と呼んでいたと思われる例があった。現代日本語の複合語には、例えば、「オペラ歌手」(オペラを歌う歌手)、「庭掃除」(庭を掃除すること)、「子供服」(子供が着る服)、「バスツアー」(バスでするツアー)など様々なものがある。しかし、「～にきた人」を表わすような複合語の作り方はあまり生産的には使われていない(*視察社員、*参列友人……)。そのような点で、当時の「観光外人」という複合語は現代語の語構成にはみられない特殊な例であると思われる。

(19)…世間或は移民の送金若くは観光外人の消費等を以て正貨吸収の原因中に數ふる者あるも、…(1909/財政、経済 外債増加と産業問題/本多精一)

③当時の「外国人」と「外人」との使い分け、意味の違いなどについて考察することができる。

現代語で「外人」ということばは、直感的に「(東洋ではなく)西洋からの人」という含意が多少とも出やすいと思われるが、当時は、西洋からの外国人のみではなく、外国からの人一般を指す場合にも用いられた場合もあったかもしれない。このことについて、現代語の書き言葉と比較することも有効であると思われる。

そこで「現代日本語書き言葉均衡コーパス」の検索デモンストレーション(<http://www.kotonoha.gr.jp/demo/>)を利用してみたところ(2010年9月25日検索)、サンプル(6種類のデータ合計4600万語)において「外国人」の検索ヒット数は2686例であるのに対して、「外人」の検索ヒット数は278例と両者の量的な差は大きく、「外人」の使用が「外国人」に比べるとかなり少ないことが分かった。現代の使い方を考察して、雑誌『太陽』発刊当時の使い方と比較することも意義深いと思われる。

(20)余は特に本誌の英文が日本人の手に成りしを悦ぶ、方今英文は世界到る所に行はれざるなし、故に日本の事情を外人に示すには、英文最も宜し、然れども若し外国人の手によりて之を爲さば、殆ど外国新聞を見ると同じく、日本の事情を知ること精しからざる故、讀…(1895/白耳義国全権公使ダヌタン氏の談話/太陽記者；ダヌタン(談))

(21)◎外人の來觀及び參拜章 外国人にて來觀する者は多く美術館を後にして、平安神宮へ參拜する向き多く、大躰は參拜章を受け之れを佩して大極殿上に昇り、參拜して再び會場に入る由なり(1895/「海内彙報」/*)

参考文献

中山健一編／早津恵美子監修 2010『論文執筆支援シリーズIV 外大生のための日本語研究ガイドブック—増補改訂版 2010—』東京外国語大学大学院総合国際学研究院 グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」。(主に、第7章(「現代日本語書き言葉均衡コーパスの利用」、第8章(検索方法およびデータの整理)を参考にした。)

第2節 「客観」と「主観」

睦 俊秀

1. 収集の目的

現代日本語において、「客観」と「主観」という単語は辞書などの品詞分類では名詞とされることが多いが、単独で名詞として使われるより、「客観主義」、「主観世界」など合成語の一部として現れるか、「客観的」などのように接辞の助けによって形容動詞のような働きを果たす場合が多い。本調査では、通時的变化の調査の一環として、明治・大正期の書き言葉の言語資料である『太陽コーパス』(利用した検索システム:「ひまわり」、「たんぼぼ」)を用い、主に「客観」と「主観」(以下、『太陽コーパス』内の使用例に関しては旧漢字で表記)が単独で使われる場合の用例を調べることにする(なお、「客観的」、「主観性」などの派生語は調査対象に含む)。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

活用しない語の検索であるため、その点では検索は比較的容易であった。ただし、漢字の読み方を元に表記の多様性を確認した。『日本国語大辞典第2版』において「客観」、「主観」の項目に併記される旧仮名での表記を参考にし、予測できる仮名表記および漢字の読み方を次に挙げる。

- ・「客観」:「きゃっかん」「かくかん」「かくくわん」
- ・「主観」:「しゅかん」「しゅくわん」

また、「っ」「ゃ」「ゅ」は旧仮名遣いにおいて「つ」「や」「ゆ」と書かれることが多かったことが知られており、両方の表記を考慮する必要がある。

以上のことを踏まえて、本文のルビを確認し、異表記の可能性を確認する。検索ツール「ひまわり」を用いて2字熟語のルビを確認するのは難しいため¹、「ひまわり」の代わりに「たんぼぼ」を用いて検索を行う。「たんぼぼ」を開き、「ルビを開いたテキスト」を使って²以下の正規表記を利用し検索した。これはひらがなとカタカナが入り交じった表記の可能性も考慮したものである。

¹ 「ひまわり」で「ルビ(rt)全部一致」または「ルビ(rt)部分一致」という条件で、漢字の1文字(熟字訓などを除き、原則として複数文字のルビを一度に検索することはできない)の読み方を仮名で検索する。さらに検索結果画面で該当箇所をダブルクリックすると、ルビ付きの本文が確認できる。

² 検索ツール「たんぼぼ」での検索の際、「全号」を対象に検索すると、検索される語の量が多くて止まってしまうりエラーが出たりするおそれがあるので、各年次別に3号程度に分けて検索する。

- ・客観：[きキ][やヤやヤ][つつつ][かカ][んン]／[かカ][くク][かカ][んン]／[かカ][くク][くク][わワわワ][んン]
- ・主観：[しシ][ゆユゆユ][くク][わワわワ][んン]／[しシ][ゆユゆユ][かカ][んン]

その結果、上記のルビが付いている表記の中で、「主観」および「客観」の異表記と考えられるものは見つからなかった。また、本文中に「客観」「主観」がすべて仮名で表記されたパターン（e.g.「かくくわん」「しゆかん」……）があればこの検索においてヒットすることになるのであるが、実際にはそうした例は見られなかった。したがって、2.2.で行う本文検索において仮名だけの表記の可能性はあらかじめ排除してよいと考えられる（一方、ルビのない範囲で漢字・仮名交じりの表記が行われている可能性は排除しきれないため、検討対象とする）。

2.2. 検索の実行

2.1.の検討結果に加え、漢字・仮名交じり（ひらがな・カタカナの混合も含め）の可能性を考慮して、以下のような正規表現のパターンによる検索を行う必要があると考えた。

1) 「客観」の場合（計5パターン）

客観、客[かカ][んン]、客[くク][わワわワ][んン]、[きキ][やヤやヤ][つつつ][くク]観、[かカ][くク]観

2) 「主観」の場合（計4パターン）

主観、主[かカ][んン]、主[くク][わワわワ][んン]、[しシ][ゆユゆユ]観

しかし、実際に検索を行った結果、漢字表記だけがヒットし、他の表記の例は得られなかった。したがって、見出された表記は次の2つのみである（なお、検索の際、前文脈・後文脈は特に指定しなかった）。

- ① 客観
- ② 主観

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

2.2.で設定した条件で検索した結果、「客観」は152件が、「主観」は170件がそれぞれヒットした。そのうち本調査の目的にとって不要な例を次のような手順で除外した。その結果、「主観」「客観」「対象外（主観+名詞）」「対象外（客観+名詞）」「迷ったもの」の5つのシートが形成されることになる。

1)分析対象の選定において

- ①「ひまわり」で「本文（正規表現）」という検索条件で「客観」を検索する。
- ②検索結果がでたシートにマウスカーソルを置いて右クリックし、「全選択」する（もし

- くは ctrl+A)。それからまた右クリックし「コピー」を選択する（もしくは ctrl+C）。
- ③Excel を開き、「ひまわり」でコピーしたものを貼り付ける。それから、シートの上段（1行）にそれぞれの項目名を付ける。
- ④ キー「客観」に後接する要素が名詞（「詩人」、「主義」など）であるものを取り除く。
- ・「ひまわり」からコピーして張り付けた画面の下段（「sheet1」の部分）にマウスカーソルを置いて右クリックし、「名前の変更」を選択
 - ・「調査対象（客観）」と名前を変更
 - ・名前を変えたシートの右にある「sheet2」を開く
 - ・切り取った例を「sheet2」に貼り付けシートの名前を「対象外（客観）」に変更する
 - ・「調査対象（客観）」のシートに戻り、「後文脈」で並べ替えを行なったうえで、1つ1つチェックし、後文脈の最初が名詞である行を切り取る
 - ・切り取った用例を「対象外（客観）」のシートに移す
- ⑤データの取捨選択、調整が済んだら、そのファイルを Excel ファイルとして再び保存する。（ファイル→名前を付けて保存：ファイルの種類を「Microsoft Office Excel ブック(*xls)」とする）
- ⑥「主観」も同じ手順で作業を行う。

以上の作業の結果を示すと次の表（1）のようである。

表（1） 正規表現を使いヒットした件数

正規表現	ヒット件数	対象とする例	対象外の例
① 客観	152	131	21
② 主観	170	140	30

2)分析対象の例

本調査の分析対象は、後接要素によって次の5つのタイプにまとめられる。

- (1) 「客観」（「主観」）
- (2) 「客観」（「主観」）＋「的」の例
- (3) 「客観」（「主観」）＋助詞「の」の例
- (4) 「客観」（「主観」）＋名詞化する接辞（一性、一視、一化）の例
- (5) 「客観」（「主観」）＋「の」以外の助詞の例
- (6) その他（「－である」、「－する」、「－こそ」など）

上記の中で、(5) と (6) のパターンには、現代日本語にはほとんど見られない例も少なからず含まれていると思われる。

以下、(1) - (6) それぞれのタイプの例を挙げていく。

(1) 「客観」(主観)

I. 【主観】、: ヒット 170 例中 3 例

(1) ロマンチック式に作つた主観、或は科學的に構成した主観的思想、其れ等に據つて人生を觀察するのは、容易であると同時に、苦痛が少い。(1909年/10号/「文芸時評」/長谷川天溪)

(2) 「客観」(「主観」) + 「的」の例

I. 【客観】的: ヒット 152 件中 75 例 / 【主観】的: ヒット件中 70 例

(2) 米國參戰の主観的理由は一として我に當て嵌まるものは無い。縱使、日本が歐洲の陸戦に出兵して協商國側が之がために全勝を占むるやうに成つたところで、世界に向つて其功に相當する尊敬と勢力とを得ることは先づ不可能である(1917年/12号/「日本の欧州戦乱に対する地位」/千賀鶴太郎)

(3) 「客観」(「主観」) + 助詞「の」の例

I. 【客観】の: ヒット 152 件中 14 例 / 【主観】の: ヒット 170 件中 20 例

(3) 併し其の厭世的思潮は、今日のものとは、趣を異にしてゐる。彼の時代の人々は、尚ほ未だ主観と離別して居らぬ、飽くまでも主観を立て、臆て主観の満足を得ることが出來ると信じてゐる。(1909年/10号/「文芸時評」/長谷川天溪)

(4) 「客観」(「主観」) + 「性」、「化」、「視」(「客観視」 - 1 例) などの例

I. 【客観】化: ヒット 152 件中 14 例

(5) 和軒は又菅公が流竄を以て、公の性格を一層客観化したる一大時期なりとなし、其の咏嘆の詩賦毫も主我的の臭味無しと説く、是れ吾人の全然首肯し能はざる所也。(1901年/13号/「文芸時評」/高山樗牛)

II. 【客観】性: ヒット 152 件中 5 例 / 【主観】性: ヒット 170 件中 5 例

(4) …そして主観を押つめれば客観性を生じ、客観を抽象すれば主観性を生じて來るといふことを私は思つた。(1917年/5号/「最近に讀んだ小説」/田山花袋)

(5) 「客観」(「主観」) + 助詞「の」以外の助詞・後置詞の例

この類の結果は、以下の表(2)のとおりであつた。

表(2)「客観」と「主観」に付く助詞の種類およびそのヒット件数

助詞	客観	主観
から	1	2
が	1	5
でも	—	1
では ³	—	1
と	3	10
に	2	8
は	1	1
を	8	16
によって	—	1
計	16	45

I. 【客観】が：ヒット152件中1例／【主観】が：ヒット170件中5例

(6)辻永氏の「大利根の秋」は上品を通り越して弱々しいものになつて了ひましたが、昨年よりハツキリ其主観が見えるやうで面白いと思ひます、上品と云へば長原孝太郎氏の「雪景」を挙げなければなりません。(1925年/14号/「帝展の洋画を観る」/坂崎坦)

II. 【客観】に：ヒット152件中2例／【主観】が：ヒット170件中8例

助詞「に」が付く場合、用例によっては次のように現在の「一的に」に相当する使い方がみられた。

(7)こは種々の方面より分析すると出来るであらうが、今日のものは主観に別るゝ苦痛長谷川天溪 研究すべき問題であると言ひ、或は描寫に價する事柄であると云ひ、物其の物は、古來決して變つて居らぬ。(1909年/10/文芸時評/長谷川天溪)

(6) その他

I. 【客観】である／ではない：ヒット152件中4例／

【主観】である／ではない：ヒット170件中2例

(8)つまり萬人共通なもの、客観的なものといつてもよい。つめたい客観ではない、生命の通つた、人間の血のかよつた、萬人がそれにふれると今更に嚴肅な氣がしないでは居られない、深い生命をさすのだ... (1917年/2号/「一月の文壇」/加能作次郎)

II. 【客観】する：ヒット152件中1例／

【主観】する：ヒット170件中1例

³ 「ではない」などのコピュラの一部の「では」ではなく、次の用例のような格助詞+取り立て助詞の「では」である。
・去れど其れ等の主観では、紛々複雑なる人生は、逆も解釋することはおろか、描寫することすら出来ぬではないか。(1909年/10号/「文芸時評」/長谷川天溪)

(9)吾人が夢想も爲さざる新しき保険事業が、數多現れ來りて、世は奇禍の存するなき黄金郷とならんか、或は更に一段の進歩を遂げて、月世界に保険業社の代理店設けられんか、主観すれば光輝陸離たる將來も、客観すれば茫漠知るべからず、余一個の希望としては、今後必しも突飛なる計畫大に起るを望まず。… (1909年/1号/「一百年前の保険事業」/石川文吾雜纂)

III. 【主観】こそ：ヒット170件中1例

(10)別方面より言へば、主観に對する分析作用は、秋毫も行はれず、主観こそ最上のもの、客観は下劣な不完全なものであるが、… (1909年/10号/文芸時評/長谷川天溪)

3)対象外として除いた例

本調査で対象外として除いた例は「客観」/「主観」+名詞⁴のタイプである。その具体的な例を以下に挙げる。

I. 【客観】主義：ヒット件中9例/【主観】主義：ヒット件中18例

(11)それ故に教會がその信心統轄の必要からしてこの主義を異端とした事に同情すべき點はある。然しヤンセン派の人人は必しも極端に主観主義に走つた人のみではなかつた。(1909年/16号/「信仰復興の一現象」/姉崎嘲風)

II. 【客観】詩人：ヒット件中2例/【主観】詩人：ヒット170件中1例

(12)…人動もすれば沙翁の名を擧げて客観詩人の勢力を代表せしめんとす、吾人必ずしも是を拒まざるべし… (1901年/7号/「姉崎嘲風に与ふる書」/高山樗牛)

III. 【客観】世界：ヒット152件中7例

(13)…、益す客観世界の檢覈を試むると間に、主観の解剖に着手したるは、實に近代の文藝にして、そこに足下の蛇蝎視するデカダン趣味なるものも生じたるなり。(1909年/6号/「文芸時評諸論客に一言を呈す」/長谷川天溪)

IV. 【主観】句：ヒット170件中3例

(14)…候要するに主観句は我等が非常に六ヶ敷と感候如く先輩諸兄も必ず六ヶ敷思召候事と愚考仕候其六ヶ敷主観句を何んでもと感興も乗らざるに無理に數多く作られ候結果かと存候深さ論の主張者等一步をあやまれば月並に墮し主観句を無理にひねる結果は小説句と相成可申かと愚考仕候句作と議論と伴はず云々の貴説敬服の至に

⁴ 具体的には次のようなものがあつた。

① 【客観】+名詞：「客観主義」、「客観詩人」、「客観永遠」、「客観無我」、「客観世界」

② 【主観】+名詞：「主観主義」、「主観詩人」、「主観句」、「主観偏固」「主観圈内」

③ その他：「主観客観両方面」

御座候。(1925年/13号/「句仏上人」/河東碧梧桐)

そのほかの名詞の例はそれぞれ一例ずつあった。

4)迷った例文

本調査では、以下の例について後接要素が単独では使いにくいということから、派生語を作る接辞に近いのではないかと考え、調査対象として入れるかどうか迷っている。

I. 【主観】状態：ヒット170件中1例

(15)やがて彼は、妻やお新の主観状態をすつかり問題の外に追ひやつて、「ミリウ」といふ物だけを考へてみた、「境」だけを。(1917年/1号/「歌さんの幻影」/中村星湖)

II. 【主観】方面：ヒット170件中1例

(16)人道主義とか、自然主義とか、乃至社会主義とか言ふことは、概して主観方面、人間の持った要求方面から出たことで、文壇では主としてその潮流の變遷推移に議論を集めてゐるやうであるが、…(1917年/5号/「最近に読んだ小説」/田山花袋)

III. 【主観】内：ヒット170件中2例

(17)ロマンチック文藝の如きは、たしかに此の傾向を有してゐるもので、今日なほ其の夢を傳承して居る人もあるやうだ。去れど苟しくも客観世界を見るだけの餘裕ある人は如何にしても主観内に隠れて居ることは出来ぬであらう。(1909年/10号/「文芸時評」/長谷川天溪)

3. 総括

以上、『太陽コーパス』を用いて、「客観」と「主観」の用例を収集した。それにより、次のような用法が見られることが確認できた。

- ① 「客観を」、「主観が」のように「客観」（「主観」）＋助詞が付く例
- ② 「客観である」、「主観する」などの例

このような用法は、現代日本語においてはほとんど使われない用法だと思われる⁵。

今後、今回の調査に基づいてさまざまな研究の拡張が考えられると思われる。たとえば、検索システム「ひまわり」を用い『太陽コーパス』を検索すると、検索結果の文体や年次が確認できるので、次の表(3)のように文体・年次別の傾向に関する分析が可能になると考えられる。

表(3)「客観」の後接要素が「の」、「的」である場合の文体・年次別の傾向

後接要素	文体	1895	1901	1909	1917	1925	総計
の	口語		1	4	1		6
	文語	6	2				8
	総計	6	3	4	1		14
的	口語		2	17	14	7	40
	文語	18	8	8	1		35
	総計	18	10	25	15	7	75

参考文献

中山健一編／早津恵美子監修 2009『論文執筆支援シリーズⅡ 外大性のための日本語研究ガイドブック』東京外国語大学大学院地域文化研究科 グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」.

日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部(編) 2000-2002『日本国語大辞典第二版』小学館. [初版 1972-1976]

国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) 2008年モニター版」

⁵ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』で「客観」、「主観」を検索したところ、次のような結果が得られた。

キー	後節要素	助詞	コピュラ	「する」
客観		6例／639件 (0.9%)	2例／639件 (0.3%)	—
主観		60例／243件 (24%)	6例／234件 (2.5%)	—

この中で、「主観」の場合、後節要素が助詞である場合の割合が高いが、その中で「が」(15例)、「で」(11例)、「と」(8例)に集中されている。むしろ、『太陽コーパス』で多く見られる「を」の例は、3例しかなかった。

以上の結果に基づいて考えると、近代語の「客観」・「主観」と現代語の「客観」・「主観」とは違いがあると考えられる部分がある。しかし、『太陽コーパス』と『BCCWJ』の分析結果と比較するには、コーパスの規模やジャンルなどのバランスが同一でないため、単純な数の比較以上の詳細な考察が必要である。

第3節 「～かぎり」

茶谷 恭代

1. 収集の目的

現代語には「船は許可がでない限り出港できない」という接続助詞的な「限り」の使用がある。これはもともと、「出席者は大学生に限る」という動詞や「資源には限りがある」という名詞として用いられていたものが、「声を限りに～」「力の限り～」「見渡す限り～」などの表現をはじめ、連体修飾をうけて発達するなかで文法化してきたものではないかと思われる。明治から昭和にかけて、使用の広がりかどのようになられるかを『太陽コーパス』を使って調査するために、「限り」について用例収集を行う。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

ひらがな・カタカナ・漢字すべてを対象とするにあたって、特に漢字の異表記について検討が必要である。まず、「り」が送り仮名として送られている場合を想定して「ルビ(rt)部分一致」を対象に「かぎ」「カギ」「かぎ」「カギ」で検索を行い、さらに、送り仮名に「ぎり」が送られている場合を想定して「ルビ(rt)完全一致」を対象に「か」「カ」（後続文脈を[ぎぎ][りり]で指定）で検索を行った。その結果、「限」以外に検討の余地があるものとして「劃れる」「劃る」という表記が2例あった¹が、いずれも今回の調査対象である「かぎり」の例ではなかったため、調べがつく限りにおいて漢字表記は「限」以外はないことを確認した。ルビは原本に付されていたもののみ再現されているため、「かぎり」の表記として用いられている漢字でルビが付されていないものが他にある可能性は否定できず、ルビ検索を用いた確認方法にも限界があると思われる。

2.2. 検索の実行

2.1の異表記の検討をふまえたうえで、「限り」の表記について使用文字と送り仮名の送り方の観点で検討すると、バリエーションとして次の4つが考えられ、それぞれ次の正規表現や文字列を用いて検索を実行した。

①漢字表記を含まない場合（全てひらがな・カタカナ）

[かカ][ぎギ][りリ]

¹ 次のような例である。

・ 暹く水陸を劃れる一帯の連山中に崛起せる、御神樂嶽飯豊山の腰を... (1895年1号/取舵/尾崎紅葉)

・ 不思議な闇を劃る鐵格子の外にじつと石のやうに突立つて... (1925年3号/長篇小説 蛇人/三上於菟吉)

②漢字に通常の送り仮名（ひらがな・カタカナ）がつく場合

限[リリ]

③漢字に送り仮名が一字多くつく場合（ひらがな・カタカナ 例「限ぎり」「限ギリ」）

限[ぎギ][リリ]

④漢字表記で送り仮名がない場合

「ルビ(rt)完全一致」を対象に「かぎり」「カギリ」「カぎり」「かぎり」「かぎり」「カギリ」「かギリ」「カギリ」で検索

いずれも前文脈・後文脈の指定はしなかった。

なお、以上の正規表現と文字列検索の結果、例えば「～^{かぎり}リベラリズムは…」のような例が②と④で、「～^{かぎり}限ぎりぎりまで動かぬ」のような例が③と④で重複して採取される可能性があるが、今回収集した用例の中にそうした重複例はなかった。

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

2.2 の①～④の正規表現および文字列による検索の結果、得られた用例数は次の通りである。「ヒットした用例数」とは、①～④の検索をかけてヒットした数の合計であり、うち、分析対象として適当でないものは「対象から除く用例数」であり、分析対象となるのは「対象とする用例数」である。

表(1) 検索結果

ヒットした用例数			対象から除く用例数	対象とする用例数
①かぎり・カギリ	37	1308	4	1304
②限り・限り	1265			
③限ぎり・限ギリ	0			
④限	6			

検索後の用例の取捨選択、データの調整等は、2.2 の①～④の「ひまわり」の検索結果（「前文脈」で昇順整理したもの）をテキストファイルに出力した後、全選択→コピーして1つの Excel ファイルに貼りつけ、すべて Excel 上で行った。

対象外の用例としてまず排除したものは、次のような「限る」「限り」という形式が語の一部になっているものである（4例）。選別は前文脈整理を手掛かりに、確認した。

(1)親方お久し振、大分お見限りですね と云ひつゝ、床几の端に尻落付けて、膠の詰った煙管をズウ～～吸付け、 サア御一喫 と突きつける。(1895年7号／子煩惱／大橋乙羽)

(2)忠興、大内氏を見限りて、尼子氏に付きけるが、天文十七年、大内義隆、陶晴賢をして之を攻めしむ。(1901年9号／古城談／大町桂月)

また、分析対象の中心となるのは「限り」が接続助詞的に使用される(3)のような例であるが、調査の目的が、「限る」という動詞(ここでは「限り」(連用形)のみ)や「限り」という名詞から、名詞が連体修飾を受ける形で接続助詞的なものへ、という使用の広がりを見ることであるため、動詞や名詞として用いられる例も排除せずに、(a)典型的に動詞として用いられるもの、(b)典型的に名詞(連体修飾がなく単独で)として用いられるもの、(c)それ以外(主に対象となるもの)、とシートを分けて保存しておくこととした。

(3)税制整理は元より結構だが、『取る可き處から取らない』で、『取らないでもよささうな處から取る』税制を改めない限り、何時までたつても不平は絶えまい。(1925年7号／卓上私語／記者)

具体的には、主に次のような形式がそれぞれのシートに分けられている。以下の分類にあたっては、「ひまわり」の検索結果の「前文脈」整列(「限り」の直前の文字による整列)、また、必要に応じて Excel の整列機能で後文脈をソートし、それらを参考にしながら、1例ずつ確認した。

(a)【動詞】としての使用 → 「sheet3 (動詞)」として保存 (263 例)

◆ 「～ {に／を／と} 限り {、・て (は)} ...」

(4)今年は一昨年の第一回に復して開場第一日を招待客に限り、第二日より普通公衆を入るゝことにしたは... (1090年10号／画壇漫評／吉岡芳陵)

(5)さる官立學校の作文受持の教員、席上の課題に行數を限りて、長き文章を作らしめず... (1901年5号／教育時評／大町桂月)

◆ 「～ {に／を／と} 限り {たる／たい／ます／ません／ぬ}」

(※「～ {に／と} {も／は} 限り {ません／ない}」(6例)も暫定的にここに入れてある。)

(6)之れは、大に盛なもんですな、何でも當今は外交官に限りますな... (1909年4号／外交官／児玉花外)

(b)【名詞】としての使用 → 「sheet3 (単独の名詞)」として保存 (232 例)

連体修飾を伴わない、単独の名詞として使われるもののみ区別しておいた。

◆ 「限り {が／の／も／φ／(を)} {ある／ない／見える／知れぬ etc}」

(7)水掛論はいくらしたつて限りがない。(1925年13号「新人生派」の立場を明らかにす／戸川貞雄)

(8)僕には今迄になく時々限りが見える。(1917年10号／AとB／武者小路実篤)

特に、「限りφない」の中には、一語化していると考えられる例も多くあるが、その境界は見極めが困難なものもあるため、ひとまず「単独の名詞」に入れておく。

(9)限りなく小なるの人は常に限りなく大なる人を観んことを樂む(1895年11月／運命と悲劇／高山樗牛)

◆ 「～を(もって) 限りと {する／なす／いう}」

(10)新たに保険の約束を結ぶには十五歳より六十歳を限りとし、... (1895年8月／実業案内)

(11)汽船の重慶に上駛するは毎月二回を以て限りとす(1895年12号／清国に於ける新貿易市港(承前)／中根寿)

◆ 「～を限り {に／の N} ...」

(12)東は寺町、西は烏丸、南、丸太町を限りに、北、今出川を以て界とし、... (1895年1号京都の新案内記／中川四明)

(13)十五六人の華奢な青年が、聲をかぎりに青春を讚美する歌をうたつて行くのだつた。(1917年10号／クララの出家／有島武郎)

(14)今日を限りの命と知りしかば、... (1895年3月／しら雪物語(承前)／落合直史)

(c) 【(a)(b)以外：「限り」が連体修飾をうけるもの】

※主な分析対象→ 「sheet3※」として保存

「限り」の前に動詞、形容詞、名詞＋(の)、がついて用いられているものは多岐にわたるが、あわせて分析の対象としたほうがよいと考え、これ以上は細分せずに保存しておく。代表的な例のみいくつか挙げる。

◆ 「{V/Vナイ} 限り (は)、～」

(※「見渡す限り」「～のゆるす限り」「できる限り」などいくつかの決まった表現も含む。)

(15) 多数が支持する限り、 何んな政策をやつても行き詰まる筈はないのだ。(1925年 11号/政界鬼語 加藤内閣の甦生するまで/鬼谷庵)

(16) 歐洲にして平和を實現しない限り 東洋又た新世界も枕を高うして眠ることは出来ぬ。(1917年 13号/欧州戦乱と民主政治の新傾向 (第一) /浮田和民)

◆ 「～ (の) 限りの N/に/を/が～」 / 「～ (の) 限りだ/でない/にあらず etc.」

(※名詞がつく場合、「一度限り」「一枚限り」「今日限り」「この場限り」なども「Nの限り」という形でなく直接つく場合も含む。)

(17) 戦時に於ては自衛のため、及ぶ限りの手段を講ずることが必要であるのはいふ迄もない。(1925年 2号/石炭を原料として発達せる各種の工業/参木録郎)

(18) 恰も其の夜は月明るく、 堂々たる邸宅は華麗の限りを盡すが如くに見えた。(1925年 9月奮闘実話 死線をきりぬけて今日まで/山下亀三郎)

(19) この意氣地のない自分の身を顧みずに、一時たりともこの道理を破らうとしたのは氣恥かしい限りだ。(1917年 2号/悪人/小川未明)

最後に、分析対象とすべきか否かで迷った例である。

(c)のタイプのうち、動詞に「限り」がついて後に続いていく場合、動詞はほぼ非過去形あるいは否定形であるが、動詞の過去形に「限り」がつく例が 10 例あり、検討を要する。

◆ 「Vタ限り (で)、～」 / 「Vタ限りであった」

(20) ...鷹子は病氣保養の名の爲に東京に行つた限り、 如何に迎ひを遣はしても、 歸つて来る景色は無い。(1901年 3号/海賊村/江見水蔭)

(21) 手頸も握つた痕が白く成つた限りで、 却々元の色に還らない。(1917年 1号/反魂香/森田草平)

(22) 勿論肝腎の補助金額等に関しては、用心深く口を開かず成可く多くを計上するに努むべしといった限りであった。(1917年 9号/小学校費国庫補助問題)

これらは現代語の感覚では、「限り（きり）」と読む可能性もあり、その場合は分析の対象から除かれることになるが、ルビは原本に付されていたもののうち、文学作品についてのみ再現されているということで、ルビ検索を用いて照合しても確実に確認することはできないようである。また、そのような可能性を考えると「一度限り」などについても同様である。

3. 総括

『太陽コーパス』を対象に文字列検索を用いた用例収集において、特に表記の点で気をつけるべき点が多い。主に大正期のデータということで、対象となる形式の漢字表記や送り仮名までもれなく収集する方法を考えた。その一方で、実際に用例を整理してみて、漢字表記で検索した場合に、ヒットした用例全てが対象とする形式なのかどうか、（つまり読みが同じかどうか）ということも検討の必要があるが、それを確認する方法はなく、本コーパスを用いる上で注意すべき点として残る。

また、「ひまわり」を使った検索では前文脈の指定が文字数でできるが、分析の際にある程度の文脈が必要な場合、何文か（句読点で指定するなど）でも指定できると便利ではないかと思う。

今回収集したデータを用いて、雑誌『太陽』において、「限り」という形式が動詞や名詞の用法から接続助詞的な用法へとどのように用いられているかを分析し、一定の期間ごとに収録されているコーパスであるという性格を生かして、その変遷を調べるのが今後の課題である。用例収集の段階では、典型的な動詞、名詞を主に形式を基準にひとまず分けておくところまで行ったが、今後、一例ずつ文の構造や意味の検討を含めて分析を深めていくことが必要である。

第4節 「～ため(に)」

高 秀辰

1. 収集の目的

「ため(に)」は、奥津(1975)、高(2010)でも指摘されているように、名詞としても接続助詞としても用いられる。さらに、接続助詞の用法において、目的と原因という二つの意味を表す。

「ため」の接続助詞としての実例は、万葉集にも見られる。菊澤(1938)によると、万葉集に「用言(+複語尾¹ む)+ため」、「用言(+複語尾 むぬ + 助詞 が)+ため」という形の実例が見られる²。また、菊澤(1938)は、これらの実例を通覧してみると、「ため」は「未来に於いて実現させらるべき事を目指してゐる」(p.55)と指摘している。しかし、現代日本語においては、接続助詞「ため(に)」は原因と目的の二つの意味で用いられ、原因の用例も多くみられる³。

現代日本語における「ため(に)」の意味・用法を比較して分析するためには、近代日本語における「ため(に)」の意味・用法を考察する必要がある。本調査では、近代日本語の傾向をみるためのデータ収集の一環として、『太陽コーパス』を用いた実例収集を行う。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

現代日本語における「ため(に)」は、名詞から接続助詞という文法化によって成立したという特性上、「為(に)」とも表記されることがある。従って、接続助詞「ため(に)」の実例をとるためには、「為(に)」も検索しなければならないということが既に知られている。

しかし、大正時代前後の「ため(に)」がどのような表記で用いられていたのかについては、まだここでは明確な確証が得られていないので、大正時代前後の「ため(に)」の表記を実際に調べておく必要がある。そこで、「ため(に)」の異表記の可能性について「ひまわり」を用いて検討してみることにする。

まずは、「ため」の漢字の異表記を調べるために、「ひまわり」で検索条件を「ルビ(完全一致)」、「ルビ(部分一致)」⁴で【たタ】【めメ】を検索して異表記を確認した。また、送り仮名が余計に送られたパターンである、カタカナ表記の「タメ」、カタカナとひらがなが交

¹ 山田孝雄(1908)が用いた用語で、いわゆる助動詞のうち、用言のみ下接するものを指し示す総称。

² この時雨いたく降りそ我妹子に美勢牟我多米爾もみち採りてむ(十九、4222)

(このしぐれいたくふりそわぎもこにみせむがためにもみちとりてむ)

訳:このしぐれ、あまりひどく降らないで、私の妻にみせるために紅葉を取っていこう(と思うのに)

³ 高(2010) 参照。

⁴ ルビ(部分一致)で検索すると、「猶豫(ためら)ふ」のように無関係な例もヒットするものの、「ため」+別の要素の組み合わせが合わせて漢字で表記されているような例があってもヒットするので、検索漏れがなく、異表記を検討することができる。

た「たメ」、「タメ」の異表記を検討するために、ルビを「た」「タ」(→[たタ])に、後文脈を「め」、「メ」(→[めメ])で始まる、というように設定し、「ルビ(完全一致、部分一致)」⁵で検索する。

検索の結果、「ため(に)」の他、「爲、例、試、溜、嘆、利益、試験、利」という形が見られたが、これらの例を検討してみると、「例、試、試験」は専ら「例す、試す、試験す」という動詞(あるいはそれから転成した名詞「ためし」)に、「溜、嘆」は「溜息、嘆息」という名詞の一部、「利益、利」は「利益(ため)、利(ため)」⁶という名詞に使われたものであった。そして、ルビ「たタ」、後文脈「めメ」の検索結果も、「ため」と同様の結果が得られた。

以上のような結果から、雑誌『太陽』において目的や原因の接続助詞として用いられていたのは「爲(め)」のみであったことが分かった。従って、「ため(に)」の漢字表現の異表記は「爲(に)」のみであると判断した⁷。

また、雑誌『太陽』が出版された時期的な特性、近代日本語においてはカタカナと平仮名が混ざって使用されていた場合があるということを考慮し、平仮名と片仮名が混ざった表現である「たメ」、「タメ」、「タメ」という形の異表記を検討してみた。「ひまわり」で検索条件を「本文」に設定し、「たメ」、「タメ」、「タメ」を検索する。検索結果は、「たメ」が10例、「タメ」が9例、「タメ」が0例であった。

以上の結果から、検索のメインキー「ため(に)」の異表記は、「爲(に)」、「タメ(に)」、「たメ(に)」の四つと判断した。

2.2. 検索の実行

接続助詞「ため(に)」は、従属節に後接し、前後の文の意味的な関係(原因もしくは目的)を表す。そして、接続助詞は文に続く際、用言の特定の活用形に後接するという特徴を持つ。

接続助詞「ため(に)」が連体接続⁸の形をとることから、検索においては前文脈の末尾に連体形の末尾となる文字を指定するとより簡単に接続助詞の「ため(に)」の用例を収集することができる。さらに、「ため(為)」の前に「の」が介入した「名詞の為(に)」という形が多くみられるということと、「～がために」という形が古くから見られることを考え、助詞「の、が」もあわせて前文脈に指定する。また、雑誌『太陽』の時代的な特徴を考え、形容詞の文語形の連体形「き」や助動詞「き」の連体形「し」も前文脈に指定する。

また、2.1で述べたように、雑誌『太陽』の時代的な特徴を考慮し、前文脈に平仮名に加え、片仮名も指定する。

以上を踏まえ、検索のメインキーを、「ため」およびその想定される表記のバリエーション「爲」、「たメ」「タメ」に、検索条件を「本文」に設定し、それぞれ前文脈を[いうきくぐ

⁵ ただし、カタカナ表記の「タメ」をルビ(完全一致、部分一致)で検索しても該当する用例は得られなかった。

⁶ 「善悪陰陽とも必ず貴君の御利益を謀りたき所存に候。」(1901・02/縁の糸/幸田露伴)

⁷ ちなみに、雑誌『太陽』においては「為(に)」の用例はゼロであった。

⁸ 接続助詞のうち、広義の連体形の後ろに接続する場合のもの。

しすただつなぬふぶむるがんの]および、それらが片仮名で書かれている場合を想定した[イウキクグシスタダツナヌフブルガンノ]を全て含む条件に設定し、「ひまわり」を用いて検索を行った。前文脈をこのようにしたのは、「ため」に上接しうる可能性として、文語・口語の動詞、形容詞(ナリ活用・タリ活用形容詞含む)、助動詞の連体形末尾音⁹、および助詞「の」「が」の全てを考慮したことによる。

[いうきくぐしすただつなぬふぶむるがんのイウキクグシスタダツナヌフブルガンノ]¹⁰ため
 [いうきくぐしすただつなぬふぶむるゐがんのイウキクグシスタダツナヌフブルキガンノ]タメ
 [いうきくぐしすただつなぬふぶむるゐがんのイウキクグシスタダツナヌフブルキガンノ]たメ
 [いうきくぐしすただつなぬふぶむるゐがんのイウキクグシスタダツナヌフブルキガンノ]爲

検索した結果は「ひまわり」のツールの中の「並べ替え」機能(項目名をクリックすると、その項目が昇順にソートされる機能)を使って、まず、後文脈を選択して昇順で並べ替えた後、さらに前文脈を選択して昇順に並べ替える。これは、後の取舍選択と、複文の従属節と主文を考慮した分析の時に役に立てるために必要な処理作業の一つである。

2.3. 検索語の取舍選択などの経緯

2.2 で述べたような条件で検索した結果、ヒットした件数は表(1)に示すとおりである。

表(1) 最初にヒットした用例の件数

表記形式	ため	爲	たメ	タメ	合計
最初にヒットした件数	2,464	11,820	10	9	14,303

ここでヒットしたものの中には、以下のような、接続助詞ではない例も含まれている。

(1) 兎まれ角まれ、後日譚が本文に優ツた ため しは無ければ、勘三は勘三だけの町奴と評判あらまほし。(1895・10/韵語陽秋/野口寧斎)

(2) 支那の貨幣としては、何等価値の無い日本紙幣を日本の銀行が存在する開港場と開港場との間の聯絡のために使用して、確實なる 爲 替券と同様な效力を認めて居る點などは、苟も紙幣の準備と云ふものに信用があれば漫りに正貨と引換ふるものでないと云ふことを

⁹ 連体形末尾音について具体的に示すと、動詞およびナリ活用・タリ活用形容詞の場合:「う、く、ぐ、す、つ、ぬ、ふ、ぶ、む、る」、口語形容詞・形容動詞の場合:「い、な」、文語形容詞の場合:「き」、助動詞の場合:「た、だ、ん、し」である。このうち動詞について、「ふ」は現代語では問題にならないが、旧仮名遣いにおいては「言ふ(→言う)」のような表記が行われており、これも考慮する必要がある。

¹⁰ []で囲まれたのを「クラス」もしくは「文字セット」といい、囲みの中に書かれた任意の1文字にマッチするものを検索することができる。

支那人が十分に理解して居る事を示して餘りありと云はねばならぬ。(1917・12/支那の経済力/内藤湖南)

(3)観音崎方面航海中の英汽船ヴァイオレット号は、砲聲を聞いて、あわてふ ため いたが、まさか、此の英船を、獨船と間違へた譯でもあるまい、いづれにしても、此の發砲が、重大な問題となつた。(1925・11/明治初年外交物語(その十二) 鬼灯提燈の買占/豹子頭)

例(1)は名詞「ためし」の一部が、例(2)は名詞「爲替券」の一部が、例(3)は「あわてふためいた」という動詞の一部が、それぞれヒットした例である。これらは接続助詞「ため(に)」の例ではないので、今回の調査で対象とする用例からは除外する。表(1)の最初にヒットした件数14,303例の中には、これらのようないわゆる「ゴミ」も多く含まれているので、手作業で接続助詞ではない用例を削除する「ゴミ捨て」作業を行う。

ゴミ捨て作業には検索のメインキーの後の文脈が多く関わっているので、検索を実行した後「ひまわり」上でデータを後文脈の昇順に並べ替えておく(2.2 参照)。その後、「ひまわり」で「名前を付けて保存」を選択し、ファイルのタイプをテキストファイル(“.txt”)にして保存する。保存したファイルを開き、全選択(CTRL+A)してからコピー(CTRL+C)する。

Microsoft Excelを開き、コピーしたデータを貼り付ける。(「ひまわり」で検索した結果をテキストファイルに保存する際に、「ひまわり」の各セルがタブで区切られているので、そのまま保存しても「ひまわり」で検索した場合と同じように、各セルに区切られて貼り付けられる¹¹⁾。

Microsoft Excelのファイルで収集された用例をみて接続助詞ではないと判断した用例(例(1)、(2)、(3)などのパターン)を削除していく。

以上の行程でゴミ捨て作業を完了した後、データを年>号>位置の順に例のレベルの優先順位を設定しなおして並べ替える(既存フォーマットに準拠)。

いわゆる「ごみ」の例は、「ため」が68例、「爲」が581例、「たメ」が10例、「タメ」が6例あった。従って、全ヒット件数14,303例のうち、対象外の用例数は全665例であり、対象とする用例は「ため」が2,396例、「爲」が11,239例、「たメ」が3例である。

表(2) 対象とする用例と対象外とする用例の件数

	対象とする用例	対象外とする例	合計
ため	2,396	68	2,464
爲	11,239	581	11,820
たメ	0	10	10

¹¹⁾ 検索結果をCSVファイルに変換してからテキストエディタ(サクラエディタ、秀丸など)で開いてゴミ捨て作業を行う方法もあるが、接続助詞の場合、前文脈に関わるゴミ、後文脈に関わるゴミの二つの場合があり、ヒット件数が1万件以上に上るといふ事情もあって、ゴミ捨て作業の時からMicrosoft Excelで作業した方が楽な場合が多い。

第4節 「～ために」

タメ	3	6	9
合計	13,638	665	14,303

対象とする用例を例(4)、(5)に示す。

(4)電圧の差の同一なる場合と變化せる場合とに於て電路を比較するため、先づ百四「ボルト」乃至百十八「ボルト」の電路中に數個の「ランプ」を置き試みたるに、「ハイ、エコノミー、ランプ」は三百時間内に消えしが、電圧の變化なきものは能く八百時間を保たしめたり。(1901・4/工業世界 /金子篤寿)

(5)彼は奥州藩の然る小祿の家に生れて、幼少の時分から乏しい不足勝の間に育つたものであるが、其家庭は窮乏の割に極めて放縱の所があつた爲、甚しい自尊と、女のやうな慈愛とを募らされて、(1901・9/一腹一生/小栗風葉)

接続助詞「ために」ではない例を削除した後、「ため」、「ために」という形別に整理し、さらに、「ために」に取り立てがついた「ためには」、「ためにも」と「ために」の前に助詞「の、が」が前接した「名詞のために」「～がために」など、表記の特徴で分類していく。分類した各形式の内訳は表(3)のようである。

表(3) 「ために」の表記別・形式別内訳

表記別	ため(に)	爲(に)	タメ	合計
諸形式				
述語形式	747	2,361	1	3,109
名詞のために	923	6,087	2	7,012
がために	364	1,705	0	2,069
ため(に)+取り立て	192	831	0	1,023
ためか	15	37	0	52
ための	83	190	0	273
指示詞+ため(に)	39	51	0	90
合計	2,363	11,262	3	13,628

表(3)の「述語形式+ために、爲(に)、タメ」には接続助詞「ために」が文末述語の位置に現れるものも含まれている。

(6)唯彼が失敗したやうな場合には、多くは外にも誰とて成功した人は無く、自然話の結末は着かない爲であつた、然るに中には彼の鑑定は間違つても、事實は発見せられた場合も随分無いではなく、そんな事も五六件は書き留めて居る、今茲に記すのは即ち其中の殊に興味ある事件である。(1901・13/再婚/上村左川)

今回の用例収集では、最終的に例(6)のような、「ため(に)」が文末述語の位置に現れる例は除いた。文末述語の位置に現れる「ため(に)」の場合、主文に当たるものが省略されている場合もあり、「ため(に)」の場合、前の文脈との関係で原因か目的かの意味が決まる場合もある。このような理由から、今回の調査では、文末述語の位置に現れる「ため(に)」と従属節に付いて主文も備わっている「ため(に)」と区別し、一旦、文末にくる「ため(に)」は用例数からも除いた。

このように、「ため(に)」、「爲(に)」、「タメ」が述語形式に後接しており、かつ主文が備わっている例を原因と目的という意味別に分類し、さらに「ため」と「ために」という形式別に分けていく。原因と目的の意味別の分類は、各用例を1例ずつ見ながら、意味を読み取った。

表(4) 意味別(原因と目的)内訳

	ため	ために	爲	爲に	合計
原因	46	181	365	486	1078
目的	101	231	351	572	1255
合計	147	412	716	1058	2333

表(4)は、述語形式に続く全 3,109 例のうち、例(6)のように、文末にくる用例を除いた 2,333 例を原因と目的という意味別に分類した内訳である。

3. 総括

雑誌『太陽』には、現代日本語とは接続方法が異なり、「見懲しめ之爲(みせしめのため)」「其爲(そのため)」「此爲(このため)」などの筆者が想定していない表記の例があると思われ、今回の調査で「ため(に)」の全ての用例を網羅できた訳ではない。

殊に、現代日本語には接続助詞「ため(に)」、「為(に)」に漢字が直接前接する例は見られないため、これらの用例が現れることを想定することができず、前文脈で漢字を指定して検索しなかった。今回の調査では、このような例は想定していなかったため、偶々ヒットしたにすぎず、他にどのような場合に用いられているのかも確かではないので、用例の合計数からは除いた。

これらに関しては、多くの用例を検討した上で、異表記と検索条件をより多く想定して検索することにより解消され得ると思われる。これらに関しては今後の課題としてさらに検討していきたい。

最後に、『太陽コーパス』には「がために」の用例数が多いが、「指示詞+ため(に)」の用例数が少ないといった特徴も見られた。殊に、「がため(に)」は、「夫がため」、「是がためのみ」など、現代日本語と比べて表現のバリエーションが豊富である。

今回収集したデータを用いて、「ため(に)」の表記別、原因と目的という意味別の特徴を吟味した上で、現代日本語と比較、考察することが今後の課題である。

参考文献

- 奥津敬一郎 1975 「形式副詞論序説—『タメ』を中心として—」『人文学報』104号, pp.1-17, 京都立大学人文学部.
- 菊澤季生 1938 「古代に於ける『ため・ゆゑ・から』」『文学』6-3, pp.53-73, 岩波書店.
- 高秀辰 2010 「ため(に)の意味・用法—目的か原因かをささえる構文的特徴」『言語・地域文化研究』16号, pp.93-109, 東京外国語大学大学院総合国際学研究科.
- 柴生田稔 1944 「古代に於ける『ため』の意味用法に就いて」久松潜一 編 『国語学論集』pp.809-831, 岩波書店.
- 山田孝雄 1908 『日本文法論』宝文館出版.
- 吉井量人 1977 「近代東京日本語因果関係表現の通時的考察—『から』と『ので』を中心に—」『国語学』110号, pp.19-36, 国語学会.

第2章 活用語編



第5節 「～を頼る」と「～に頼る」

李 丹

1. 収集の目的

現代語の動詞「頼る」は「～を頼る」（「家族を頼る」）の形だけでなく、「～に頼る」という形（「家族に頼る」）でも用いられるが、雑誌『太陽』での使用実態を通して、それは大正期前後にどのように使われていたのか、すなわちヲ格をとる場合とニ格をとる場合の分布状況およびそれらの違い（むすびつく名詞の性質や動詞そのものの語彙的な意味など）を明らかにするための足がかりとして、用例収集を行う。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

・動詞「たよる」の異表記チェック

現代語において、動詞「たよる」は五段活用動詞であるが、文語ではラ行四段活用で、「たよら(ず)」「たより(て)」「たよる」「たよれ」と活用する。また、「て」につづく連用形の促音便は、現代語では「たよっ(て)」であるが、当時発音上[tayotte]であっても旧字旧仮名では「たよつ(て)」と表記されることが多かったようである。

以上を踏まえ、「ひまわり」を用いて、[たタ]、[たタ][よヨ] および [たタ][よヨ][らラ] [りリ] [るル] [れレ] [ろロ] [っツ] [つツ] でそれぞれ「ルビ (rt) 完全一致」検索を行った結果、動詞「たよる」の漢字表記は「頼る、便る、憑る、依頼る、手頼る」の5通りが見出された。

2.2. 検索の実行

2.1.での検討もわかるように、まず、『太陽コーパス』における「たよる」の表記のバリエーションは、「たよ」と「る」のくみあわせのすべてであると判断できる。すなわち、漢字「頼」「便」「憑」「依頼」「手頼」およびひらがな「たよ」、カタカタ「タヨ」、ひらがなとカタカナがまじった「たヨ」「タよ」のいずれかに、(「る」の各活用形である) ひらがな「ら」「り」「る」「れ」「ろ」「っ」「つ」、カタカナ「ラ」「リ」「ル」「レ」「ロ」「ッ」「ツ」のいずれかが後続する形である。

以上を踏まえて、「本文 (正規表現)」で次のような検索条件を設定し、ツール「ひまわり」を用いて検索を実行した。前文脈・後文脈はとくに指定しなかった。なお、収集・整理した後のデータだけで十分な文脈を見られるように、前後文脈長を100文字に設定した。

(頼|便|憑|たよ|たヨ|タよ|タヨ)[らラりリるルれレろロっツつツ]

動詞「たよる」の漢字表記のうち、漢字が二文字になっている「依頼る」と「手頼る」の

「依頼」と「手頼」は検索条件に含めず、検索結果を csv ファイルに出力してからテキストエディタで開いて (2.3.の手順②参照)、「依頼」→「,依頼」、「手頼」→「,手頼」のように一括変換をかけた。

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

ヒット件数と用例の内訳は以下の表に示す通りである。

表(1) 検索結果

ヒット件数	対象とする用例	対象外の用例
364	172	192

いわゆるゴミ捨て (関係ない例の排除) およびデータの調整は、以下の手順で行った。

- ①「ひまわり」の検索結果をテキストファイルに出力した後、コピー→Excel に貼り付けて csv ファイルに変換する。
- ②作成した csv ファイルをテキストエディタ (サクラエディタ) で開き、意味解釈および形において関係ないと判断された例をキーとする行を手作業で削除していく。
- ③データの取捨選択、調整の済んだ csv ファイルを Microsoft Excel で開き、既存フォーマットに合わせ整形し、Excel ファイル (拡張子“.xls”) として保存する。

得られた用例には、例えば以下のようなものがあつた。

(1) 妻でさへ自分を疑つて果して商人殺しで無いかどうかと聞いたのに思ひ及ぶと、悄然として彼は嘆き悲しんだ。斯うなつては神の外には何人も事實を知らぬ、最早神に嘆願するより外はない、唯神のお恵みを依頼る外に道がない。此時から彼はもう陛下に嘆願書を差し出す氣にも成らず、一切の望みの糸を我から絶ち切つて、唯神に祈るばかりである。(1909年1号/流刑者/斎藤野の人 (訳); トルストイ (作))

(2) かくして京都に二年間滞在した後、明治十七年同郷の先輩たる穂積陳董博士を頼つて上京し、法律を學ぼうとしたのであつたが、英語の素養が足りない爲、豫備門 (高等學校) に入學が困難であると言はれたので、先生に就いて佛蘭西語を學び、大學選科の入學試験を受けて落第したのである。(1925年9号/奮闘実話 死線をきりぬけて 今日まで/山下亀三郎)

(3) 何となれば支那の特色として、其の成立を保つ所以のもの、皆な英國に存するが故也。唯だ此は東洋文明を守つて、彼は泰西文明に頼るが故に、色彩を異にするのみ。

(1895年1号/輿論一斑/*)

(4) 是に於て曾國藩攻守數年の間、三策を畫して恢復を圖す、第一策は北京發遣の官軍訓練なく死心なくして、其恃むに足らざるを看破し、遂に自己の郷里に於て義勇軍を募り、之を訓練するに法を以てし、之を約束するに義を以てして戰に臨ましむ。之を湘軍と稱す。而して各省之に倣ひ、遂に此義勇軍の力に頼りて、戡定の功を奏す。

(1895年2号/曾國藩/中西牛郎)

一方で、「対象外となる用例」として排除した例は以下の3パターンが多かった。

A. 「たより」を名詞として使用

(5) 川島が二番目の子を失つた時には彼は思はず行きあはせたのだけれど、その最初の子の死んだ折には、川島からの便りがなかつたので、彼はまったく知らなかつた。

(1917年9号/みじか夜/中村星湖)

(6) 次の日からは毎日探險です。地圖とコンパスをたよりに、私は終日山脈の上空を飛行し續けました。(1925年5号/ラヂオと犯罪/延原謙)

これは動詞「たよる」より、その連用形「たより」を名詞として使用する場合である。主に「手紙」の意味として使われる場合((5))と、「～をたよりに～」「～をたよりと～」のような文型に用いられる場合((6))などの2通りがある。

B. 他の単語（あるいは形式）の一部

(7) 考へて見ることもなんにもありやあしない。此家のうちで、あなたよりほかに夫人はないのだから、あなたの筈にきまつてるのに、あたしどうしたつていふんでせう。

(1925年13号/長篇小説 蛇人 (第十一回) /三上於菟吉)

(8) 私は自分の頬にその大勢の視線を感じて、顔を下にうつむけながら歩いた。思つたよりも墓地までの道は近かつた。墓地の入口には、畜生道、餓鬼道など、順次に六道の札が立つてゐた。(1917年10号/本田の死 /豊島与志雄)

(9) 私が年老つて汚くなつた時に、お前は汚くなつたよつて正直に言はれて御覽なさい。(1909年12号/喜劇 嘘の世界 /田口掬汀)

これは動詞「たよる」が連用形「たより」「たよつて」として用いられているのではなく、「た」で終わる他の単語（名詞、動詞など）＋より」あるいは「～よつて」の形として混

入された場合である。また、「～にかたよりて～/～にかたよる」「またよろしげなる草～」「不便らしい千駄ヶ谷の方～」「机に憑りて～」などの形式もあった。

C. ニ格もヲ格も現われていない場合

(10) 乞食などは、餘り多き虱を一々捫るが面倒故噛み殺すなり、虱を喰ふにはあらずと辨ず。彼西洋人は去りて後、余は途方に暮れ上陸せんにも旅宿とてなく、頼るべき朋友は猶ほ更なし。(1895年7号/台湾赴任の辞 /水野遵)

これは動詞「たよる」のとり対象が格標示されていない場合である。なお、これはA、Bのように単純に削除するのではなく、今後の研究に役立つ可能性があると考えられるため、別のシートに保存しておいた。

3. 総括

今回収集したデータを用いて、雑誌『太陽』における「～をたよる」「～にたよる」の使用実態を分析することで、近代日本語において動詞「頼る」が大正期前後にどのように使われていたかを明らかにすることが今後の課題である。

なお、今回用例収集を行った際に、本コーパスにおいて、「依頼る」「手頼る」のような漢字表記が二文字になっているものがヒットする時の現われ方がやや気になったので、最後に述べておく。具体的に、今回の検索では、「依頼」「手頼」を検索条件に含めて (cf. (頼|便|憑|依頼|手頼|たよ|たヨ|タよ|タヨ)[らラリリるルれレろロっつツツ]) 検索を行うと、同じ用例が「依頼る」と「頼る」の両方にヒットし、重複して出てくる。「手頼る」と「頼る」にも同様のことが見られる。このようなことを避けるために、「依頼」と「手頼」を検索条件に含めず、検索結果を csv ファイルに出力してからテキストエディタで開いて、「依頼」→「.依頼」、「手頼」→「.手頼」のように一括変換をかける操作が必要である。従って、漢字表記の文字数にかかわらず、こうした重複を避ける形で一括検索ができるようにプログラムが修正されると用例収集の利便性がさらに高まると思われる。

参考文献

中山健一編／早津恵美子監修 2010『論文執筆支援シリーズIV 外大生のための日本語研究ガイドブック—増補改訂版 2010—』東京外国語大学大学院総合国際学研究院 グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」.

第6節 「思は(れ)る」と「考へら(れ)る」

ナオサラン アーパーポーン

1. 収集の目的

本調査は、『太陽コーパス』において、動詞「思ふ」「考へる」のラ(レ)ル形である「思は(れ)る」「考へら(れ)る」(アスペクト形と過去形も含む)の出現頻度について調べるものである。

現代日本語において、思考や判断の内容を表す文型では、「～と思われる」や「～と考えられる」が思考動詞の代表としてよく用いられる。現代との使用実態のちがいを見るために、大正期前後において、どのくらいの出現頻度が見られるか、ラ(レ)ル形の思考動詞の代表である「思は(れ)る」と「考へら(れ)る」について調べることにする。今回の調査はあくまで今後現代語と比較するための足がかりとなる。

「思は(れ)る」「考へら(れ)る」は受身・自発・可能の意味を表しうると思われる。ただし、特に文語(擬古文)においては、受身・自発・可能の区別が困難である。たとえば、「～考へら(れ)る」には、以下の(ア)のように自発・可能・いずれの用法であるかの判断が難しい例が少なくない。したがって、今回の調査では、ラ(レ)ル形という括りを取り扱うことにした。

(ア)「而して、もう一つには、この家でこの品物の眞價を知る者は平常皆なに馬鹿にされてゐる、この俺一人だといふことが考へられたのであつた。」(小川未明(1917)『悪人』)

なお、文語では「思はる」「考へらる」が、当時の口語では「思はれる」「考へられる」が、それぞれ一般的な表記法であると考えられるため、本稿では当該形式を代表する表記として、「思は(れ)る」と「考へら(れ)る」を用いる。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

- ・ 「思は(れ)る」

「思は(れ)る」の異表記を検討するには、「思は(れ)る」の検索実行に先立ち、まず動詞「思ふ」の異表記を検討する必要がある。

現代語において、動詞「おもふ」は五段活用動詞であるが、古語では、「思ふ」(ハ行四段活用動詞)であり、活用は「おもは」、「おもひ」、「おもふ」、「おもへ」と表記される。なお、「て」につづく連用形の促音便は、現代語では「おもっ(て)」であるが、当時発音上[omotte]

であっても、旧字旧仮名では「おもつ(て)」と表記されることが多かったため、検索条件を設定するとき、「おもって」と「おもつて」の両方を考慮する。その他、仮名遣いが安定していなかったために「おもわない」のように現代語と同様の表記がなされる可能性も考え、念のためこれも検索条件に含める。

以上を踏まえ、検索ツール「ひまわり」の「ルビ完全一致」検索の機能を用いて異表記の検討を行う。[おオ][もモ][はわひふへおつっハワヒフヘオツツ] および [おオ][もモ] + 後文脈 [はわひふへおつっハワヒフヘオツツ] で始まるという条件を設定する。その結果、動詞「思ふ」の異表記には「思」、「想」、「憶」、「念」、「謂」、「情」、「懐」、「顧」、「惟」、「以」、「意」という字がヒットした。また、『国語大辞典』及び『大辞林』電子版 (SHARP PW-AT770 に収録) を用いて、「感想」、「思情」、「一念」、「念頭」、「豫想」、「志想」、「苦慮」という異表記もあることが分かる。

なお、「おもへる」はラ(レ)ル形ではなく、今後の検索条件に入れず、この段階で除外する。

・ 「考へら(れ)る」

「考へら(れ)る」の異表記を検討するには、「考へら(れ)る」の検索実行に先立ち、まず動詞「考ふ」(文語)あるいは「考へる」(口語)の異表記を検討する必要がある。

現代語において、動詞「かんがえる」は下一段活用動詞であるが、当時の日本語において、口語では「考へる」(ハ行下一)、文語では「考ふ」(ハ行下二)であり、それぞれの活用の形は、前者は「かんがへ」、「かんがへる」、「かんがへれ」、「かんがへよ」と、後者は「かんがへ」、「かんがふる」、「かんがふれ」、「かんがへよ」と表記される。また、「考へる」と「考ふ」の「考」はいずれも「かむが」と読む可能性もあるので、条件を設定するときにも考慮する。

そこで、異表記を検討するには、検索ツール「ひまわり」のルビ検索(完全一致)を用いて検索する。まず、「かんがへ」を検索するのに、[かカ][むんムン][がガ][ふフヘ] という条件を設定する。また、「かんが」を検索するのに、[かカ][むんムン][がガ] という条件を設定する。その結果、動詞「考へる」の異表記には「考」、「勘」、「稽」、「攷」という字がヒットした。また、『国語大辞典』及び『大辞林』電子版 (SHARP PW-AT770 に収録) を用いて調べた結果、「思想」、「考案」、「思案」、「感情」、「愚考」、「思考」という漢字表記があることが分かった。

なお、この検索では「鑒」、「鑑」という字もヒットしたが、これらは「かんがへる」という動詞としては現れず、専ら「^{かんが}鑑みる」などのように別の形式として用いられる。

ルビ検索の結果得られた表記のうち「感想」、「考案」などの漢字 2 文字のものは、以下の(イ)(ウ)のように、専ら名詞の「思ひ」や「考へ」として用いられているため、用例検索の条件には含めないことにした。

(イ)散ばつた匏屑と、坦してゐる土との香が、草いきれや若葉の香と一つに成つて、犬塚の鼻を刺戟すると、彼は若々しい^{おもひ}感想に轟々と胸を塞がれて、鋭い白日の下に立つてゐることが出来なく成つた。(1909年10号/「老技手」/西村醉夢)

(ウ)其もさうさねえ、如何爲様と云ふ^{かんがへ}考案が、自分に些とも無いんだもの。母親さんのお墓参に行くより他にや、毎日〜何にも爲る事アありア爲ないよ。一生お墓参を爲てるんなら、早く死んで、母親さんの傍に行くのが一番能いんさ。(1895年11号/「狂言娘」/広津柳浪)

以上のように異表記の検討を行った後、「本文(正規表現)」で検索条件を設定し、検索ツール「ひまわり」を用いて検索を実行する。

2.2. 検索の実行

まず、『太陽コーパス』における「思は(れ)る」と「考へら(れ)る」の表記のバリエーションは、2.1で検討した通りである。動詞「思ふ」のラ(レ)ル用法において、文語での助動詞ラルと口語での助動詞ラレルの活用形ということ配慮し、「おもはる」と「おもはれる」の形が考えられる。一方、動詞「考ふ」のラ(レ)ル用法において、「かんがへらる」と「かんがへられる」という形が考えられる。

雑誌『太陽』では、漢字ひらがな混じり文、漢字カタカナ混じり文、さらにひらがなとカタカナが混ざっている文が存在しているので、[かカ]または[おオ]というように条件設定する。

送り仮名のゆれについては、「考へら(れ)る」と「考ら(れ)る」の違いが見られる。「思は(れ)る」については、ルビ検索においてそうしたゆれが見られなかった。

「思は(れ)る」の場合

動詞「思ふ」の漢字表記は、「思」、「想」、「憶」、「念」、「謂」、「情」、「懐」、「顧」、「惟」、「以」、「意」というように専ら1文字を用いる形で行われており、ラ(レ)ル形「思は(れ)る」についても同様の表記を想定することになる。

なお、これらの文字に送られる送り仮名としては、

- ① 「は/わ/ハ/ワ」 + 「る/れ/ル/レ」
- ② 「も/モ」 + 「は/わ/ハ/ワ」 + 「る/れ/ル/レ」

の2通りが考えられる。

これらの他、「おもは(れ)る」がすべて平仮名や片仮名、ひらがな・カタカナがまざった形で表記されるパターンも検討の対象となる。

以上を踏まえ、「本文(正規表現)」で次のような検索条件を設定し、検索ツール「ひまわ

り」を用いて検索を実行した。

本文検索：[思想憶念謂情懷顧惟以意][はわハ][るれルレ]
 [思想憶念謂情懷顧惟以意][もモ][はわハ][るれルレ]
 [おオ][もモ][はわハ][るれルレ]

しかし、以上の検索を行った結果、「思」、「想」、「憶」、「念」、「謂」という漢字表記しか現れなかった。「情」、「顧」、「惟」、「以」、「意」、「懷」という字は、動詞「おもふ」の表記には用いられた例が見られたが、そのラ(レ)ル形には用いられていないことが分かった。

「考へら(れ)る」の場合

動詞「考へる」の漢字表記は、「考」、「勘」、「稽」、「攷」、「鑿」、「鑑」というように専ら1字を用いる形で行われており、

これらの字に送られる送り仮名としては、

- ① 「へ/へ」 + 「ら/ラ」 + 「る/れ/ル/レ」
- ② 「ら/ラ」 + 「る/れ/ル/レ」
- ③ 「が/ガ」 + 「へ/へ」 + 「ら/ラ」 + 「る/れ/ル/レ」
- ④ 「え/エ」 + 「ら/ラ」 + 「る/れ/ル/レ」

の4通りが考えられる。他に、平仮名や片仮名による表記も（ひらがな・カタカナが入り混じった場合も含め）考えられる。

以上を踏まえ、「本文（正規表現）」で次のような検索条件を設定し、検索ツール「ひまわり」を用いて検索を実行した。

[考勘稽攷鑿鑑][へへ][らラ][るれルレ]
 [考勘稽攷鑿鑑][らラ][るれルレ]
 [考勘稽攷鑿鑑][がガ][へへ][らラ][るれルレ]
 [考勘稽攷鑿鑑][えエ][らラ][るれルレ]
 [かカ][むんムン][がガ][ふへフへ][るれルレ]
 [かカ][むんムン][がガ][へへ][らラ][るれルレ]

しかし、以上の検索を行った結果、「かんがへら(れ)る」の表記には「考」という漢字しか用いられないことが分かった。「勘」、「稽」、「攷」という字も動詞「かんがふ」、「かんがへる」の表記には用いられたが、ラ(レ)ル形の例は見られない。

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

2.2で設定した条件による検索の結果、得られたデータの内訳は以下の通りである。

「思は(れ)る」について、検索ツール「ひまわり」の「本文(正規表現)」検索を行った結果、ヒット件数は1651例だった。これらの計2例は、いずれも「思は(れ)る」と関係のない例だった。したがって、この2例を除き、対象とする用例は1649例となる。

表(1) 「思は(れ)る」

ヒット件数	対象とする用例	対象外の用例
1651	1649	2

「考へら(れ)る」について、検索ツールひまわりの「本文(正規表現)」検索を行った結果、ヒット件数は285例だった。これらの計5例は、いずれも「考へら(れ)る」と関係のない例だった。さらに、本文検索で「かんがへら(れ)る」と「かむがへら(れ)る」(ひらがな・カタカナの表記をすべて考慮しつつ)を検索したが、いずれもヒットしなかった。上述の5例を除外して、対象とする用例は280例となる。

表(2) 「考へら(れ)る」

ヒット件数	対象とする用例	対象外の用例
285	280	5

得られた用例には、例えば以下のようなものがあつた。

「思は(れ)る」の用例：

文語

(1)史學的より、 闡發せし不磨の金言は必ず多し、 時運に應じて變通し明解を與ふれば、 光輝を發する眞理を存ずべし、 是温故知新の要旨にして學説の政界の外に卓然として獨立する所なり。 清の存在して猶健全と思はるゝ間は、 新故の變遷に於て學者の迷岐となりたれど、 今度の状態を見聞して、 大に世の惑ひを破りたるならん。 されば今よりこそ學界に大革新をなす時節の到來したれ、 廢すべき條理は金輪際まで芟夷し、 存す(1895年1号/「学界の大革新」/久米邦武)

口語

(2)今の如く議會の中に、 各黨派の控室が有て、 僕等は憲政會の關東組の中へ、 入れられて居るが、 とても米國のそれとは比較にもならぬ。 人類學上より觀たる我が上代の文化(鳥居龍藏氏著) 鳥居博士の謂はれる上代とは原史時代のことであつて、 主として曲玉管玉等を佩用し、 高塚を構築した時代を指さしたのである。(1925年14号/「議會漫言」/石川半山)

「考へら(れ)る」の用例：

文語

(3)行政機關の運轉をして、一定且つ迅速なるを得しめたる者なり、之を要するに今回の新組織は同半島の利源を開發し、政治を行ふに於て大に便益を與ふるを以て、同半島の一重要事件として見るに足るべきものと考へらる、尚ほ新聞紙の報ずる所に依れば エフ、エー、スウエツテンハムは多分駐在總官に任ぜらるべし と云ふ 海内彙報 海内の時事即ち宮廷録事、叙任辭令、政府、政黨、議會、内治、外交 (1895年10号/「海外彙報」/著者不明)

口語

(4)冠婚喪祭などの禮儀より、普通交際の作法を初とし、在來の音樂、舞踊などの改良をも述べなければならないのであり升が、人の品性は遺傳、習慣より成り、習慣は衣食住の事物に依り善くも悪くもなるやうに考られます、それは人が皆正しき衣服を着け、清潔な家に入ると自から心も正しく、清らかになる様な譯で、其周圍にある事物の刺激に依り、精神に變化を及ぼすのは當然の事でありますから、易より難に入る考へで (1901年4号/「風俗改良」/梶田半古)

3. 総括

今回の調査では、問題となった点として次のようなことがある。まず、表記のゆれが挙げられる。例えば、「考へら(れ)る」の表記は、「考へら(れ)る」や「考へら(レ)ル」など、色々な可能性があるため、慎重に条件設定をしなければならなかった。また、異表記については、様々なものがあり、先に「ルビ検索(完全一致)」を用いて異表記を調べなければ、すべての表記を網羅できないだろう。

今回収集したデータを用いて、『太陽コーパス』における「思は(れ)る」と「考へら(れ)る」が文章の中でどのように用いられているかどれくらい現れているかなどといった使用実態が明らかになった。また、『太陽コーパス』において、「思は(れ)る」の用例は、「考へら(れ)る」の用例より多く現れているということも分かった。今後、現代語との使用実態のちがいをみるためにも、この用例の使用頻度のデータが役立つと思う。

参考文献

尚学図書 編 1981『国語大辞典』小学館。

松村明 編 2006『大辞林 第三版』三省堂。(電子版 SHARP 電子辞書 PW-AT770 に収録)

第7節 「言はせる」と「聞かせる」

高 京美

1. 収集の目的

使役主体と使役対象がヒトである使役文（【ヒト（使役主体）がヒト（使役対象）に（/を）V-サセル】）の場合、基本的には使役主体が使役対象に働きかけ、その働きかけによって使役対象が動作（V）を行うことを表すものである。ところが、「V-サセル」の中で、「言わせる」と「聞かせる」は、使役主体が使役対象に働きかけ、その結果、使役対象が動作を行うという使役本来の特徴（使役性）からすると、特殊な振る舞いをする場合がある。

(ア)信長は濃姫の返答如何にかかわらず、この「妙案」に熱中した。すぐ使者を美濃の稲葉山城にやり、義竜にこの旨を言わせた。（司馬遼太郎 1963『国盗り物語（一）』（『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』新潮社（1995）より）

(イ)純一は、館山から戻って来た南郷と喫茶店で落ち合うと、レンタルビデオ店長の話を聞かせた。（高野和明 2001『13階段』p.239）

これらの場合、使役主体が使役対象に働きかけて「言う」・「聞く」行為をさせたというより、前者の例の「言わせる」は「伝える」という意味に、後者の例の「聞かせる」は「話す」の意味に近くなっている。実際、現代日本語の「言わせる」と「聞かせる」はこのような意味として用いられるものが多いように思われる。

これらの二つの「言わせる」、「聞かせる」の特殊な振る舞いはどのように生まれたのか、最も使役らしい用法との派生関係はどのようなものであるか、通時的な考察により確かめるために『太陽コーパス』を用いて用例収集を行った。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

まず、「ひまわり」を用いて「太陽コーパス」の中の動詞「いう」「きく」の漢字の異表記を確認する。異表記の確認にあたり、『太陽コーパス』が1895年から1925年までを対象としたものであることを考えると、当時の仮名遣いとして、「いう」に関しては現代仮名遣いとは異なる「いふ」が「いう」よりも一般的なものであったと考えられる。また、各動詞において、当時使われていたと思われる、送り仮名がない表記パターン（たとえば、「^い言。」「^き聞。」）と、現代語と同じ送り仮名の表記パターン（「言う」「聞く」）についてももれなく検出するために、それぞれ二通りの検索を行った。それぞれの動詞は、①

の検索により送り仮名がないものが検索でき、②の方法によって、現代語と同じ送り仮名の表記のものを検出することができる。

また、検索にあたり、各動詞の活用によるバリエーション（未然形「いは（わ）」、連用形「いひ（いひ）」「いつ（いっ）」、終止・連体形「いふ（いう）」、条件形「いへ（いえ）」、意向形「いは（いお）」「いほ」（？）など）を考慮して、検索を行った。

「いふ（う）」

・ 「いふ」：

①メインのキーに【いひ】【はひふへほハヒフヘホ】で「ルビ完全一致」検索

②メインのキーを【いひ】、後文脈【はひふへほハヒフヘホ】で「ルビ完全一致」検索

・ 「いう」：

①メインのキーに【いひ】【わいうえおワイウエオ】で「ルビ完全一致」検索

②メインのキーを【いひ】、後文脈【わいうえおワイウエオ】で「ルビ完全一致」検索

以上のような検索作業により、「言ふ」「云ふ」「謂ふ」、そして、ごく少数ではあるが、「云う」(2例)、「言う」(1例)が見られた。

「きく」

①メインのキーに【きき】【かきくけこカキクケコ】で「ルビ完全一致」検索

②メインのキーを【きき】、後文脈【かきくけこカキクケコ】で「ルビ完全一致」検索

これにより、「聞く」「聴く」「訊く」の異表記が確認できた。

なお、上のような検索によって、「いふ（う）」の使役の形である、「いは（わ）せる」、「いは（わ）す」、「いは（わ）しむ」が、「きく」の使役の形の「きかせる」、「きかす」、「きかしむ」も、確認できた¹。

2.2. 検索の実行

2.1で確認した、それぞれの異表記の、「いはせる」、「いはす」、「いはしむ」／「きかせる」、「きかす」、「きかしむ」の現れうる活用のバリエーション（未然形、連用形、終止形、条件形、意向形など）を考慮しながら、次のような手順で検索を行った。

¹ 「いふ（う）」の使役の形のうちの、「いは（わ）す」、「いは（わ）しむ」と「きく」の使役の形のうちの「きかす」、「きかしむ」は現代語にはほとんど使われていないが、これらは古代語において【動詞の未然形＋す／しむ】の形で使役動詞として用いられていたものである。『太陽コーパス』には文語・口語双方の記事が収録されており、実際このように現代語の使役動詞と同様の（仮名遣いのみが異なる）形と古代語の使役動詞と同様の（活用体系・用語法も含めて現代通用の日本語とは異なる）形が入り混じっていることが確認できる。

・いはせる

- ① 【言謂云いイ】[はハワワ][さしすせそサシスセソ] で「本文（正規表現）」検索
⇒これによって、異表記、ひらがな、カタカナ表記の「言はせる」「言はす」「言はしむ」（その他の異表記同様）の例が活用形を問わず検出できる。
- ② 【言謂云】[さしすせそサシスセソ] で「本文（正規表現）」検索
⇒これによって、現代日本語とは送り仮名が異なる、「言^{いは}せる」「言^{いは}す」「言^{いは}しむ」（およびその他の異表記）の活用形が検出できる。
- ③ 【いイ】[はハワワ][さしすせそサシスセソ] で「ルビ(rt)完全一致」検索
⇒これによって、送り仮名がない漢字のみの表記のものが検出できるが、「いわせる」に相当する例はなく、次のようなものが検出された。

(ウ)一年の中最も濱が賑ひ村が景氣立つのは、春の鯛^い鯛^はの漁期で、また風^いも毎年よく續くのであるが、今年はずつかり調子が狂つて居た。(漁村賦 /加能作次郎/春期大附録)

・きかせる

- ① 【聽聞訊きキ】[かカ][さしすせそサシスセソ] で「本文（正規表現）」検索
⇒これによって、異表記、ひらがな、カタカナ表記の「聞かせる」「聞かす」「聞かしむ」（その他の異表記同様）の活用形の例が検出できる。
- ② 【聽聞訊】[さしすせそサシスセソ] で「本文（正規表現）」検索
⇒これによって、現代日本語とは送り仮名が異なる、「聞^{きか}せる」「聞^{きか}す」「聞^{きか}しむ」（およびその他の異表記）の例が活用形を問わず検出できる。

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

2.2.で設定した条件による検索の結果、以下のような内訳でデータが得られた。

表(1) いはせる

ヒット件数	対象とする用例	対象外の用例
1873	176	1697

表(2) きかせる

ヒット件数	対象とする用例	対象外の用例
603	298	305

2.2 で示した検索条件によってヒットした用例の検索結果をテキストファイルとして保存したあと、これらのテキストファイルを Excel に貼り付ける。そして、Excel の「並べ替

え」機能を使って後文脈によってソートし、検索語の後の文字を五十音順にそろえると、ある程度活用のバリエーションごとにまとめることができる。そのあと、不要なデータ(後述する(6)~(21)のようなもの)を削除していった。

このような作業を経て得られた用例には、次のようなものがあった(なお、最終的なデータでは既存フォーマットに合わせ、発行年次・号数・出現順の順番にソートしている)。

・いはせる

(1) 吾人は些々たると言つたが決して風教が些々たる事だと言ふのではない、單に男女の関係からのみ見た風教をさう云つたのである。吾人をして云はしむればさういふ事を取締るのは至極結構であるが、それは取締らなくても大した害はないと考へる。(1909年13号/政治と近代思想/戸川秋骨)

(2) 先生は大學は所嫌であつたけれども、學生は所好であつた。そして、若い者にも言ふだけのことは言はせる人であつた。自分の主義主張とか乃至氣分とか傾向とか云ふものに嵌つたことでなければ言はせないのが、通例先輩なるものゝ弊である。(1917年1号/漱石先生と門下/森田草平)

・きかせる

(3) 叔父さんは、本田の臨終の様を私達に話してきかした。(1917年10号/本田の死/豊島与志雄)

(4) 横田川へ大砲を据て、此所で官軍を防ぐんだと云ふことだ』此方はめ組の消火夫で先方は人足だから掛引も何もなく話をした、サウすると官軍はモウ中仙道の熊谷まで進んで来たゞらう、早く官軍に遭て江戸の話も聞せたいと思つて、蕨宿の外で馬を雇つて熊谷まで五貫で極て往くと、モウ官軍がゾロ〜〜來る、(1901年13号/維新の軍事探偵/伊集院兼常(談))

一方で、「対象外の用例」として削除した例には、次のようなものが多く見られた。

・いはせる

2.2の①の検索によって検出された例としては次のようなものがあった。

◆「或いは」/「逆らひは」+【さ/し/す/せ/そ】

(5) のみならず、近頃では、小作人は豊かになつたといふやうなことを聞くが、或いはさうかも知れないのである。(1925年14号/農村疲弊の真相と救済策/気賀勘重(談))

(6) 官連中が、大抵皇帝の鼻息を窺ふものばかりであつて君國に忠實ならんとするよりも、自己の位地を安全に保ちたいと云ふものが多いから、民情や政治上の事に就て、其の真相を知るものがあつても、君意に逆らひはしないかと思ふので、繕ふて言ふことが多く、且又名々は種々な内外人の願ひ事假令へば鐵道布設とか或は外國に船の注文をする事とか、斯様なる事に就て、内外人の請託を受け收賄する事は何とも思つて居らぬ。(1909年8号/世界之時局 土耳其憲政の将来/牧野伸顕(談))

2.2の②の検索から検出でき、排除した例として、次のようなものがある。

◆「所謂+【さ/し/す/せ/そ】」

(7) 書は才筆なれども、巧妙の域には達せず、所謂その人を以て傳はるものなり。(1901年8号/藤田東湖の半面/横山健堂)

◆「明言、断言、宣言」などの二字漢語「*言+する」の活用形

(8) 人物出で、絶大なる事業に任ぜば、我が帝國の任務層一層重きを加ふるも何かあらん、若し絶大なる人物出で、絶大なる事業に任ぜずんば、我が帝國の任務層一層の重きを加ふるを奈何せん、然れども吾人は特に明言す、絶大なる人物とは國中の僅々たる少数を指すに止らず、苟くも能く國民としての觀念を明にし、國民としての職分を竭くし、國民としての任務を負ふものあらば、是れ亦絶大なる人物に外ならず、(1895年1号/日本帝國の任務/中西牛郎)

(9) カリフォルニア州は屢々支那人移住を禁遏するの條例を制定したれども合衆國大審院は之を 聯那の憲法に反するものと宣言したり。(1909年/4号/米國に於ける排日問題/浮田和民)

・きかせる

2.2の①の検索によって検出されたが、排除した例として、次のようなものがある。

◆「【氣/羽振/幅】を きかせる/きかす」

(10) 石窟戸之前巧作俳優 とあること即ち今の所謂歌舞伎俳優の起源なりと聞くときは何だか貴き業躰のやう思はるれども神代の話は=たり 信據すべき文書とてなれば此一事を以て俳優が神わざを掌どれる家筋なりと幅をきかす譯にもゆくまじ 降て慶長年間始めてお國歌舞伎の行はれてより歌舞妓と稱する女役者出來て幾島丹後守佐渡島正吉村上左近國本織部北野小太夫出來島長門守杉山主殿など、名乗り(1895年6号/俳優(一)/梅痴居士)

2.2の②の検索によって検出できたが、排除した例として次のようなものがある。

◆「新聞＋【さ/し/す/せ/そ】」

(11) 尚ほ伊藤公が英字新聞ソールプレツスを起し、或は統監政治三年間の成績を歐文の報告書又は他の出版物によりて發表しつゝあるを見れば、伊藤公苦心の存する所も伺はれるであらうと思ふ。(1909年6号/統監政治批評 今少し活動的なれ/望月小太郎(談))

(12) それであるからして満州問題の形勢彌々切迫せるに至つては曩に吾人の言動を冷笑せる御用新聞さへ却つて國民同盟會の言動の一層活潑ならんことを望む様になつた程である。(1901年5号/満州問題/佐々友房(談))

◆尊敬表現の「聞き召す」の一部

(13) 爾來同殿下には此言に違はせられず、常に討死の御決心と勇氣とを以て六軍を統べ給ひ、或時は峻路峻坂に腰打掛け、梅干ニツにて腰辨當を聞き召し、或時は酷烈なる炎天の下に、又は車軸を降らす大雨の中に、露臥枕席の苦を嘗め給ひ、士卒と共に甘苦を同うし、不自由は戦時の常なりとて、聊かも意に掛けさせ給はず、(1895年11号/海内彙報*)

(14) ほどなく女主人は出來り、夕げはいかに聞きめしたる、はやふしどへ行給ふか、また新らしきビールをや望み給ふといひぬ。(1895年7号/浮世のさが/小金井喜美子)

◆「上聞、耳聞、與聞、傳聞、誤聞、奏聞、見聞、風聞、仄聞、立聞、著聞／聽聞、吹聽、傾聽、謹聽、敬聽、靜聽、傍聽、審聽、打聽、拜聽」などの二字漢語「*聞+する」の活用形

(15) 巨眼異相の大西郷も、無名氏として、來り視、凝然として觀察する所ありたり。佐賀公の支族は、臣を遣はして教旨を傳聞したり。(1895年3号/教事些語(下)/巖本善治)

(16) 而して外人を遇すること鄭重を極め、外國人といへば、無頼の一宣教師も、快よく其門に迎へらるゝを見たり。在留日本人には甚だ不人望にして、公に對する不平の屢々爆發するを見たり。凡そ是等の日常見聞する所のもの、一々彼等が輕侮の料とならざるものなし。(1909年6号/政治、外交 統監政治の失敗/浅田江村)

(17) 然かも此の逸事は、其人の連れ合ひのお定婆さんが、私の家へ來て面白半分に吹聽したのだ。(1909年12号/養子/小栗風葉)

(18) 「うむ、なるほど。面白い、面白い、面白い話だ。」 渠は再び横になりて謹聴せり。 學生は一笑して後件の譚を續けたり。(1895年1号/取舵/尾崎紅葉)

(19) 嗚呼此時に當りて如何なる手段ありてか、能くビスマルクの軍事計畫を議員に傾聴せしめ得べきぞ、如何に巧妙なる辨舌も不必要として埋没さるゝの外、他の結果を收むること能はざりしとせば誠に止むを得ざりしなり。(1895年8号/ヲット、フォン、ビスマルク公(続)/* (訳) ; エスボルンハーク(著))

二字漢語「*聞+する」のうち、上の(19)のように、「*聞する」の使役の形の例があったが、これらも排除した。ところで、本稿で検出の対象としている「きかせる」には「きかしむ・きかしめる」が見当たらないのに対して、二字漢語の「*聞せしむ/*聞せしめる」の例が見られるのは興味深い。これは文体的な特徴によるものであろうか。

3. 総括

検索の結果、異表記に関しては、現代語の「言わせる」「言わす」のように、送り仮名が「わ」であるものはほとんど見られなかった。また、2.3で削除した用例から、現代日本語ではあまり使われない二字漢語（「*聞する」）が多くあったことも一つの特徴としてあげておきたい。

検出できた例を使役性の観点からみると、現代日本語と同じように、「いはせる」も「きかせる」も使役動詞としてではなく、他動詞に近い意味で用いられたものが多く見られた。今回のデータをもとに、構文的な特徴などに注視しながら現代語と比較することが可能だろう。

第8節 「～てやる」

アクマタリエワ ジャクシルク

1. 収集の目的

本調査では、明治時代から大正時代の日本語における授受動詞¹「動詞＋てやる（以下、「～てやる」と示す。）²の意味・用法の分析を行うための足がかりとして、『太陽コーパス』を用いた同形式の用例収集を行う。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

用例収集の実行に先立ち、まず、動詞「やる」の異表記の検討を行う。これには検索ツール「ひまわり」のルビ検索機能を用いる。

動詞「やる」は、現代語において、五段活用動詞であるが、文語及び当時の口語においては、ラ行四段活用で、「やらない」「やりて」「やる」「やれ」「やらう」のような表記が一般的である。また、「て」に前接する連用形の促音便は、現代語では、「やっ（て）」であるが、旧字旧仮名の口語では、発音上「yatte」であっても、「やっ（て）」という表記が一般的であったと思われる。また、現代語では、「やる」の意志形は、「やろう」と表記されるが、旧字旧仮名の口語では「やろう」ではなく、「やらう」という表記が一般的であったと考えられる。動詞「やる」のこのような語形のバリエーションを考えた上で、さらに、カタカナ表記の可能性も考慮しなければならない。一方で、現代と同等の仮名遣いが混在する可能性も無視することはできない（pp.20-21 参照）。その他、くだけた話し言葉で「～てやんない」のような言い方がされることも考えられる。

以上のようなことをふまえて、次のような動詞「やる」の検索条件が設定される。まず、「ルビ（完全一致）」検索のメインのキーに【**やヤ**】を入力する。次に、後文脈に【**らラリリるルれレろロンンっつツ**】を入力して検索を実行し、授受動詞「やる」の表記の可能性を検討する。

この結果、次のような漢字表記が確認できた。

[八 喫 夜 嫁 彌 慰 施 晩 止 殺 漸 爲 爺 留 疾 病 盜 矢 破 寡 罷 與 行 試 贈 過 遣 飲]

¹ 一般的に日本語では、誰かのために行なう動作の動詞を「やりもらい動詞」「受給表現」「授受補助動詞」などのように呼び、様々な言い方が存在する。本稿では、「授受動詞」という呼び方に統一する。

² たとえば、鈴木（1972）は、「おじさんは弟に自転車をかってやった。」のよう用例を挙げている。そして、誰かのためにしてやる動作であり、その動作によって利益を受ける人は、利益の相手の対象で示されるとしている。

この中には、授受動詞「～てやる」として使用されていないものが多く存在する。

まず、動詞に全く関係のない文字だと思われるのは、[八 夜 彌 晩 漸 爺 疾 矢]である³。

次に、動詞の一部としては用いられるが、授受動詞「～てやる」としては用いられないものが存在する。たとえば、[喫]、[破]、[止]、[寢]などは、動詞の表記に用いられてはいる。ただし、これらはいずれも「～てやる」に用いられる「やる」とは無関係な同音異義語あるいは異なる動詞の一部であり⁴、授受動詞「～てやる」の表記に用いられることはない。

また、動詞「やる」の表記として[行]の可能性も考えられる。そこで、上記の検索結果から[行]の例をみると、全部で8例出ている。その中には、「～てやる」として用いられているのは次の1例である。

(1) 平氣で、幅で、女を庫裡へ伴れて來ては泊らせて行^やった。(1917年10号/ある僧の奇蹟/田山花袋)⁵

この場合は、漢字[行]に「や」というルビがふつてあるので、授受動詞「やる」だということがわかる。しかし、すべての用例の場合に、ルビがあるとは限らないという問題がある(p.22参照)。そのような場合は、改めて検索条件を入れて、詳しく調べる必要がある。ただし、その場合、この字については無関係な例(例;「出て行く」、「出かけて行く」、「逃げて行く」、「歩いて行く」等)も大量にヒットすることが予想されるという事情から、文字[行]を今回の検索条件に入れなかった。

このようにヒットした例を分析した結果、授受動詞「～てやる」の表記に用いられることが確認できたのは、以上のうち[遣]、[興]の2文字であった。したがって、これら2文字を今回の検索条件に含めることとする。

なお、上記の検索条件を使用すると、「遣^{やり}ます」「遣^{やら}ぬ」「遣^{やら}ない」などの用例がヒットしない。しかし、たとえば、[やヤ][らラリリるルれレろロンンっつツ]で「ルビ完全一致検索」を行った限り、「～てやる」の例は次の(2)を含め4例しか現れない。

(2) 彼女は水夫の女房ですが、此間 夫の許へ食物を持て往て遣^{あ れ すいふ によぼう このあひだをつともともと しょくもつ もつ いつ やら ちやうどほうだいまで}として、恰度砲臺迄
往^{ゆき}ますと、(1901年8号/セバストウポルの火花/嗟峨の屋おむろ(訳);トルストイ(作))

³ たとえば、「八つ口」(名詞の一部)「漸つと」(副詞の一部)のような例が見られた。

⁴ 1つめは「三度の飯が喫れるか」のような例が見られる。2つめは「破れた帽子」などの例があり、これは活用も異なる(下二段)。これは現代語の「破れる」と同様の意味である(なお、文語には四段活用で「破る」(「破る」と同義)という動詞も存在するが、実例は得られなかった)。3つめ・4つめは「止んで」「寢つれた」のような無関係な動詞の一部であった。

⁵ 本稿であげる用例の下線は、引用者によるものである。

こうした特殊な表記も漏らさず採るために、検索条件に漢字1文字だけを指定し、検索することも可能ではある。しかし、上述のようにきわめてまれな表記であるにもかかわらず、大量のゴミ(無関係の例)がヒットすることが予想されるため、今回の調査では条件に含めなかった。

2.2. 検索の実行

2.1. で述べたことをふまえ、本文で次のような検索条件を設定し、「ひまわり」を用いて検索を実行した。

[てでで][やや遣興][らりりるるれれろろんんつつつ]

なお、この条件では「話してなどぜったいに遣らない」といったような例が収集できない。ただし、このような例はきわめて少ないと思われることもあり、今回は収集からもれてもしかたがないと判断した。

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

2.2. で設定した検索条件の結果、次のようなデータが得られた。

表(1) 検索結果

ヒット件数	対象とする用例	対象外の用例
1280	858	422

いわゆるゴミ捨て(関係のない例の排除)およびデータの調整は、以下の手順で行った。

収集された1280例をコピーして、エクセルファイルの「Sheet1」に貼り付けて(拡張子“.xls”)保存する。保存した全例を読みながら、「～てやる」であると判断されるものを取り出し、「Sheet2」に保存する。そして、「～てやる」ではないと判断されるものを取り出し、「Sheet3」に保存する。

今回のデータから抽出された1280例を以下のような手順で整理した。

・対象とする用例(「Sheet2」)

本稿は、「～てやる」という形式が、【文主語が誰かのために行なう動作】を表す例を対象とする。たとえば、次のような用例である。

(3) 親切にして世話を焼いてやれば、断えず永く銀行の顧客たる人である (1901年

14号/銀行と預金者/豊川良平(談))

(4) 親父が世話をして遣つたことのあるものが此間まで築地に居たが(1895年4号/新学士/幸田露伴)

(5) その手帳と一緒に熱海の定宿へ送ツてやつた。(1909年14号/実印と預金帳/柴田流星)

(6) 其志に免じて一條聞いてやらう。(1895年1号/取舵/尾崎紅葉)

・対象外の用例(「Sheet3」)

今回、次のようなものを対象外の用例として判断し、「Sheet3」に保存した。

「～てやる」と明らかに関係のないもの

(7) ナポレオン三世大いに笑つて、早速副官を派遣してヤツトのことで馬を捕へて來さしたと云ふ珍談もあつた。(1925年9号/世界を驚殺したる珍談奇行 幕末に於ける海外使節の話/尾佐竹猛)

(8) 新に丹世格社の方よりリンネ。テヤン。ラツコ。オウオニツル。ママシユ。(1901年9号/台湾中央山脈の横断/鳥居龍藏)

(9) 之に反抗してヤンセン主義の一派は、極めて人心の頼むに足りない事を明かにし、(1909年16号/信仰復興の一現象/姉崎嘲風)

(10) あんな恥かしい目に遇ふたのは生れてから始めてやつたよ。(1925年14号/清き一票/坂本石創)

本動詞「やる」として用いられているもの

(11) 日本でやる時は随分長い國でありますから、(1895年7号/樹栽日に就て/牧野伸顕)

(12) 天然物を見る様に發句に述べると云ふを主としてやつて居る事である、(1901年4号/俳諧新旧派の異同/正岡子規(談))

(13) 三人では平氣でやるものだよ。(1925年5号/政界鬼語/鬼谷庵)

「くれてやる」「してやられる」など、授受動詞と言っていいか微妙なもの

(14) そのつど賭博税を引かれた後の端になった銅貨をくれてやつた。(1925年13号/ 広東の賭博館/田中貢太郎)

(15) 照然の『くそ忌々しい』も、失職者の『してやられた』も今日はお出なかつた。(1925年13号/蟋蟀/下村千秋)

(16)

(17) 平日通り蠅を独占しようと構へ居たが右の次第で全く己より智慧の劣つた者共に してやられ、一疋も蠅が飛ねば一疋も口に入らず、極めて失望の體だつた。(1917年2号蛇に関する民俗と伝説(二)/南方熊楠)

以上のように、収集した用例を整理した。今後、これらの用例を詳しくみて、分析する必要がある。

3. 総括

今回はデータを収集することが目的であるため、用例収集のみ行い、分析は行っていない。今後、今回収集したデータを用いて、雑誌『太陽』における授受動詞「～てやる」の使用実態、生産性等の変遷を詳細に分析することが課題となる。現在、日本語のいわゆる授受動詞に関する記述は数多く存在する。しかし、近代語まで遡って、その使用実態などを通時的に考察したような研究はほとんどないと思われる。このような問題を解決するために、『太陽コーパス』のデータを活用し、日本語の授受動詞の歴史的な変化の流れを解き明かしていくことを志したい。

参考文献

鈴木重幸 1972 『日本語文法・形態論』 むぎ書房。

中山健一編／早津恵美子監修 2009 『論文執筆支援シリーズⅡ 外大性のための日本語研究ガイドブック』東京外国語大学大学院地域文化研究科 グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」。

第9節 「～はじめる」と「～をはる¹」

辺 純影

1. 収集の目的

本報告は、動詞「はじめる」・「をはる」が本動詞としてではなく局面動詞として用いられる用法について、雑誌『太陽』の中ではどのような場合に用いられているのかを調査したものである。高橋(2003)は、局面動詞について「ひとつの運動を時間的にくみだしている過程的な部分を局面とよぶ。そして、この局面をあらわす文法的あわせ動詞を局面動詞という。(p.197)」と定義している。局面動詞の中でも高橋(前掲)のいう、運動の始発の局面となる動作をあらわす局面動詞である「はじめる」と終了の局面をあらわす局面動詞「をはる」が今回の調査の対象となっている。本報告ではこれらを調査する際に注意すべき点、検索条件の設定や用例の取捨選択の経緯などについて述べる。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

雑誌『太陽』における「～はじめる」、「～をはる」の表記について、ひらがな・カタカナ表記の他に、表(1)、表(2)のようなルビ検索を行ない、漢字表記のバリエーションを検討する。動詞「はじめる」は、当時、文語では下二段活用(「始めず、始めて、始む、始むること、始むれど、始めよ)、口語では下一段活用(「始めない、始めて、始める、始めること、始めれば、始めろ)の動詞である。また、動詞「をはる」は、文語・口語を問わず四段活用(「終わ(は)らず、終わ(は)りて、終わ(は)る、終わ(は)ること、終わ(は)れど、終わ(は)れ)」)である。

以下の表(1)、表(2)はこのような、文語・口語の活用形をすべて含むものである。なお、「をはる」の文語の場合、連用形に完了の助動詞「ぬ」が付いて「をはんぬ」のように撥音便化される場合もあるのでこのような表記も含めている。また、促音便は「をはつて」のように表記されるのが通常であるが、「っ」が用いられる場合もあり、両方の表記を考慮しなければならない。表(1)、表(2)のように3段階に分けて検索するのは送り仮名の揺れの問題(「始め、はじめ、始」、「終る、終わる、終」など)、表記の揺れの問題(「をはる」、「をわる」など)をそれぞれ個別に考慮しつつ検討していくためである。なお、この検索には検索ツール「ひまわり」を用いた。

¹ 本報告では雑誌『太陽』が出版されていた当時のもっとも標準的な表記であると推定される「～をはる」という表記を用いる。これは表(3)のひらがな表記の延べ語数によっても裏付けられるものである。

I. 「～はじめる」の異表記のチェック

「はじめる」のルビ検索に用いた条件を表(1)にまとめる。

表(1) 「はじめる」のルビ検索に用いた条件とヒット件数

条件	ルビ完全一致検索文字列	後文脈検索文字列	ヒット件数
1	[はハ]	[じジ][むムめメ]	0
2	[はハ][じジ]	[むムめメ]	67
3	[はハ][じジ][むムめメ]		566

表(1)に示した条件「1」によりルビ検索を行なった結果ヒットはなく、条件「2」では67例がヒットし、「一、開業、最初、初、始、初旬、濫觴」という漢字表記がルビ完全一致の結果として収集された。また、条件「3」では566例がヒットし、「始、初、甫、肇」という漢字がルビ完全一致の例として収集された。これを参考にし、「～はじめる」は、「始、初、創、一、甫、肇」²という六つの漢字で表記されていたと判断した。なお、「最初、初旬、開業、濫觴」は以下の例(1)、(2)のように名詞としてのみ用いられており、動詞「はじめる」に用いられた例は見られないため除外する。

(1)「『それを考へるとねえ。』と、お瀧も悄然として、『あゝ～～、何方にしても苦勞が斷えないのだからねえ。』『左様さねえ。』お瀧を誠める積であつたお安も、最初の思案を變へたのか、お瀧と同じ様な事を云ふて歎息するのであつた。」(1901年1号／櫺紅葉／広津柳浪)

(2)「小池は女中の口から聞き得たお高の身上を、彼此と想回らし始めた。一體小池が此館に來たのは去年の九月初旬で、最早避暑客も大分歸り出した頃だツたが、それから秋も冬もずつと居通して、既に滿一年にもならうといふので、」(1909年14号／心実印と預金帳／柴田流星)

II. 「～をはる」の異表記のチェック

次に、「をはる」のルビ検索に用いた条件を表(2)にまとめる。

²『太陽』において、「始」は「始、始む、始め」、「初」は「初、初む、初め」、「創」は「創む、創め」、「一」は「一、一む、一め」、「甫」は「甫め」、「肇」は「肇む、肇め」という例が現れている。(以上は送り仮名の揺れを問題にするため便宜上すべてひらがなで記しているが、実際にはひらがな表記・カタカナ表記の異同、混交といったことも別途考慮する必要がある。脚注3の「～をはる」も同様)

表(2) 「をはる」のルビ検索に用いた条件とヒット件数

条件	ルビ完全一致検索文字列	後文脈検索文字列	ヒット件数
1	[おオをヲ]	[わワはハ][らラりりるルれレろロつつっん]	25
2	[おオをヲ][わワはハ]	[らラりりるルれレろロつつっん]	255
3	[おオをヲ][わワはハ][らラりりるルれレろロつつっん]		15

表(2)に示している条件「1」によりルビ検索を行なった結果 25 例がヒットし、「終、追、負、緒、逐」という漢字がルビ完全一致の例として収集された。条件「2」では 225 例がヒットし、「終、遂、卒、畢、了、訖」という漢字が、また条件「3」では 15 例がヒットし、「畢、裁縫、裁縫業、終局、終」という漢字がルビ完全一致の例として収集された。これを参考にし、「～をはる」は、「終、了、畢、訖、遂、卒」³という六通りの漢字表記が行われていたと判断した。動詞「をはる」と関係のない漢字表記である「算、追、裁縫、裁縫業、終局、負、緒」の例は除外する。例えば(3)、(4)のような例は除外されることになる。

(3) 「右の臂を引き投げに狗の兒の如く投げしかば忽ち倒とまろびけり。これにはすこしも。目もくれず。逃る小兒等を追はんと。かの童は足をとゞめず。忽ち見えなくなりけり。かの翁はこれを見て。慌れ果て。こはいかに。何この和郎ぞ。賤しきものゝ子とも見えぬ衣の装なるに と。」(1895年10号/阿新/依田学海)

(4) 「處を、僕は私窩だ、と思つた。『あゝ、隣家の、……ぢや、あの裁縫をして居た娘の姉さん か。』本を見ながら、頷くではありませんか。」(1909年6号/貸家一覧/泉鏡花)

2.2. 検索の実行

I. 「～はじめる」

まず、「始、初、創、一、甫、肇」の六つの漢字に「む、ム、め、メ」が後接する例すべてを対象として検索した。現代語の「はじめる」(下一段活用動詞)は文語では「はじむ」(下二段活用動詞)であって、活用語尾が「む」であるものもとるということになる。また、ひらがな表記とともにカタカナで表記されているものやひらがな・カタカナ混じり表記のものも検索条件に入れている。

³ 『太陽』において、「終」は「終、終る、終はる」、「了」は「了る、了はる」、「畢」は「畢、畢る、畢はる」、「訖」は「訖る」、「遂」は「遂る」、「卒」は「卒る」という例が現れている。

以下、①-⑩のように検索を分けて行うのは、現在は用いられない表記(「^{はじ}甫む、^{はじ}甫める」、^を「畢わる、^を畢る」など)を中心に、それぞれのバリエーションによって出てくるゴミ(不要な例、無関係な例)のあり方が異なることが予想されるためである。

- ① 始[むムめメ]
- ② 初[むムめメ]
- ③ 創[むムめメ]
- ④ 一[むムめメ]
- ⑤ 甫[むムめメ]
- ⑥ 肇[むムめメ]
- ⑦ はじ[むムめメ]
- ⑧ ハジ[むムめメ]
- ⑨ はジ[むムめメ]
- ⑩ ハじ[むムめメ]

II. 「～をはる」

まず、「終、了、畢、訖、遂、卒」の六つの漢字に「ら、ラ、り、リ、る、ル、れ、レ、ろ、ロ、つ、ツ、っ、ッ、ん、ン」が後接するものすべてを対象に検索した。「～をはる」の漢字表記の場合、送り仮名の揺れの問題があり、例えば「終わ[るル…]」、「終は[るル…]」、「終[るル…]」のいずれも検索が必要となる。また、発音に引きずられて誤表記された可能性も考慮し「おは[るル…]」・「をわ[るル…]」も入れている。なお、上述の全てのパターンについて、漢字、ひらがな、カタカナ表記を始め、漢字・仮名混じり表記、ひらがな・カタカナ混じり表記などをすべて考慮する形で検索を行っている。

- ① (終わ?⁴|終は|終ハ)[らりりるルれれろ口つつっん]
- ② (了わ?⁴|了は|了ハ)[らりりるルれれろ口つつっん]
- ③ (畢わ?⁴|畢は|畢ハ)[らりりるルれれろ口つつっん]
- ④ (訖わ?⁴|訖は|訖ハ)[らりりるルれれろ口つつっん]
- ⑤ (遂わ?⁴|遂は|遂ハ)[らりりるルれれろ口つつっん]
- ⑥ (卒わ?⁴|卒は|卒ハ)[らりりるルれれろ口つつっん]
- ⑦ おわ[らりりるルれれろ口つつっん]
- ⑧ おは[らりりるルれれろ口つつっん]
- ⑨ をは[らりりるルれれろ口つつっん]
- ⑩ をわ[らりりるルれれろ口つつっん]

⁴ “?”は「直前に指定された文字(列)が0回または1回現れる」という意味である。(中山編 2009:83 参照。)したがって、この条件を用いることにより「終[らりる…]」、「終わ[らりる…]」などの送り仮名の異なる例をいずれも検索することが可能になる。

- ⑪ おワ[らラリリるルれしろ口つつっん]
- ⑫ ヲワ[らラリリるルれしろ口つつっん]
- ⑬ おハ[らラリリるルれしろ口つつっん]
- ⑭ をハ[らラリリるルれしろ口つつっん]
- ⑮ ヲハ[らラリリるルれしろ口つつっん]
- ⑯ ヲワ[らラリリるルれしろ口つつっん]
- ⑰ ヲハ[らラリリるルれしろ口つつっん]

筆者は以上のような検索条件を設定して検索を行なった。その詳細は表(3)に示す通りである。今回はこれらについての詳しい分析には入らないが、このような作業によって、表記による特徴もみることができると考えたからである。表(3)に示している検索条件は次のような正規表現にまとめることも可能であるが、今回は検索・ヒットした例の検討に際しての利便性を優先し、このような形は取らなかった。

「～はじめる」を検索するための正規表現

(始|初|創|一|甫|肇|はじ|ハジ|はジ|ハジ)[むムめメ]

「～をはる」を検索するための正規表現

(終わ?|終は|終ハ|了わ?|了は|了ハ|畢わ?|畢は|畢ハ|訖わ?|訖は|訖ハ|遂わ?|遂は|遂ハ|卒わ?|卒は|卒ハ|おわ|おは|をは|をわ|おワ|ヲわ|おハ|をハ|ヲは|ヲワ|ヲハ)[らラリリるルれしろ口つつっん]

【以上のような最終的な条件が決まるまでの経緯】

最初は、表(1)、表(2)のようなルビ検索を用いた漢字異表記の検討を十分に行なえておらず、「～はじめる」については、漢字「始、初、創」だけを検索し、「～をはる」については「終」以外の漢字異表記を検討できていなかった。また、語幹のひらがな表記の一部(「をわ[るル…]」)やひらがな・カタカナ混じりのもの(「をワ[るル…]」、「ヲは[るル…]」)などが抜けていた。その為、ヒットした用例数は「～はじめる」4,793件、「～をはる」1,069件で、総数5,862件、局面動詞であると判断したものは「～はじめる」462例、「～をはる」70例で、総計532例であった。しかし、中山編(2009)を読んで再度検討した結果、最終的に設定した検索条件により収集されたものは「～はじめる」4,832件、「～をはる」2,354件の総数7,186件、局面動詞であると判断したものは「～はじめる」462例、「～をはる」168例の総計630例で、最初の収集時には採れていなかった用例が多数得られた。

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

表(3)に示すような条件による検索で、「～はじめる」用に設定した検索条件では計 4,832 件、「～をはる」用の検索条件では計 2,354 件がヒットし、総計 7,186 件がヒットした。このファイルを Microsoft Excel で開き、既存フォーマットに合わせ整形し、Excel ファイル(拡張子 “.xls”)として保存した。全例を読みながら局面動詞であると判断されるものを手作業で取り出した結果、「～はじめる」が計 462 例、「～をはる」が計 168 例、総計 630 例が得られた。最初にヒットした 7,186 件のデータすべてをエクセルファイルの「Sheet1」に、そのうち局面動詞であると判断される例を抽出したものは「Sheet2」に入れている。また、本ガイドブックのフォーマットに合わせたものを「Sheet3」に入れている。なお、分類できなかったものも「Sheet2」の最後に示す。

表(3) 検索条件と局面動詞の分布の詳細

	検索条件	ヒット数	局面動詞
～はじめる	始[むムめメ]	2,669	243
	初[むムめメ]	1,658	127
	創[むムめメ]	36	2
	一[むムめメ]	18	0
	甫[むムめメ]	15	0
	肇[むムめメ]	6	0
	はじ[むムめメ]	360	82
	ハジ[むムめメ]	3	0
	はジ[むムめメ]	0	0
	ハジ[むムめメ]	0	0
	ルビ完全一致	67	8
小計		4,832	462
～をはる	(終わ? 終は 終ハ)[らラりりるルれレろロつつ っっん]	1,207	95
	(了わ? 了は 了ハ)[らラりりるルれレろロつつ っっん]	880	52
	(畢わ? 畢は 畢ハ)[らラりりるルれレろロつつ っっん]	97	8
	(訖わ? 訖は 訖ハ)[らラりりるルれレろロつつ っっん]	18	4
	(遂わ? 遂は 遂ハ)[らラりりるルれレろロつつ っっん]	13	0

(卒わ? 卒は 卒ハ)[らラりりるルれレろロつツ っっん]	10	0
おわ[らラりりるルれレろロつツっっん]	3	0
おは[らラりりるルれレろロつツっっん]	1	0
をは[らラりりるルれレろロつツっっん]	88	8
をわ[らラりりるルれレろロつツっっん]	12	0
おワ[らラりりるルれレろロつツっっん]	0	0
ヲわ[らラりりるルれレろロつツっっん]	0	0
おハ[らラりりるルれレろロつツっっん]	0	0
をハ[らラりりるルれレろロつツっっん]	13	0
ヲは[らラりりるルれレろロつツっっん]	0	0
ヲワ[らラりりるルれレろロつツっっん]	0	0
ヲハ[らラりりるルれレろロつツっっん]	0	0
ルビ完全一致	12	1
小計	2,354	168
総計	7,186	630

局面動詞であると判断される例⁵

(5)「所謂三味線は石村檢校が弾き創めた物で、こゝに第二合奏の時代をきざした物で有ます、石村の作り始め⁶し曲は琉球組を始めとして段々作りそへ、亦次で虎澤、阿佐理、佐山の諸檢校出でゝ作曲をなし、中にも佐山は本調子の外に二上り三下り等の調子を考へ、本曲の外に外曲をも多く作った人で、京都よりわざ〜」(1895年12号/国楽改良意見(承前)/松本操貞)

(6)「幾多の困難と苦楚とに克ちて、二里の山路、からくもに登り終れば、灌莽漸くに低く、忽ちにして青草氈の如くなれる一笏の平地に出でたり。之を北峰の頂となす、近きあたりの峰頂には、例の測量部の物見やぐら、いかめしく聳えて立てり。」(1901年4号/鎮西遊記(接前号)/久保天随)

除外したものの例

⁵ ここに示している例は、ツール「ひまわり」で検索する際に検索オプションとして検索文字列の前後文脈長を「100文字」に設定したものをそのまま示している例である。

⁶ 以下、下線は筆者が便宜上付したものである。

以下の(7)、(8)のように本動詞として用いられるものや(9)のように名詞として用いられるもの、(10)のように副詞として用いられるもの、(11)のように動詞「はじめる」、「をはる」と直接関係のない用例もヒットしたのでこのような例などを除外した。

(7) 「トルストイの門人等が、資を募つたとかで、獨逸で兒童救濟の爲めに教育演劇様の者を始めた。凡べて悲惨とか、残忍とか、酷薄とか、或は悲憤とかいふ趣味を、悉く避けて、全然旺盛なる精神と、快活なる氣象とに富んで居つて、其中に奮發すべく又戒心すべき分子を含ませ、」(1901年10号／社会事情／国府犀東)

(8) 「胡地を想へば聞くに堪へず 昭君は如何に故郷を離れて夷國の空に聞くやらんと悲むところへ 尚ほ昭君の最期ならびに番王の延壽を送り來しことを奏すれば、延壽を斬るべき由を命じて終る、此劇昭君を主とせず元帝を主として、在來の話に一作意を加へたるに過ぎずといへども、暗に官員を罵ることを主となしたる歟の如く見ゆ、」(1895年9号／元時代の雜劇(七)／幸田露伴)

(9) 「而して現今彼等宣教の機關としての會堂は、無量一萬にして宣教者十萬又多大の數にあらずや、嗚呼明治の初めに於ける政府の措置其當を得ざりしが爲めに、百害ありて一利なき如是の淫祠邪教は、文明の進歩を以て誇り居る廿世紀の今日、彼の如き跳梁跋扈を逞うしつゝあり、」(1901年14号／宗教時評／龍山学人)

(10) 「予は佛教を研究すること愈深くして之が開祖を敬する念、愈々薄らぐことを白状せざるを得ず、始めて一瞥するときは佛教の眞面目、道德の原則正に此に在るべしと思はるべけれども、之を究むること精なるに従ひて終に全く其跡を失ふに至る。」(1895年9号／基督教徒の仏陀論／鈴木大拙(訳)；ポール・ケーラス(作))

(11) 「その日の夜、本田の死去の通知を私は受取つた。本田が死んだのは私が夢を見た晩の朝であつた。本田の死に接した時私は何故かその夢をはつきり思ひ浮べた。そして一層まぎれと私の意識のうちにその夢が甦つてきた。本田の死とその夢とが何の関係があるか私には更に分らなかつたが、その二つが如何にもよく調和してゐた。」(1917年10号／本田の死／豊島与志雄)

除外すべきか迷つた例

(12)、(13)のように「動詞の連用形+はじめる／をはる」であるのか、「動詞の中止形」に「はじめる／をはる」が後接したのか判断しにくいものがあり、このような例はどう分類すべきか迷つた。これらの例は副詞「はじめて」の一部、あるいは「動詞の中止形」に後続した本動詞「はじめる／をはる」と判断し、本報告では除外している。

(12)「之れ自然の勢にして、生産費の如何に深く意を止むるに於ては、其目的とする生産の増加を期し得ざる多きに因る、研究者の側より之を見るも固より咎む可きにあらずして、自己の目的とする所に勇進し始めて成績を擧ぐるを得るなり、是故に生産の増加を主とする研究にのみ農業を委せば、農産の増穫は大に期し得可きも、或は農業の利益は却て減殺さるゝの恐れあり、」(1901年7号／農業世界／上野英三郎)

(13)「今宵は。 やすみ候へ とありしかば。 阿新はうや～～しく。 父に向ひて。 額を突き。 また母君に。 思はぬ事にて。 いたく御心を苦め奉りぬ。 ゆるさせ給へといひ終りて。 己が曹司にかへり給ひぬ。 資朝卿は。 御子のの給ひし事を。 理ならずとは思はざりしかど。」(1895年10号／阿新／依田学海)

分類できなかったもの

(14)「四 百濟河成 先に奈良朝の繪畫を述べたる際に、佛畫の外に漢畫の漸やく行はれ初めしを説きしが、是の傾向は王朝に入りて益々増進せしものゝ如し。殊に嵯峨帝の御世には、よろづ漢風を好ませられし影響として、繪畫にも亦漢風の行はれたる著しかりきと覺ばし。」(1901年2号／王朝の繪畫／高山樗牛)

(15)「父に向ひて。 額を突き。 また母君に。 思はぬ事にて。 いたく御心を苦め奉りぬ。 ゆるさせ給へといひ終りて。 己が曹司にかへり給ひぬ。 資朝卿は。 御子のの給ひし事を。 理ならずとは思はざりしかど。」(1895年10号／阿新／依田学海)

3. 総括

以上、本報告では雑誌『太陽』の中に現れる動詞「はじめる」、「をはる」の用例を実際に収集し、その収集の条件や注意点などを述べた。筆者は今回表記による個別的な検索を行い、それぞれの延べ語数を示す方法を選んだ。このような行程を採ることにより、雑誌『太陽』が書かれた時代の表記のバリエーションを分析する際にも役立つ資料となると考えている。また、本報告では動詞「はじめる」と「をはる」の局面動詞として用いられる場合の用例の取捨選択の基準についても述べた。このように選ばれた局面動詞についてさらに分析を進めていけば、当時の局面動詞が現れる構文的な条件や前接する動詞の特徴について、現代語との比較も可能であろう。さらには、本動詞と局面動詞の出現の割合や表記の特徴についての時代による比較という方向にも発展していくことができると考えられる。

参考文献

高橋太郎 2003『動詞九章(ひつじ研究叢書(言語編)第33巻)』ひつじ書房。
中山健一編／早津恵美子監修 2009『論文執筆支援シリーズⅡ 外大性のための日本語研究

第9節 「～はじめる」と「～をはる」

ガイドブック』東京外国語大学大学院地域文化研究科 グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」.

第10節 「～化する」

佐藤 佑

1. 収集の目的

先行研究（小林 2004 他）でその高い生産性が指摘されている、接辞「化」を含むサ変動詞（「映画化する」「活発化する」などの、[名詞・形容詞語幹など]+「化」+「する」）が、雑誌『太陽』のデータにおいてどのような語形成の生産性を見せているか調査するための足がかりとして、同形式の用例収集を行う。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

○サ変動詞「す」「する」の異表記チェック

まず、文語サ変動詞「す」および口語サ変動詞「する」の表記の可能性を、検索ツール「ひまわり」のルビ検索機能を用いて検討する。

「す」（文語）は、「せらる/せず」（未然形）「したる」（連用形）「す」（終止形）「すること」（連体形）「すれども」（已然形）「せよ」（命令形）のように活用する。また、「する」（口語）は、「しない」（未然形）「して」（連用形）「する」（終止形）「すること」（連体形）「すれば」（仮定形）「しろ」（命令形）のように活用する。口語の表記としては現代通用の日本語と、『太陽』発刊当時との間に違いはないと考えられる。

以上のような「す」「する」の語根（下線部）の頭文字がすべてヒットする条件を考えると、カタカナ表記の可能性も考慮して [しすせ시스セ] のようになる。また、上記の他、「される」「させる」（いずれも口語）のような派生語の問題も考慮する必要があるため、「さ」「サ」も条件に含めることになる。

これらの動詞の漢字表記のパターンとしては以下の2通りが考えられるため、2回に分けてルビ検索を行った。

・「^す為る」型表記（送り仮名あり）の検討

「ひまわり」を用い、[さしすせサシスセ]¹で「ルビ（完全一致）」検索を行い、表記を確認する。

¹ 実際は、特に「さ」「せ」について後続する形式が限られるため、四字をまとめてではなく一字ずつ検索し、キーまたは後続文脈でソートしてから検討に入った方がスムーズかつ確実である。

- ・「^{する}為」型表記（送り仮名なし）の検討²

【すス】[るれルレ] で「ルビ（完全一致）」検索を行い、表記を確認する。

以上の検索の結果、「す」および「する」には「仕」「爲」以外の漢字表記はないことが確認された。

○「～化する（る）」の異表記チェック

「ひまわり」の「ルビ（完全一致）」検索でメインのキーを【かカ】、後文脈【さしすせサシスセ仕爲】で、「化」以外の表記の可能性がないか検索する（→「化」以外の表記はないと判断）。

2.2. 検索の実行

まず、『太陽コーパス』における「～化する（る）」の表記のバリエーションは、2.1.で検討した「化」と「する」の組み合わせ（すなわち、漢字「化」に「仕」「爲」およびひらがな「さ」～「せ」、カタカナ「サ」～「セ」のいずれかが後続する形）がすべてであると判断できる。「〇〇化は/も……しない」のような取り立て的な形でも、「食べはしない」「見もしない」などと同様に動詞の用法の一種として扱われるべき例があり得るが、仮にそうした形でしか現れない「〇〇化」という語が『太陽コーパス』内にあったとして、それが当時の言語感覚として「サ変動詞語幹」たりえたという確証は得られないことになる。また、そもそも言語感覚が異なる可能性も考えると、そうした例を対象に含むべきか否かの判断はつきかねた。よって、まずはどのような「〇〇化」が確実にサ変動詞語幹として用いられるかを、「〇〇化する（る）」という語形の可否によって見極めることとした。

以上を踏まえ、「本文（正規表現）」で 化【さしすせサシスセ仕爲】を検索条件に設定し、ツール「ひまわり」を用いて検索を実行した。

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

2.2.の条件で検索した結果、ヒットした用例の内訳は以下の表に示すとおりである³。

表(1) 検索結果

ヒット件数	対象とする用例	対象外の用例
1394	1122	272

² 「せさす」「せらる」「させ」「され」……など（あるいはその頭から二文字以上の部分）が漢字で書かれることは経験的にないと判断した。念のためそれらの表記についても「ルビ（部分一致）」で“[せセ][さらサラ]”“[さサ][せれセレ]”を条件として別途検索してみたが、該当する例はヒットしなかった。なお、「不爲」＝「せず」のような表記が用いられる場合もあるが、肯定形が一通り見られていれば十分（同一記事において、否定形に限り異なる字が用いられることは考えがたい）と判断した。

³ これにはたとえば「變化」「歸化」など語幹の一語性が高い（他要素＋「化」の分析意識が働きにくい）ものも含まれるが、やはり現代語の感覚で安易に排除することが必ずしも適当でない場合もありうるため、現段階では残している。

いわゆるゴミ捨て（関係ない例の排除）およびデータの調整は、以下の手順で行った。

- ①「ひまわり」の検索結果をテキストファイルに出力した後、csv ファイルに変換する⁴。
- ②作成した csv ファイルをテキストエディタ（サクラエディタ）で開き、意味解釈上関係ないと判断された例をキーとする行を手動で削除していく。また、検索条件との兼ね合い上「～化する」の前項部分および「～化する」「～化する」などの下線部がキーから分断されている（後文脈セルの冒頭に含まれてしまっている）ため、そうした例については適宜カンマ（,）の位置を調整する⁵。
- ③データの取捨選択、調整の済んだ csv ファイルを Microsoft Excel で開き、既存フォーマットに合わせ整形し、Excel ファイル（拡張子 “.xls”）として保存する。

得られた用例には、たとえば以下のようなものがあつた。

- (1)是の如き變化を宗教文學に及ぼしたる同一の風潮は、亦美術の上にも及びてそれを日本化したり。（1901年2号/王朝の絵画/高山樗牛）
- (2)さて蠶兒が絹絲を製するには絲腺なる一機關を以てす、此機關は腹部營養器の兩側にありて流動液を容る、此流動液の吐絲口と名づくる口側にある孔より出づるや硬化して絲縷となるものなり、（1895年4号/支那衰弱の理由/川田甕江）

一方で、排除した例は以下の2パターンが大多数を占めた。

- ・一字漢語サ変/四段動詞「化する」
 - (ア)世界各國虎視眈々互に隙を窺ふの併呑主義は近世商業交通の進歩人文の發達と共に既に富國の所以に非るに至り侵畧主義は變じて通商主義と化し各國皆其通商貿易を以て雌雄を決するに至れり。（1901年5号/「商業世界」/祖山鍾三；佐野善作）
- ・「誤魔化す」^{ほか}「化する」など、サ変動詞の語根以外の混入
 - (イ)英國もドイツも、フランスも、みんなアメリカに支拂ふ利子をゴマ化さうとあせつてゐるではないか。（1925年12号/「第二軍縮會議を召集せんとする米國大統領クーリツヂ氏」/不詳）
 - (ウ)それがアラスカ金坑熱が盛んな時で、例の銅河の端は狐に化された様な人間が、血眼でウロ～～、下ばかり見詰めて歩いて居る際だ。（1909年1号/「冒険慘話」/江

⁴ csv ファイルについては中山編（2009:95-96）を参照。

⁵ “する” → “する、”、“すれ” → “すれ、” のように一括変換をかけた上で、別途不自然な切れ方をしている部分について手動で修正する形とした（ただし、実際には再修正を要する部分は見当たらなかった）。

見水蔭)

前者については「〇〇化する」との関連、特に通時的に見る場合の派生関係（元々中国語で盛んに行われていたと思われる「～化」の語形成が日本語に取り込まれた際、パターンとして「～化する」「～と化する」の二者のせめぎ合いがあったことは想像に難くない）を考えると必ずしも無視していいものではないが、「化する」は当時すでに四段化がかなり進んでおり（たとえば文語体でも助動詞「む」が後接する場合などは「化せむ（ん）」ではなく「化さむ（ん）」になることが多い）、単純に比較はできないとの判断から今回は対象外とした。今後必要になる可能性を考慮して、Excel データにおいてはこれらを別シートに保存したが、「化する」の例が混入している可能性があり、今後詳細な取捨選択を必要とする。

3. 総括

以上、『太陽コーパス』におけるサ変動詞「～化する」の用例収集について報告した。概ね網羅的に収集を行い、データ整備を適切に行うことができたと思われるが、今後はこのデータを用いて雑誌『太陽』におけるサ変動詞「～化する」の使用実態、生産性等の変遷を分析していくことを目指したい。

先行研究では、接尾辞「化」について「ある性状・状態に一すること/なること」（田窪 1986）といった意味規定が行われているのみで、その下接する要素との関係のあり方については十分な考察がなされていない。小林（2004）は「動名詞」＋「化」（たとえば「安定化」と「動名詞」単体（たとえば「安定」）との間にどのような異同が認められるかについて詳細に記述しているが、その他のタイプの意味的な側面についてはごく簡単にしか言及していない。加えて、専ら漢字三文字の「□□化」のみを扱っており、二字の「□化」および四字以上の「～化」についてはほとんど言及がない。こうした問題についても通時的な分析を行っていく足がかりとして、『太陽コーパス』のデータを活用していく術を検討していきたい。

『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』では最終的に形態論情報などのタグが実装される予定であるのに対し、本コーパスのデータにはそれらの情報が付与されていない。通時研究を行う際には、こうした不統一を改善すべく、形態素解析やタグ付与の方法について学んでいくことも今後の重要な課題である。

参考文献

- 小林英樹 2004 『現代日本語の漢語動名詞の研究』 ひつじ書房。
 田窪行則 1986 「一化」『日本語学』 5-3, pp.81-84, 明治書院。
 中山健一編／早津恵美子監修 2009 『論文執筆支援シリーズⅡ 外大生のための日本語研究ガイドブック』東京外国語大学大学院地域文化研究科 グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」。

第11節 「～つつある」

中山 健一

1. 収集の目的

「～つつある」「変わりつつある」「向かいつつある」など形式の用法の通時的変化の調査の一環として、明治・大正期の書き言葉と、現代語の書き言葉とを比較する。明治・大正期の書き言葉の言語資料として、『太陽コーパス』を用いることとする。

以下に、簡単に背景を説明する。

「～つつある」形式は、先行研究（金水 2000:51-52）で「設定時が運動の動的・進展的な過程の最中にある」という意味を表わすとされるように、ある設定時において動作・変化が進む過程にあることを表わす。金水氏は、「主体変化動詞、主体動作動詞、主体動作・客体変化動詞など幅広い動詞につくことができる」とし、それぞれの動詞の場合の例（作例ではなく実例）を挙げている。確かに、さまざまな動詞につきうると言える。

しかし、筆者が現代日本語の書き言葉について、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ) モニター公開データ 2008年度版』所収の「書籍」データを用いて分析したところ、動詞タイプによって、出現頻度には大きな偏りが見られ、個別具体的な動作の例は(空間移動を除いて)ほとんど見られず、多くは変化、特に抽象的な変化の例であった。現代語においては、「継続相」(工藤 1995 など)と呼ばれる「～ている」形式が、動作の進む過程を表わす形式として存在する。「～つつある」形式につく動詞タイプの大きな偏りは、他の形式との役割分担に起因するのではないかと考えられる。なお、この点は金水氏の論考を含め、諸先行研究において十分指摘されてない点であり、このことについては別に稿を改めて論じる。

「～つつある」形式について、通時的な意味・用法の変化を論じた研究は、管見の限り見つからない。『日本国語大辞典 第二版』(第9巻 p.357)の「つつ」の項の下位項目「つつある」によれば、この形式は古くから使われており、かつ、意味の中核は大きく変化していないようであるが、しかし、他の形式との張り合い関係によって、その用法は変化している可能性がある。どのような出来事の場合に(つまり、動詞タイプがどのような場合に)「～つつある」形式がよく使われるのかについて、通時的な調査を行なう必要がある。

以上の目的から、『太陽コーパス』を用いて「～つつある」形式の用例収集を行なう。なお、次節以降「～つつある」形式を「当該形式」と呼ぶ。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

当該形式は語レベルに分解すると、動詞のいわゆる連用形+「つつ」+「ある」となる。

まず「つつ」について、「つつ」をはじめ、「ツツ」、「つゝ」、「ツゝ」(さらに念のため、「つつ」と「ツつ」)で「ルビ検索(完全一致)」した結果、当該形式の「つつ」の部分が漢字で書かれ、それにルビの振られた例は見あたらなかった。「つつ」は仮名のみで検索してよいと考えられる。

「ある」について、「あ」と「ア」、さらに、送り仮名が省略された場合を想定し、「あら」、「あり」、「ある」、「あれ」、「あろ」、「あつ」、「あつ」(および、そのカタカナ表記)で「ルビ検索(完全一致)」をした。その結果、「ある」は「有」と「在」の漢字を用いて書かれることがあることが分かった。さらに、内省により「存」を追加した。(しかし、結果的には、「存」の字が当てられる例はなかった。)

2.2. 検索の実行

2.1.の検討結果から、以下の 16 パターンを考えた。

"つつあ" "つゝあ" "ツツア" "ツゝア"
 "つつ有" "つゝ有" "ツツ有" "ツゝ有"
 "つつ在" "つゝ在" "ツツ在" "ツゝ在"
 "つつ存" "つゝ存" "ツツ存" "ツゝ存"

結果的に、これで問題がなかったが、しかし、「つつ」と「ある」が異なる仮名(一方がひらがな、他方がカタカナ)で書かれる可能性が 100%排除できない。(なお、「つつ」について、念のため「つつ」や「ツつ」といった表記の可能性も考え別途検索したが、存在しなかった。) このこともふまえ、以下の検索条件を設定した。

- ① つつ[あア有在存]
- ② つゝ[あア有在存]
- ③ ツツ[あア有在存]
- ④ ツゝ[あア有在存]

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

対象外の例の取り除き作業は、すべての検索結果を 1 つの Excel シートに貼り付けたのち、「後文脈」で並び替えを行なったうえで、1 つ 1 つチェックした。

検索ヒット総数は 2576 であったが、そのうち、当該形式と思われる例は 2572、当該形式と関係のない、対象外の例は 4 であった(表 (1))。

表(1) 検索結果(全体)

ヒット件数	対象とする例	対象外の例
2576	2572	4

正規表現別では、以下のようであった。

表(2) 検索結果(正規表現別)

正規表現	ヒット件数	対象とする例	対象外の例
① つつ[あア有在存]	84	83	1
② つゝ[あア有在存]	2489	2488	1
③ ツツ[あア有在存]	2	0	2
④ ツゝ[あア有在存]	1	1	0

当該形式の例として、以下のようなものがある。

(1)近来自轉車の流行につれ種々新案の自轉車發明せられたり、此圖に示せるが如きも亦た其の一にして目下ロンドン府の各處に流行しつゝあり、こは自轉車といふよりもむしろ自轉車を應用したる一種の乗車にて、[後略] (1895年1月/科学)

(2)最後に来るべきものは太平洋時代で、今や列國の競争は、この新舞臺に移りつゝある。この時代の競争は前二者に比して、遙に激烈を加へるに相違ない。(1917年3号/支那学研究者の任務/桑原隲蔵)

対象外の4例は、表に示したように、正規表現③ ツツ[あア有在存]の2例と、① つつ[あア有在存]・② つゝ[あア有在存]の各1例であった。以下に例を挙げる。

(3)あゝ誰れかヒトローフを覺醒してそが本來の義務に歸らしむるものぞ、ブルガリンに於てパニツツア少佐の反亂起りしは彼が責任の罪免れ難くして幸福の星はまさに地に落ちんかと思ひしにさはなくて[後略] (1901年14号/露国の宮廷(承前)/日下逸人(訳))

(4)◎勃軍退却 聯合軍はモナスチル市附近に到達し勃軍は同市を棄てテパウイツツア方面に退却すと。(1917年1号/日誌)

(5)かにかくと此男のいふたびに、僧は小き聲にて何かうなづきつゝあしらひ居たり。はしためはビールをもち來りぬ。(1895年7月/浮世のさが/小金井喜美子)

(6)即ち航洋潜水艇を伴へる主力艦隊は之を利用して終始敵艦隊を威嚇し困惑せしめ
つゝ有利に作戦することが出来る。(1917年5号/潜水艇政策の利害/安井正太郎)

正規表現③ ツツ[あア有在存] で抽出できた例は、すべて対象外であり、結果的には検索しなくてよかった正規表現であるが、そのことを事前に正確に予測することは困難であり、やはり検索は必要であったと言える。

なお、「つつ」と「ある」の間に助詞などが挿入された例の存在は、100%排除できない。そういった例は、今回の検索では収集できない。今回の調査目的に照らし合わせたとき、大きな問題とならないと判断したが、別途、調査が必要かもしれない。むろん、今後、今回の用例を用いて調査を行ない、結果を論文などで公表するさいには、このことを明記する必要がある。

3. 総括

以上、太陽コーパスを用いて「～つつある」形式の用例を収集した。今後、これを分析し、1.1で示したBCCWJの分析結果と比較するわけだが、コーパスの規模やジャンルなどのバランスが同一でないため、単純な比較ができない。比較のさいには、何らかの工夫が必要である。

参考文献

- 金水敏 2000 「時の表現」 金水敏・工藤真由美・沼田善子共著『日本語の文法 2 時・否定と取り立て』 pp.1-92, 岩波書店.
- 工藤真由美 1995 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』 ひつじ書房.
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部 編 2000-2002 『日本国語大辞典 第二版』 小学館. [初版 1972-1976]

第12節 「うれしい」と「かなしい」

福原 聡美

1. 収集の目的

感情形容詞(うれしい／かなしい)の『太陽コーパス』における使用例を網羅的に集める。

感情形容詞として代表的な「うれしい」「かなしい」に絞り、コーパスにあらわれる「うれしい」「かなしい」全てを採集する。現代との使用実態の違いをみるために、今回はひろく、これらが名詞・動詞に派生した語も採集する。

今回はデータを集めることが目的であり、用例の採集のみ行い、分析は行っていない。

2. 検索条件の検討と検索の実行・整理

2.1. 異表記の検討

1) 漢字辞典(藤堂明保・松本昭・竹田晃編(1993)『漢字源(JIS漢字版)』学習研究社。)で異表記を調査。これによって「うれしい」は「嬉」、「かなしい」は「悲、哀、滾、衰」を可能性のある表記として確認。

2) 『太陽コーパス』付属の「ひまわり」の「字体変換」で該当漢字を調査。(1)で得られた漢字以外の表記はないと判断。

3) ルビ(rt)検索を用いて、検索条件に含まれるべき字をさらに調べる。

「ルビ(rt)検索(完全一致/部分一致)」と後文脈の条件を以下のように設定し、調査を行った。

表(1) 「うれしい」の表記の調査結果

ルビ(rt)検索	完全一致/ 部分一致	後文脈	検索された表記 「うれしい」に関するもののみ記載
[うウ](完全一致)	完全一致	[れレ][しシ]	嬉れしい
[うウ][れレ]	完全一致	[しシ]	嬉しい
[うウ][れレ][しシ]	部分一致	—	嬉しい 嬉(うれしみ)

三つ目のルビ(rt)検索([うウ][れレ][しシ]の「部分一致」)は、漢字一字で「うれし」または「うれしさ」「うれしみ」「うれしがる」「うれしかる」などと読む場合があるかどうかを調査するものである。この部分一致の検索を行うことで、「うれしい」のあらゆる活用形のルビの可能性を調べることができる。

部分一致の検索では、「嬉」で「うれし」とよむ例の他に、「うれしみ」と読む用例が1例検索された。検索条件に関しては表(2)の[かカ][なナ][しシ]についても同じである。

表(2) 「かなしい」の表記の調査結果

ルビ(rt)検索	完全一致/ 部分一致	後文脈	検索された表記 (「かなしい」に関するもののみ記載)
[かカ]	完全一致	[なナ][しシ]	—
[かカ][なナ]	完全一致	[しシ]	哀しい、悲しい
[かカ][なナ][しシ]	部分一致	—	哀い、哀む、悲い、悲む、悲哀み、悲哀・ 悲嘆・悲痛 (かなしみ)

部分一致の検索では、「哀む」「悲む」「悲哀む」のように送り仮名つきで「かなしむ」と読む例の他に、「悲」「悲嘆」「悲痛」で「かなしみ」と読む用例が計12例検索された。

ルビ(rt)検索を用いて検索できた例を挙げる。

「嬉しい (うれしい)」

(1) 大都會の刺戟は私の胸に何とも云へない力を吹き込んで、私はたださうしたところをうろついて歩いてゐるだけでも嬉しいのでした。(1917年8号/「母なき子」/長田幹彦)

「嬉しい (うれしい)」

(2) 「…今考へれば可笑いと思ふ、芭蕉などは折句か何か知りもせぬであらう、算術の問題の解けたも嬉しいので、少しも文學的でない、… ((1901年4号/「俳諧新旧派の異同」/正岡子規 (談))

「悲い (かなしい)」

(3) 尤も之れは私共がやつて居る目的の一つで此他又丙午の女とか四目十目(夜目遠目)とかやれ何の日だ杯と云ふ様な事が悲い事には本邦には今日まだ幾等もある迷信で結婚に關係したものの杯を打破壊し度いと思ふのも之れもまた我々の目的の一つである。
(1925年12月/「遺伝と色盲」/石川千代松)

「悲哀み (かなしみ)」

(4) 短髪千筋、この毛よ斷りて、 試に弾け! 溢るゝ悲哀みを。(1909年12号/「父の白骨を埋るの歌」/児玉花外)

「悲痛 (かなしみ)」

(5) …けれども、其悲しみは今迄の悲しみとは全然其趣を異にして居る、今迄の悲痛は、一平民としての悲痛に過ぎなかつたが、今の悲痛は銅山王としての悲痛です、… (1909年5号/「銅山王」/佐野天声)

以上の調査から、「うれしい」で調査すべき漢字表記は「嬉」、「かなしい」は「悲、哀、滾、衰」であることを確認した。しかし、ルビ検索から「うれしい」「かなしい」共に、送り仮名にはバリエーションがあること（「嬉しい」「嬉しい」「悲しい」「悲い」など）、「悲痛」「悲嘆」などいくつかの二字漢字表記を「かなしみ」と読むことがあるとわかった。

2.2. 検索の実行

検索では、嬉[!。、れしいイかカがガキキククケケさサシススソソまمامミむムめメモモン]のように、送り仮名のバリエーションも含めたうえで、形容詞の全ての活用形の可能性を条件にするような文字列検索を行うこともある程度可能である。しかし、「悲」一字で「かなしい」と読む場合や、「嬉」一字のみで「うれしみ」（或いは「うれしさ」）などと読むような「うれしい」が名詞に派生した語を検索する場合は、文字列検索は後続するあらゆる接辞や助辞の可能性を考えなければならず、困難である。そのため、今回は、当該漢字一字のみによる検索と、ひらがな・カタカナの場合の検索で行うという、かなり広い検索条件で検索をかけ、関係のない例を手作業で取り除くという手順をとった。

「うれしい」

「嬉」と [うウ][れレ][しシ]（前文脈、後文脈の指定なし）

「かなしい」

「悲哀滾衰」と [かカ][なナ][しシ]（前文脈、後文脈の指定なし）

なお、「悲痛」「悲嘆」などについては、ルビが付いていて、「かなしみ」など対象となる語であることが明らかなもののみを収集の対象とした。

2.3. 検索後の取捨選択などの経緯

2.2.で設定した条件による検索の結果、以下のような内訳でデータが得られた。

表(3) 「うれしい」の検索結果

検索条件	ヒット件数	対象とする用例数	対象外の用例数
嬉	393	349	44
[うウ][れレ][しシ]	63	63	0
計	456	412	44

表(4) 「かなしい」の検索結果

検索条件	ヒット件数	対象とする用例数	対象外の用例数
[悲哀滾袞]	2338	781	1557
[かカ][なナ][しシ]	56	39	17
計	2394	820	1574

ここで「対象とする用例」としたのものの中には、ルビで「かなしみ」とある「悲痛」「悲嘆」なども含まれているが、ルビのない「悲痛」「悲嘆」は含まれていない。

2.2.で述べた検索条件では、「嬉ぶ(よろこぶ)」「何かなし」や「嬉々」「嬉戯」「悲哀」「悲運」「悲境」「慈悲」「滾々」といった二字熟語など、様々な関係の無い例が検索されてしまう。そのためデータをエクセルファイルに取り込んだ後、エクセルの「並べ替え」機能を使用し、前文脈・後文脈という優先順位のもと昇順(あいうえ順)の並び替えを行って関係の無い用例を手作業で削除した。以上のような手順を踏むことで、後文脈を参考にしながら必要の無いデータをまとめて削除することができ、手作業でも効率的に作業を進めることができる。

取り除いた用例は以下のようなものである。

<ひらがなの文字列は同じであるが、意味の異なるもの>

(6)されば此際英佛側としては、如何かなして露國の親獨熱を驅除して了はねば不安心でならぬ。(1917年5号/「講和再提議と春季総攻撃」/某將軍)

(7)されど、之を維新以前に比べて、女子が單に人間としては、幾何の進歩をかなしたる。(1901年9月/「教育時評」/大町桂月)

<漢字は同じではあるが、読み方および送り仮名の異なるもの>

(8)折角おいで下すつたのに、何も御座いませんが、もう少し佛の傍にゐてやつて下さいまし。佛も嬉びませう。(1917年10号/「感謝」/久米正雄)

<熟語または別の単語の一部>

(9)あのおびただしい蛇どもが、蠢きからみあひ這ひ廻るのを見ると乳呑子は嬉々として聲をあげて笑つた。(1925年4月/「長篇小説 蛇人(第四回)」/三上於菟吉)

(10)自分は、長く思屈して慰藉を求めてゐる人に向つて、更に論難を挑んで、其心

を苛立てることの、無慈悲であるとは知らぬでも無かつたけれど、未だ釋然たらざる難問が一條あつたから、折からと思つて打出した。(1895年4月/「新聞小説(下)」/窓下几上生)

(11)何分お天気が命の商賣ですから、雨が降つたら可哀さうです。(1925年11月/「本所深川 どん底生活記」/新田生)

(12)日章輪廓の始めなく、終りなく、遑々として盡くる所なきは、皇室の天壤と共に極りなきを示して、感拜の念自ら禁ずる能はず。(1901年12月/「日章の国旗を論ず」/松波仁一郎)

取捨選択の結果得られた用例は、以下のようなものである。

「うれしい」

(13)若様の御友達、御玄關迄まゐる人々、一人して今日の御姿にならぶはなしと、うれしくて、一日も早く御輿入遊ばし、御二人かく並びさせたまふが見まゐらせたし。(1985年2号/「露のよすが」/三宅花圃)

(14)『どう致しまして私など、此方から日参いたします。』『まあ嬉しうございますこと、嘘にも然ういつていたゞけると、どんなに心強いことせう。』(1925年14号/「長篇小説 馳つかひ(第六回)」/国枝史郎)

(15)自分はもう懐しさに堪へないでさう夢中で云つた、心には一杯になるほど嬉がある。(1917年4月/「イエッタトリイチエ」/有島生馬) ※「うれしみ」のルビつき

「かなしい」

(16)「佛蘭西の爲には悲い日だけれども、平和になつたのは、神様に御禮を申さ無ければならないんだよ」(1895年8月/「韻語陽秋」/野口寧齋)

(17)...偕も優しくも床しきは佛國の習俗、愛國の情、悲壯の氣あふるゝ廣き議場内十七議員を記念の哀しき色の花束よ、窓より覗く蒼空は嘆き、風は吹く弔ひの歌。(1917年1号/「仏蘭西国民に寄す」/児玉花外)

(18)然るに斯くの如きの人、今や忽ち白玉樓中の客となり、音容才藻兩つながら復た見る可らず、嗚呼悲哉。然れども君が文壇の名聲は既に天下に遍く、其の訃音を傳へて哀惜する者獨り早稻田大學同人のみにあらざるが故に、君が遊魂亦以て慰する所

あるべき歟。(1909年2号/「噫鳥谷部春汀君」/浅田江村)

送り仮名がないような場合、例えばそれらを「かなしみ」と読むか、または別の読み方をするかどうかというのは文脈、ルビに頼らざるを得ないわけであるが、ルビ自体がついているものが少ないため、判断に迷うものもあった。今回は読み方が分からず判断に迷うものも、広く採集した。また「ひまわり」では原典に「嬉」という文字（JIS（第一・第二水準）外の字）が含まれている場合、「嬉」に置き換えられて検索される。これらも「嬉」の異体字として「嬉」と同じように扱ったが、2例ほど「うれしい」と読むのか判断に困る例（(21)）があった。今回はこれも「うれしい」の用例として広く採集した。

判断が難しい例は、以下のようなものである。

(19)されど老いて子に別れ、頼少き境涯に迫りなば、日も暗く、月も光なく、無量の悲は、方寸の胸に波立ちて、恨やらん方なかるべし。(1901年12号/「故独逸皇太后」/長谷川天溪)

(20)...わが皇軍のするときは たゞかふ毎に打かてど 共に出にしながしの 討死
ますときくごとに おくれて出し何がしの 手傷おひつときく毎に よその哀もよ
そならず 明日は我身の上にかと たゞ朝夕にこひいのる 神の恵みぞたのみなる
... (1895年9号/「〈今様新体詩〉」/多)

(21)...先生は毎夜二時間の睡眠を取れば充分で、忙しい時は徹夜の一週位續けて何とも無いとのこと、醫學博士の先生であれば、充分衛生に注意せられた上で其通り。
嬉！非常の人は必ず非常の頭腦を有つものかと、僕は未だに心の中に歎服して居る。
(1895年12号/「睡眠の節減」/石橋思案) 【注：原文では「嬉」】

3. 総括

『太陽コーパス』は、名詞や副詞の使用実態、各年代による推移等を調べるのには適しているが、活用があるもの、たとえば動詞や形容詞といった品詞に関する調査をする場合は、慎重に行う必要がある。

『太陽コーパス』では、現代語とは異なる送り仮名や漢字表記がなされていることが少ない。たとえば「かなしい」に関して言えば、送り仮名の送り方が非常に多様である。そして名詞に派生した語の場合「悲」「悲痛」「悲嘆」などさまざまな漢字で「かなしみ」と読むこともある。全ての原文にルビが付いていないことは仕方がないとはいえ、ではどの「悲」「悲痛」「悲嘆」が「かなしみ」と読まないか、そしてルビの付いていないもので「かなしみ」と読む場合があるのかを正規表現を使って調べるのは難しい。以上のことから、正規表現を用いた検索を行おうとする場合、今回のように、関係ない文字列も多く含まれるような

非常に広い検索条件を設定せざるを得ない。ただし調査する範囲を限定して、例えば今回の場合名詞や動詞に派生した語を調査から外すという手段をとれば、後続するあらゆる接辞や助辞の可能性をかなり除くことができるため、検索条件を細かく設定した調査も可能になる。このように、活用がある品詞の場合は、どのようなものであれば正確な調査ができるか、それを見極めてからコーパスを使用すべきであろう。

今回の調査では「嬉む（うれしむ）」という用例が3例みられた。現代日本語では「うれしがる」とされることが多いだろうか。『太陽コーパス』を利用して、形容詞が動詞に派生した語の各年代による使われ方を調査するのも面白いだろう。

付録

「ひまわり」「たんぽぽ」での検索に用いる基本的な正規表現

※本項は、中山編（2010）より本書の編者が執筆担当した「第8章 正規表現」の一部を抜粋・増補したものです。

[] …中に含まれるいずれかの文字

[abcd] にマッチする文字列：ad,bd,cd

応用として、連続する文字群の始点と終点を-（半角ハイフン）で区切るとそれらのいずれかを選ぶことも可。たとえば[a-g]x とすれば ax,bx,cx,dx,ex,fx,gx がすべて採れる。また、[] 内で個別の文字とハイフンによる文字群は併記可([ac-ely とすると ay,cy,dy,ey が採れる)。

[^] …[]内には含まれる文字以外の文字

[^abc] にマッチする文字列：ac,bc を除き c を（2文字目以降として）含む文字列すべて

() …グループ化

| …区切られた文字列いずれか

（以上の2つは、セットで用いることが多い）

(ab|cd)e にマッチする文字列：abe,cde

* …直前に指定された文字（列）を0回以上繰り返す

abc* にマッチする文字列：ab,abc,abcc…

以下、「文字（列）」は、“()”によるグループ化など、正規表現による条件指定であっても問題ない。

(ab)*c にマッチする文字列：c,abc,ababc…

+ …直前に指定された文字（列）を1回以上繰り返す

abc+ にマッチする文字列：abc,abcc,abccc…

(ab)+c にマッチする文字列：abc,ababc,abababc…

? …直前に指定された文字（列）が0回または1回現れる

ab?c にマッチする文字列：ac,abc

(ab)?c にマッチする文字列：c,abc

. …何らかの一文字（改行は除く）

^ …行頭

\wedge abc にマッチする文字列：abc (ただし、行の最初に現れるもののみ) ¹

$\$$ …行末

abc $\$$ にマッチする文字列：abc (ただし、行の最後に現れるもののみ) ²

$r\{n\}$ …文字 (列) r が n 回繰り返すものにマッチする

$a\{5\}b$ にマッチする文字列：aaaaab

$(ab)\{3\}c$ にマッチする文字列：abababc

$r\{n,\}$ …文字 (列) r が n 回以上繰り返すものにマッチする

$a\{5,\}b$ にマッチする文字列：aaaaab,aaaaaab,aaaaaaab…

$(ab)\{3,\}c$ にマッチする文字列：abababc,ababababc,abababababc…

$r\{n,m\}$ …文字 (列) r が n 回以上 m 回以下繰り返すものにマッチする

$a\{1,3\}b$ にマッチする文字列：ab,aab,aaab

$(ab)\{1,3\}b$ にマッチする文字列：abc,ababc,abababc

¹ たとえば検索条件を「 \wedge 太郎」とした場合、「太郎は花子を……」のように始まる行はヒットし、「そのとき、太郎は花子を……」のように始まる行はヒットしない。ただし、日本語では行頭において全角スペースが挿入されることが多いので、対象のファイルにそのようなものがないか確認する (スペースがあるファイル、ないファイルが混在する場合、「 \wedge 」と探したい文字列の間に「 $?$ 」を入れるなど工夫する) 必要がある。

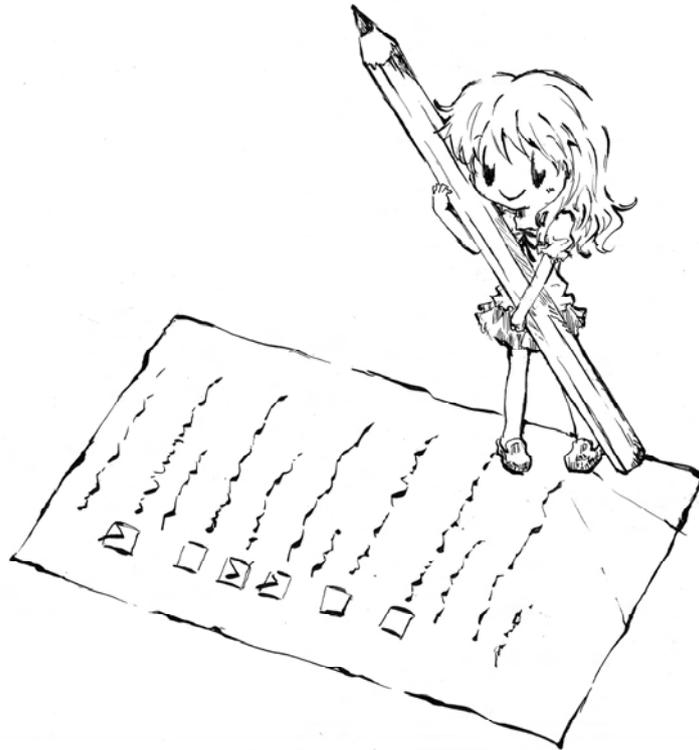
² 『太陽コーパス』の xml ファイルの構造上、行中の引用部分などは地の文と区切られており、その冒頭や末尾が行末と同様に検出される場合がある。たとえば本文が“「では俺が行く」と太郎は言った”となっている場合、改行はなくても“ \wedge 「では”や“行く” $\$$ ”でヒットすることになる。

用例収集の条件設定 チェックシート

以下の項目にチェックを入れつつ、検索条件が正しく設定できているか確認してください。

- 文語・口語を問わず、現代語と仮名遣いが異なる（旧仮名遣いの）部分があることに注意して条件を設定しましたか？
- （活用語の場合）その語は文語でどのように活用するか確認しましたか？
- ルビ検索などにより、異表記の可能性を検討しましたか？
- 漢字表記に、『太陽』では用いられていない新字は混じっていませんか？（→「字体変換」ボタンで確認）
- 漢字・カタカナ交じりや、ひらがな・カタカナの入り交じった表記も考慮して検索条件を設定しましたか？
- （活用語の場合）ルビ検索・本文検索ともに、送り仮名が現代語と異なる可能性（e.g. 「^{はやい}早」「^{はや}早い」「^は早やい」）を考慮できていますか？

以上をクリアできたら、「ひまわり」「たんぽぽ」を使って検索を実行し、用例の取捨選択を行います。

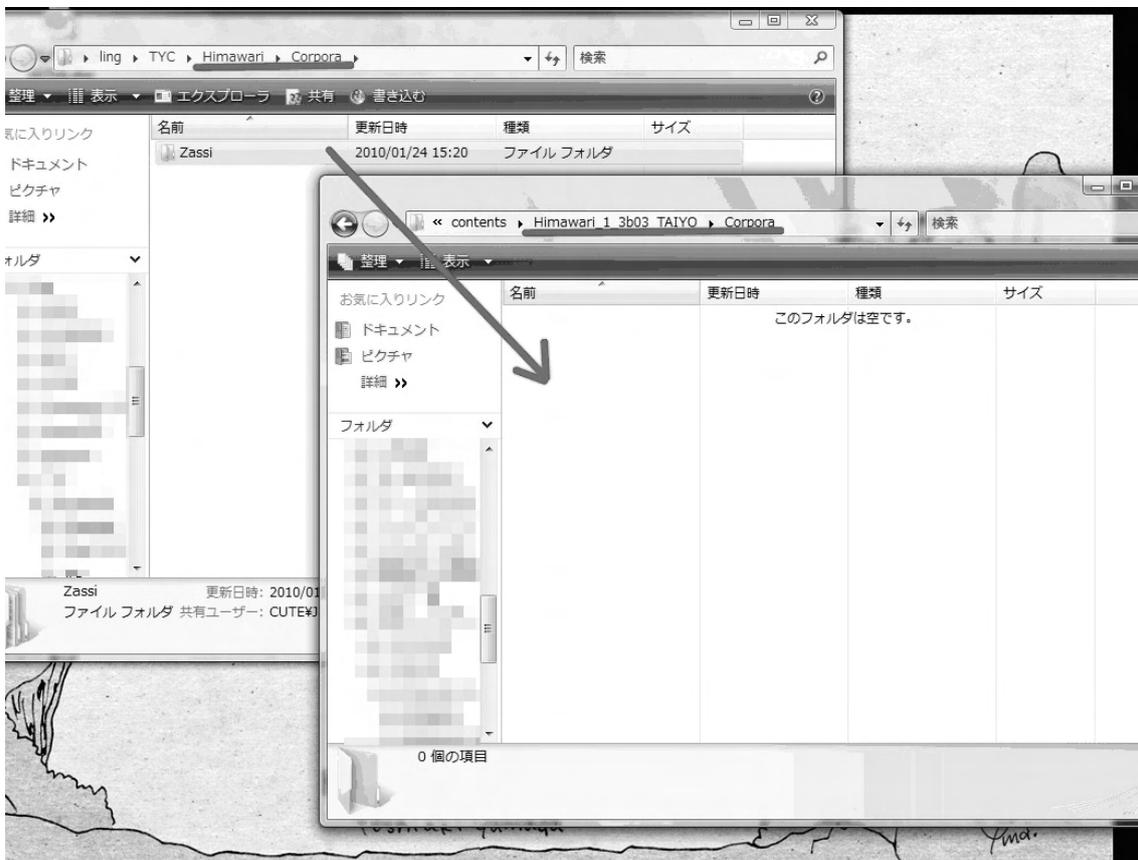


「ひまわり」のバージョンアップ方法

デスクトップなどのわかりやすい場所に、本書付属 CD-ROM 内に収録されている
“Himawari_1_3b05_TAIYO” フォルダ全体をコピーする



コピーした “Himawari_1_3b05_TAIYO” フォルダ内の “Corpora” フォルダ内に、『太陽
コーパス』の “Himawari” フォルダ内の同名フォルダの中身 (“Zassi” フォルダ) を丸ごと
コピーする

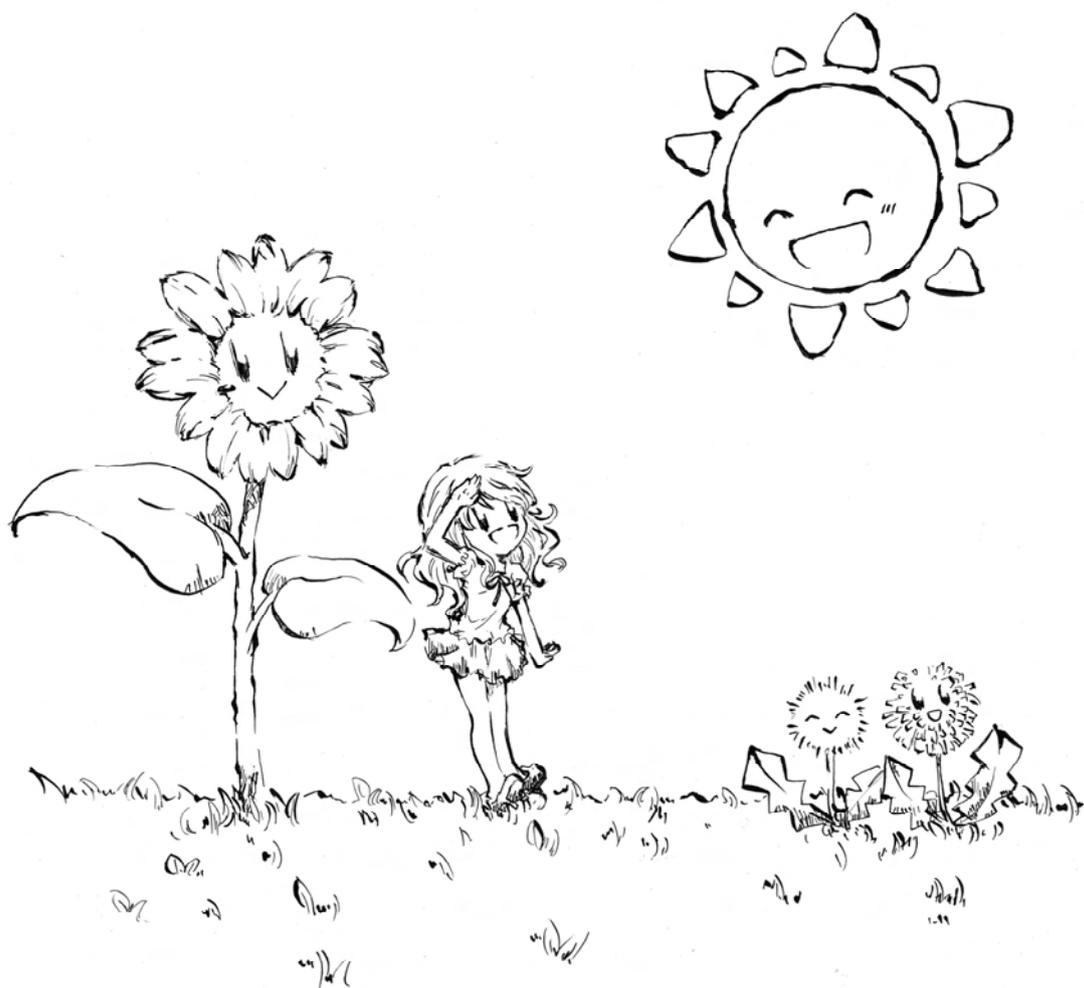


以上の行程を取ることで、「ひまわり」がバージョンアップされる。以後は
“Himawari_1_3b05_TAIYO” フォルダ内の “himawari.exe” をダブルクリックして起動
後、「本文 (正規表現)」を選択することで正規表現を用いた本文検索が可能になる。

用例サンプル

以下、収集された用例のサンプルを各テーマにつき 1 ページずつ掲載する。全データを参照される場合は、付属 CD-ROM を利用されたい。

各データは、先行・後続文脈、メインキーなどの必要な情報が 1 ページに収まるよう、印刷に最適な形としたフォーマット（編者が作成）に合わせて整形されている。



前文脈	後文脈	雑誌	年号	題名	著者
から見られるのであります。随つて又無数の外國人	も往來する様になり、間も無く條約改正實施太陽	太陽	1895	1 戦争後の學術	井上 新次郎
喜んで酒をお能く大酔して事を措辨し甚く外國人	の習俗をめづらしがりがり、娯樂に熱心し戦争に太陽	太陽	1895	1 紀元前の著名なる	森田 思軒
外國語の少々も心得ありて、大抵の談話は外國人	とも、差支なからんことを要す、特に健康に太陽	太陽	1895	1 婦人の命令	寒沢 振作
●稅法改正の件 ●新聞紙條例改正の件 ●外國人	の私權に關する法律制定の件 ●歸化法の外國人	太陽	1895	1 政治	*
間に鐵道を敷く又は臺灣に鐵道を敷くにも皆外國人	に依頼し其の砲臺を設け城壘を築くも亦外國人	太陽	1895	1 工業	*
國人に依頼し其の砲臺を設け城壘を築くも亦外國人	に依頼し其の砲臺を設け城壘を築くも亦外國人	太陽	1895	1 工業	*
壘を築くも亦外國人に依頼し其の軍艦も亦外國人	を聘用して始めて之を操縦す、清國人の技術太陽	太陽	1895	1 工業	*
のに比すれば勝敗の數釋め知るに足る殊に外國人	をして操縦せしむる艦隊も尚ほ其の脆くも敗太陽	太陽	1895	1 工業	*
、東海道鐵道、横濱水道等の大工事が毫も外國人	の力を假らずして成功せられ、村田銃、下太陽	太陽	1895	1 工業	*
コトヲ傳報事裁判權ハ三年以内ニ之ヲ廢止シ外國人	ノ裁判ハ日本國ノ裁判所ニ於テ執行セラレ太陽	太陽	1895	1 海外思想	*
所ニ於テ執行セラレバシト雖モ十五ヶ年間ハ外國人	ノ裁判ニハ歐洲裁判官ノ一定ノ數ヲ加アラベシ太陽	太陽	1895	1 海外思想	*
、然レドモ最高等裁判所ニ屬スル事件ニシテ外國人	ニ關スル訴訟ニ付合議制ヲ組織スル場合ニ太陽	太陽	1895	1 海外思想	*
いさか不快の色を呈せず、この好遇は却て外國人	をして不快の感を起さしむることあるべし、そに太陽	太陽	1895	1 海外思想	*
者且つ我が征清軍將士の行爲を褒貶する外國人	も或る種類の工業に付ては實に感服をして居太陽	太陽	1895	1 輿論一斑	*
て昨今は餘程の進歩を致した、其れが爲め外國人	の驚嘆して措かぬものもあつたが、其れは太陽	太陽	1895	2 工業教育	手島 精一
で見せる事を得た、日本の物品に至つては、外國人	の居住する都會は世界にあらざるべし、或る太陽	太陽	1895	2 工業教育	手島 精一
心。支那町 桑港ほど多く種類の變りたる外國人	の中其數の尤も多きものを支那人とす、無慮太陽	太陽	1895	2 桑港繁昌記	山岸 數鶯
云ふも其妄評にあらざるを信するなし、在留外國人	に示さんと欲する新聞紙雜誌及其他の出版太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
るなし、然れども從來日本人の手に成りて、外國人	にも知らしめんと欲す、惟ふに日本國の名譽太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
の出で、英文及繪畫を以て日本の事情を外國人	の稱贊を博すや必せず、殆ど外國新聞を昇太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
し夫れ英文を以て之を記して編入するあらば外國人	の手によるて之を爲さば、されど支那にし太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
人に示すには、英文最も宜し、然れども若し外國人	の危險を慮るものにあらず、そこで纏らしたも太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
告せられて、輿情切りに動搖せし時、即ち外國人	で朝鮮人種であります、そこで纏らしたも太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
ける、目今の處にては余は支那に居住する外國人	の歸化した者の子孫が拵へるのである、日太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
善物が斯の如き善いものが残つて居る、併し外國人	の四名月給二百九十兩より百八十兩に至る總太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
造なりとす 其委員職工等の數大約左の如し外國人	の旅館と云ふ姿に移り變りこそ、京都の爲太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
也阿彌に皆併吞せられ、圓山と云へば、唯外國人	の參内をゆるされんなど、いかできよならず太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
なるなり。ざるに、未だ嘗つて、その例もなき外國人	の生命を救助せんことを請ひ、許さしめんことを太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
對けて悉く日本艦隊に獻じ、海陸將士及び雇外國人	を威海衛より放還する事に付て敦項の條約太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
ざるに至るや、降書を納れて其の士卒及び外國人	たるべからざることを茲に明言致し置候、清國太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
与軍艦砲臺其他軍器引渡方並に清國人及び外國人	にはかつて例しなき、内國の何處にも日本太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
が此旗艦に來るべき士官は清國人たるべし外國人	の好意とによりて、創められ、爾來、三十餘太陽	太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
所の教師ともなりたり、勳章を得たり、在留外國人		太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯
上、如きき外來の博愛者と、如此き稀有なる外國人		太陽	1895	2 白耳義國全權公使の	山岸 數鶯

前文脈

キ一

いばならぬ。折角に苦心して作り上げた吾が主観と考へられぬやうに私には思はれた。主観の標準としてある。ロマンチック式に作った主観であつたと思はるゝはゐられない。一方は主観が三篇に比して塚越君の諸作の方が餘程主観力になつて了りましたが、昨年よりハツキリ主観で、其の一面には、將來に對する希望、即ち主観力であらうか。主観と客観との衝突は、果して主観の書籍を閱讀すれば、一冊を通過することに主観だけが客観である、それで美しく言へば主観に對する分析作用は、秋毫も行はれず、主観、月世界に保險業社の代理店設けられんか、主観あると同時に、苦痛が少い。去れど其れ等の主観ある、其れは私等は正反對で感情を言ふのは主観何ぞや、と言ふ疑問を掲げねばならぬ。單に主観があるので、何等かの説明を要する。吾人の言ふ主観が、何ぞや、と言ふ疑問を掲げねばならぬ。單に主観が、左程に狹隘また單純のものであらうか。主観の物を疑はざるを得ない場合に陥る。吾が主観、又如何に、此目的を達し得しか蓋し戯曲は主観にしてゐる。彼の時代の人々は、尚ほ未だ主観に於てゐる。之れに反して最近世のものは、其の主観に引かない。又、人相といふものは、見る人の主観に酷なる鬼とならねば、如實の人生は描けぬ。主観に分析するは芝居なり、劍花坊、文藝時評、主観に別するは芝居なり、劍花坊、文藝時評、主観に疑惑も愚。世間に頓着なく、自分ぎめの主観に承知が出来なかつた作者の心は、矢張まだ主観面もなく『土地の分配』を欲求してをる。一は主観の歡喜となるのである。『美の標準は見る者の主観との衝突を免れぬ。併し衝突しながら、而も主観

後文脈

雑誌

、それと永遠の訣別をなさねばならぬ際目に、太陽、客観の議論は、随分昔から續いて來たもの太陽、或は科學的に構成した主観的思想、其れも太陽から、自己が行つた逼真の可能と、言ひかへ太陽から脱却したやうなところがある。言ひかへ太陽が見えるやうで面白いと思ひます。上品と云ふ太陽が勝利を占めて、客観を支配し得べしと言ふ太陽が圓滿にして客観の悪なるが故であらうか。太陽が出來ること、なほ滋養分を詰め込んだ如く太陽が混じる、世の中が斯ういふものと云へば理り太陽こそ最上のもの、客観は下劣な不完全なもの太陽すれば光輝陸離たる將來も、客観すれば茫々太陽では、紛々複雑なる人生は、拙も解釋すること太陽でも面白いのですが、理屈を言ふのは面白く太陽といふも、其は漠然たるもので、何等かの説太陽とは、一個人内に作られた人生觀の事に外な太陽とは何ぞや、と言ふ疑問を掲げねばならぬ。太陽と客観とが、ある程度まで融合されて、かうし太陽と客観との衝突は、果して主観が圓滿にして太陽と客観との衝突は、日々を経験する所である太陽と客観を兼ねたるの詩也、其動作は窓に外形の太陽と離別して居らぬ、飽くまでも主観を立て、體太陽と離別せねばならぬ、否、離別して後、人生太陽と別るゝ苦痛の趣が無く、寧ろ主観を押し通せ太陽によつて判断されるものであるから、同じ人相太陽に訣別して殘忍なる鬼となる其の苦痛、これ太陽に對する分析作用は、秋毫も行はれず、主観太陽に別かるゝ苦痛を背景として居ることが前者と太陽に隠れて、世間を罵り、客観を冷笑すれば太陽に捉へられてゐるためではないか。ある要求、太陽に偏して冥想的に過ぐる嫌ひがあるが、他は太陽のうちから選擇されるのである。美の評價は鑑賞太陽のために、客観を咄ひ、客観が不完全なるか太陽

年 号 題名

1909 10 文芸時評
 1917 5 最近に讀んだ小説
 1909 10 文芸時評
 1917 5 最近に讀んだ小説
 1917 5 最近に讀んだ小説
 1925 14 帝展の洋画を観る
 1909 10 文芸時評
 1909 10 文芸時評
 1909 10 文芸時評
 1901 4 俳諧新旧派の異同
 1909 10 文芸時評
 1909 1 一百年前の保險事業
 1909 10 文芸時評
 1901 4 俳諧新旧派の異同
 1909 10 文芸時評
 1909 10 文芸時評
 1917 5 最近に讀んだ小説
 1909 10 文芸時評
 1909 10 文芸時評
 1895 4 戯曲的人物と近松巢
 1909 10 文芸時評
 1909 10 文芸時評
 1909 10 文芸時評
 1925 5 犯罪探偵と誤謬『第I
 1909 10 文芸時評
 1917 5 最近に讀んだ小説
 1917 14 露西亜革命の弱点
 1917 3 打つ勿れ
 1909 10 文芸時評

前文脈	キー	後文脈	年	号	題名
りふけゆくさまなど、わきでものおもはしきを、かぎり	限り	こそありけれ、みねの横雲立わかれ、鷓の八太陽	1895	1	新年
味方も萬餘の大軍が大小砲を亂發し。今日を限り	限り	と戦ふことなれば天地は血汐の爲に腥さく。花太陽	1895	1	ラートルロー合戦の言
底無く、東は寺町、西は烏丸、南、丸太町を限り	限り	に、北、今出川を以て界とし、空しく土壘を築太陽	1895	1	京都の新案内記
口を容るゝの餘地なかるべし假令之あるも其限り	限り	あるの土地に其限り疲勞して、將に昏倒せん太陽	1895	1	社交案内
ども、盪せども、益暴るゝ浪の勢に、人の力は限	限	有りて、渠は身全く疲勞して、庭上松 雨太陽	1895	1	取船
寄海祝 佐々木信綱 大やしまめぐれる海のかぎり	かぎり	なくひろきは君が蕙なりけり	1895	1	短歌
し』といひ、『何、歐洲列國中、我が日本が限り	限り	なく版圖を擴張するに對し、均整上武力を以て太陽	1895	1	征清の結局奈何
ま涙のみ、これも偏に其方の貞心と悦ぶこと限り	限り	なしこれこれ三十年來過し話、長吉今は身太陽	1895	1	征軍人夫
可と頼みるべきのみ』といひ、『希望をいへば限り	限り	なし、左れど事實上必至の勢ひ如何、是れ實太陽	1895	1	征清の結局奈何
かるべし假令之あるも其限りあるの土地に其限り	限り	無き人口繁殖せば富力の缺乏貧民の増加殆ど太陽	1895	1	社交案内
る畔に再び金光を空に仰ぐに至らば實に愉快限り	限り	無く日本國民が茲に一大飛躍して大國民となり太陽	1895	1	美術
と、世情に疎き綱雄の非は、それからそれと限り	限り	無し、櫻花は「車返し」と名高く、藤花は御太陽	1895	1	京都の新案内記
産業も亦固より必要なりと雖も、其の個所自ら限り	限り	もなく數へられぬ。堪へかねて光代は密かに太陽	1895	2	書記官
る 鴨緑江上の野營 雲野通路 其一	限り	あり、全國の沿岸到處に多數の砲臺を建築し太陽	1895	2	国防論
世界の生産品を道具とし、限りなき物を探りて限り	限り	あるもの、而して事内國に止まるもののみ、太陽	1895	2	文字
粧ひ美々しく成りければ、刀自の喜ばること限り	限り	なき人に賣買するもの、即ち事全く外國に歸太陽	1895	2	曲細曲の大商戦
台めて世界の新興國となるべしと大呼す 壯烈限り	限り	なく、直に鏡に對ひ鶴髮の童顔に笑を含みて、太陽	1895	2	大隈伯の母堂
全世界に涉り、全世界の生産品を道具とし、限り	限り	なし 中央新聞は又 英露同盟は英國のみ獨り太陽	1895	2	輿論一斑
と就せる所の少なきを悲しむなり而して過去の限り	限り	なき物を採りて限りなき人に賣買することどもに勝べ太陽	1895	3	橋本雅邦
こ、いざより給ふ。われ〜二人も、今日を限り	限り	あるの命と知りしかば、思へることどもを悉くのべ太陽	1895	3	しら雪物語(承前)
雄勁の筆亦流麗の筆を兼ね而して流麗中に限り	限り	無き風神のあるあり 惜春詞十二首以て證す太陽	1895	3	明治詩家評論
悲愴淋漓たる、怪奇變幻なるもの等ありて、限り	限り	なき趣味を具へ、さては俳文、戯文、詩、歌太陽	1895	3	文芸俱樂部
、豊公の忌む所となり毒言せられたりとして、「限り	限り	あり。富家巨族は。學業に巧者なる儒生を雇太陽	1895	4	加藤清正(承前)
香の物には澤庵漬の大根あれども是亦分量限り	限り	あるを以て恣に食ふこと能はず 故に島地に生太陽	1895	4	支那衰弱の理由
、歴史をくばしく知りたらん程に、尋める心は限り	限り	なし。たとへ知らぬ人とても、其巧致のさま〜太陽	1895	4	樺太探検記
等には人、車道を區劃して可なり目下道幅に限り	限り	あれば銀座大通りの如く十分なるを要せず、太陽	1895	5	京都は国美の庫なる
新誌を刊行し弘く江湖の詩歌文を録す 臺閣は限り	限り	あり江湖は限りなし限りなき江湖に販布するに太陽	1895	5	東京市内電気鉄道敷
詩歌文を録す 臺閣は限りあり江湖は限りなし限り	限り	なき江湖に販布するに朝野新聞と相違て多くの太陽	1895	5	明治詩家評論
詩はせば衙内はもとより張李まで悦び興ずる事限り	限り	なし限りなき江湖に販布するに朝野新聞と相違太陽	1895	5	明治詩家評論
の心源朗然として。疑雲立どころに散じて歡喜限り	限り	なき地位に至らんとす。若し復一日朗然として太陽	1895	5	元時代の雜劇(五)
眞に赤壁たり、書籍蔵、屏風蔵、蓮華蔵等限り	限り	無し、 潮寶珠川 梁川星巖 回風飛雪泉柳太陽	1895	5	仏教入門(二)
申に及ばず、子孫の名を思ひて振舞べき也。限り	限り	ある命を惜しみて永代うき名をとるべからず、太陽	1895	6	京都の新案内記
上而してその償還は大凡車事費の金額を以て限り	限り	とし凡そ三年に亘りて漸次に之を行ふ可きなり太陽	1895	6	倫理の改良(二)
			1895	6	国債償還論

年	号	題名	著者
1895	1	檳榔子	市村塘
1895	1	太陽の榮刊	大橋新太郎
1895	1	海外思想	*
1895	1	経済的闘争	井上辰九郎
1895	1	能楽(上)	大和田建樹
1895	1	漢字の利害	三宅雪嶺
1895	2	史料の編纂は目下の坪井九馬三	坪井九馬三
1895	2	史料の編纂は目下の坪井九馬三	坪井九馬三
1895	2	史料の編纂は目下の坪井九馬三	坪井九馬三
1895	2	桑港繁昌記	山岸藪鶯
1895	2	戦争と文学(承前)	坪内逍遙
1895	2	海内彙報	*
1895	2	国防論	栗原亮一
1895	2	相撲の話(つゞき)	羽南外史
1895	3	古今演劇談(承前)	幸堂得知
1895	3	食塩の清国輸出	太陽記者;藤田達芳
1895	3	能楽(下)	大和田建樹
1895	3	古今演劇談(承前)	幸堂得知
1895	3	戦下の観察	千頭清臣
1895	3	能楽(下)	大和田建樹
1895	4	輿論一斑	*
1895	4	文学と英国の書肆	挹翠生(記);才一
1895	4	政治	*
1895	4	土地兼併の弊害	横井時敬
1895	4	文学と英国の書肆	挹翠生(記);才一
1895	4	電気応用談	加藤木重教
1895	4	政治	*
1895	5	元時代の雜劇(五)	幸田露伴
1895	5	海内彙報	*
1895	5	東京市内電気鉄道	加藤木重教
1895	5	元時代の雜劇(五)	幸田露伴
1895	5	明治詩家評論	大江敬香
1895	5	東京市内電気鉄道	加藤木重教
1895	5	社交案内	*
1895	5	東京市内電気鉄道	加藤木重教
1895	5	小説家の片商売(承前)	加藤木重教
1895	5	政治	*

前文脈

飯後可成物を食せざるを宜しとすといふ、通常太陽
て、未だ江湖に普及せしむるの目的を達す、太陽
て、美術詩歌など限られ俗事に渉るを禁ず、太陽
彼の貿易植物の如き其量小にして價格割、太陽
翁三人出づるは、今春金剛および京都の實、太陽
、限る所の字を以て文章をなさんといふに、太陽
、將校の日記なれば事戦陣のことに限り、太陽
、要するに其歴史事實の先例を國史に、太陽
て白ペンキにて塗りはば聊か神聖を示したる、太陽
、平等の夢幻界に遊ばしむるを得ず、こゝに太陽
尚ほ之を停む、明治二十八年一月二十四日、太陽
て砲臺の固めを爲すべき。近年梅谷の、太陽
舊時二十五兩なりき。近年梅谷の、太陽
辻番附を廢して是を用ゐる、尤も霜月朔日は、太陽
、政府をして清國の情況を調査し之が輸出、太陽
如何なる器口雜言を爲し、ふざけたる形を、太陽
て配りも賣物も一日のうちに出し切る強則、太陽
、軀幹強壯のものにあらざれば、採用せられ、太陽
隨ひ出で催したり。其願濟と爲るや町奉行、太陽
特に兵器を携帯するを許す事精神(三月二、太陽
て惡書のみを持離して大體にも文學の名稱、太陽
て繪香せしむべし、葬儀は佛式を用うるも法、太陽
期限を定め左の各項の全部又は一部を命令、太陽
て投せざるべからざるものにあらざれば、若し小作、太陽
てこの所業を爲す、見識ある作者は題目に、太陽
通話することなれば人々左程に便利とも思は、太陽
山口縣赤間關市に同條第一第二第三第四、太陽
て二篇をや詳説する所以なり、米國の、太陽
て施行するとの修正案を出だし滿場の大笑、太陽
在來の路傍の瓦斯街燈を電燈とし其電車柱、太陽
て後廳にも入らせ給はず思ひ深げに打案、太陽
春、灣の尾瀨に限るの類は之を松郷の北は、太陽
人道、實道の區劃を要すと云ふにあらざれば、太陽
本會の賛成會員とし本會の公示に屬する記、太陽
施行せば面白き試験結果を得始めて反對論、太陽
拙者も出張店を存立候へども、抑も當地は、太陽
休戦を實行するものとす、尤も兩國軍隊の駐、太陽

後文脈

限りに却下すること妙なり、勿論之を朝飯前に
す。但た之を讀む人は中外専門の諸家に
外人は飲方に迷ふなり、談話なども其時に
目は主として米麥の如き所謂食料的植物に
新の能は。其古式を存せしものなり。此能に
てせんといひ、一は即ち、普通漢字の數を
に備し、幕府の右筆なれば事軍國のことに
らば職務上之を書するなれば事朝廷のことに
に限り、將校の日記なれば事戦陣のことに
袈かぬ、されど殊勝にも政廳と禮拜堂とに
。國民已に其の想像を、差別の時と處とに
舞音曲を停止し葬儀執行當日は東京府下に
こ一歩も侵入せしむべからざる樞要の港灣に
間二十兩。現今は四十圓なり。横綱免許に
劇道にては是を通しといふ、年々顔見世に
と同時また、兩院が特に食鹽輸出の事に
、重箱の中に團子を入れたるが如し。此日に
の番附を奪ふ者などもあるゆゑ、此番附に
も、ニ弱者は排斥せらる。即ち身長幾尺を
幸權外いまの權田學校の處にて晴天十日を
とる兵士は悉く除隊すべし但し清帝の親兵に
ては西班牙に於けるも亦た然り、獨り英國に
無用たるべし、但父を送るは大禮なり子女に
臨時必要なりと認むる場合に於て其地方に
も所に向けて投ずることを得て必しも農業に
は斯かる所業を屑とせず、所詮劣等作者に
時は器械も不完全且又甲乙丙の三ヶ所を
せしめんとするに於てをや、これ予の關廟に
五條に依り本令發布の日より二一日間を
事ありし時、星亨氏は此の法律は占領地に
することばなかるべし、電車線布設の場所に
され給ひしか、如何で公事も果して今日に
も其の布及する處は猶ほ窄く枕山の武總に
の力を在來の馬車と同じくせば敢て電車一名を
依頼する事、全國各新聞社の代表者一名を
爲に苦む、電燈會社と協力し某々の區域を
)生にひかれて善光寺の御開帳中六十日を
帝國政府は本定約調印の日より廿一日間を

前文脈	後文脈	年	号	立置	題名
て候、武田勝頼なども、物の危くして強過たる	終に滅亡いたしたるものと存ぜられ候、好士に	1895	4	P0:	加藤清正(承前)
一ム流分離の事有りて抜錨意外に運々したる	ラプラタ河中に繫泊せる西班牙船の既に那	1895	5	P0:	五歴セルクーク(上)
見、心かかるげに會釋して、危き病者ありたる	、心より外にをこたりぬと云ひつゝ、椅子引き	1895	7	P1:	浮世のさが
れども一ツには俳優の給金非常に昂騰したる	座主に於て道具衣裳に金を懸ることをなさざる	1895	7	P1:	俳優(二)
に融通を求めけるに、本年は氣候の不順なる	、生繭に濕氣を生じ、火殺若くは蒸殺するも	1895	8	P0:	農業
に關して神田警察署長の取消文を拒絶したる	新聞紙條例違反を以て罰せられ、自田黨は	1895	8	P1:	海内彙報
刻製版所に於て製版の際、誤て火を失したる	悉く烏有に歸せり、天災遂に奈可ともする能	1895	11	P2:	稟告
旅順に向つて石炭を積出す。▲石炭高價なる	伊國工業は妨礙を蒙りチユリン府にては同題	1901	2	P2:	各国近事
～北清事變起りて別役少將廣島に赴かれたる	、遺憾ながら一時之を中止するの已むを得ざ	1901	3	P1:	熊本籠城
聽の状に陥り、また外國には南阿戰爭長引く	警視廳よりは同取締規則を發布せり ◎理髮	1901	4	P2:	輿論一斑
一變し七八月の如き清商は注文を手控へたる	倫敦の金融は依然逼迫を告げ、これに次いで	1901	5	P2:	海内彙報
事實となりぬ、去れど星氏刺殺問題生じたる	州二年七月一萬六千二百七十四圓八月三萬、	1901	8	P2:	海内彙報
の夏服改良 陸軍にては兵士の夏服白色なる	、世論より激しく攻撃せらるゝ苦を免れたるは	1901	8	P2:	海内彙報
つて其謀を西太后派に洩らし、榮達を圖つた	、体裁宜れど敵に屈はれ易きゆゑ先づ第三階	1901	9	P2:	海内彙報
進歩に較べて英國が後れて居るやうに昇える	市民は瓦斯及び電燈に對して全國に、否世界	1909	1	P0:	清國多難の秋
然るに斯る高山の事とて、殆ど四時降雪ある	、人に依つては英國の將來を悲觀して、もつ	1909	2	P2:	電車問題の根本的解
ままることは勿論、冬にても氣候に激變がない	、自然地上に線路を引く事の困難なる結果、	1909	11	P1:	名士の瑞西觀
一寸日本人には珍らしい。◎國土の平低なる	、轉地療養の場所としてやつて來る。呼吸器患	1909	11	P1:	名士の瑞西觀
至る所掘があるがその堀の水がよく流れない	、河床が之より高きのみならず、又處に依つ	1909	14	P1:	名士の和蘭觀
甚だ流行する。◎和蘭は全國が平地である	、甚だ臭い。が和蘭は昔から綺麗好の國民とし	1909	14	P1:	名士の和蘭觀
ける騷擾に際し極端な強壓的手段を揮ふたる	、自轉車が非常に流行する男女老幼盡く自轉	1909	14	P1:	名士の和蘭觀
不折君の意匠にて候。計畫遽かに一變したる	絶えず水と奮闘した結果水利土木業に非常	1909	14	P1:	名士の和蘭觀
て此提案は來會者中憲政會所屬員も少からぬ	、稍人望を失したる矢先、フェレル死刑問題	1909	16	P0:	世界之時局
に時代を開いて呉れた漢字も、餘りに難かしい	、編輯部のまごつき方は中々にて御座候ひき	1909	16	P2:	編輯部通信
て見せるのにも思つた。それに白粉氣のない	、散々な反對に遭ひ、結局提案者の撤回とな	1917	1	P1:	聴診器の響
我邦の如きは造船材料の供給が圓滑でない	、忙しい活動者の實用に見えず、殆ど貴族や	1917	3	P1:	最新ローマ字つゞり
に聴取出来るが、他の受信者に妨害に及ぼす	、滅失船舶の急遽補充が不可能であるに依り	1917	10	P2:	感謝
銀貨金の道がつけば相場變動の危険が尠い	我國では遺憾ながら此種の受信機を放送聴取	1925	13	P1:	船舶管理令と造船業
者が時節柄怪しいといふので警察へ密告した	、支那における企業家買収業者は安定して取	1925	2	P0:	放送無線電話の発達
1から水源近辺一様に浸蝕された溪谷である	、アウチロンが二人の刑事と共に調べに行つ	1925	3	P1:	経済的には大阪府下
出發して海岸の道路は砂深くして歩行難である	、訴へによつて出張致した旨を申しさかしま	1925	5	P1:	ラヂオと犯罪
さて、陪審長から合議不可能の申請があつた	、水は漕の如く靜に流れてゐる。そして流は	1925	7	P1:	長篇探偵小説 ハー
な魅力力を以て渾身の情熱をこの俊作に注いだ	波打ち際のところを徒渉した、前日来樺太に	1925	9	P0:	樺太の感想
	裁判長が陪審官一同の出廷を求めてこれが毎	1925	9	P0:	樺太の感想
	俊作は彼女の戀の價となり、夢の如き歡樂の	1925	10	P1:	長篇探偵小説 ハー
		1925	10	Tox	<新刊紹介>

06_思はれる_考へられる.xls

年	号	題名	著者
1895	1	学界の大革新	久米邦武
1895	1	学界の大革新	久米邦武
1895	1	戦争後の学術	井上哲次郎
1895	1	戦争後の学術	井上哲次郎
1895	1	戦争後の学術	井上哲次郎
1895	1	戦争後の学術	井上哲次郎
1895	1	戦争後の学術	井上哲次郎
1895	1	戦争後の学術	井上哲次郎
1895	1	国語研究に就て	上田万年
1895	1	大久保相模守忠隣	福地桜痴
1895	1	大久保相模守忠隣	福地桜痴
1895	1	大久保相模守忠隣	福地桜痴
1895	1	京都の新年内記	中川四明
1895	1	農業	矢部規矩治
1895	1	農業	矢部規矩治
1895	1	農業	矢部規矩治
1895	1	海外思想	*
1895	2	史学と類似学科との関係	坪井九馬三
1895	2	史学と類似学科との関係	坪井九馬三
1895	2	大隈伯の母堂	三宅雪嶺
1895	2	初午	岸上質軒
1895	2	農業	大橋乙羽
1895	2	海外思想	*
1895	3	宗教と美術との関係	黒川真頼
1895	3	京都の新年内記	中川四明
1895	3	京都の新年内記	中川四明
1895	3	京都の新年内記	中川四明
1895	3	吾妻船絵	須藤南翠
1895	3	昭君怨	巖谷小波
1895	3	昭君怨	巖谷小波
1895	3	明詩の我邦に関する	野口寧齋
1895	3	日本の音楽	宮島春松
1895	3	比斯馬克侯爵夫人のHO生(記)	久米邦武
1895	4	京都は国美の庫なる	川田藁江
1895	4	支那衰弱の理由	福地桜痴
1895	4	維新の元勳	福地桜痴

著者	題名	年	号	後文脈	キ一	前文脈
尾崎紅葉	1 取陀	1895	1	う。其代直を一本……………。」眼鏡越は又呷々も太陽	でやら	ま、覺悟を極めたね。其志に免じて一條聞いでやら
尾崎紅葉	1 取陀	1895	1	たと思ひたまへ。」例の饒舌先生は又呷々も太陽	でやら	一句浮べる者もありさ。まあ思ひ〜〜に祝ツてやら
巖庭鑑村	1 従軍人夫	1895	1	たい、取返したいと、心は千々に砕けつ裂け太陽	でやら	るも否も知るとか、此叩いて名乗らうか、抱いでやら
巖庭鑑村	1 従軍人夫	1895	1	ませうソレ〜〜能いか、坊やの守は何所へ太陽	でやら	の乱暴に、長吉は只オロ〜〜泣くな、背負いでやら
幸堂得知	1 古今演劇談	1895	1	と取上げを突飛し、うるさい餓鬼も、真太陽	で遣る	鬼に笑はれようよさしあつて座本に金儲けで遣る
川上眉山	2 書記官	1895	2	たいものだ。と尚も冷かし顔。よう御座いま太陽	で遣れ	身を横にしながら、左様した處を綱男に見せで遣れ
川上眉山	2 書記官	1895	2	な。彼様な奴の餌食になるは死に處した大不太陽	でやら	に成たからにはさ、今夜一晩あの小豚を守つてやら
巖谷小波	2 ソクラテスの滑稽	1895	2	なければならんぜ。御苦勞な事だ。私はこお太陽	でやら	太鼓にフト目をさまし。今日ほどの手で投げでやら
羽南外史	2 相撲の話(つゞき)	1895	2	うと甲唱ふれば『お相撲さんには何處が好太陽	でやら	皇の威權を挫き魯を辱しめて魯の勢力を殺いでやら
谷干城	3 足兵足食民信之矣	1895	3	たけれども防ぐことが出来ぬ、小國ながら我太陽	でやら	れば兵器も金穀も優さつて居る國が力を極めてやら
谷干城	3 足兵足食民信之矣	1895	3	ぞとて罪を看るされたり、然れども儼大夫が太陽	でやら	き、侯高聲に、鼠た〜〜、でかしたり、免してやら
小倉秀貫	3 加藤清正	1895	3	うぢやないかといふかと思へば、はや手に太陽	で遣ら	事か、僞だらう、眞個なら國賊だ、石を投して遣ら
小倉秀貫	3 加藤清正	1895	3	ますから。熨斗水引もそのままなる錦繪を耳太陽	で遣ら	せてお遣り、直きに母様が行つてお話をしで遣ら
須藤南翠	3 吾妻錦絵	1895	3	ア。坊は強いよ、鐵砲玉なんぞが中ツたツ太陽	で遣ら	事があるものか、ぶつ斬て皆なお濠へ蹴込で遣ら
須藤南翠	3 吾妻錦絵	1895	3	たら、皆な吃驚して逃ツちまふぜ。エ、母様太陽	で遣る	、欲いなア、戦つこの時に此の旗を持出して遣る
須藤南翠	3 吾妻錦絵	1895	3	た演説遣ひが云つたでは無いか、第一柳村太陽	で遣る	した、呑み込んだ、金のことなら何様でも仕で遣る
幸田露伴	4 新学士	1895	4	の敵と吾が兎自惚の老の氣質、これでは太陽	で遣る	輕地方の悪い風だと去年の夏吾家で宿をしで遣る
幸田露伴	4 新学士	1895	4	たことのあるものが此間まで築地に居たが其太陽	で遣る	風に入らぬから傳の女房なにとに何様して仕で遣る
幸田露伴	4 新学士	1895	4	ましたと話せば客も主人も笑つて、浪取を太陽	で遣る	居も無し甚だ以て困るのさ、親父が世話をしで遣る
幸田露伴	4 新学士	1895	4	から用をきよに來い、肴屋と八百屋にも明日太陽	で遣る	わい、と自惜みを云つて自分でどし〜〜うめで遣る
幸田露伴	4 新学士	1895	4	た。すると彼得は大急ぎ、コロ〜〜も轉がる太陽	でやら	旨味、酒、何でも汝の家で賣るものは買つてやら
巖谷小波	4 ソクラテスの滑稽(續)	1895	4	と、其度毎に彼得は、地を衝ふ様にして拍太陽	でやら	斯つて凡そ百粒餘りの櫻實を、また一個落ちてやら
巖谷小波	4 ソクラテスの滑稽(續)	1895	4	うか?」「己も劍術を知りてりやア徒見では居太陽	で遣ら	様を……」「こりやア堪らねえ、飛込で援助で遣ら
塚原洪柿園	5 他家の風月	1895	5	親切には、日に黒みたる顔にも、笑みの益太陽	で遣る	裡に汲みて、洗足せよと夫の草鞋まで解いて遣る
大橋乙羽	5 田家の風月	1895	5	ぬければ不可いといふ事も明かなる譯であら太陽	でやら	難難を選けず何處までも難場へ頭を突ツ込んで遣る
板垣退助	6 涙の媒介	1895	6	にも正直遣り官と申すものちや新「俺は左太陽	で遣る	まう小「然して貰ふと其方達の都會を計込んで遣る
柴野採菊	6 涙の媒介	1895	6	と此様な上口を外すと折角來様とする運を耳太陽	で遣る	せて阿父さんや姉さんを生涯困らねえ様にしで遣る
柴野採菊	6 涙の媒介	1895	6	て居ませうから少し位ゐの間に取ても百ござ太陽	で遣る	つてよ鶴「姉さんは加賀吉さんの稽古でもしで遣る
柴野採菊	6 涙の媒介	1895	6	親父や姉は生涯困らせまいと實に結構な玉太陽	で遣る	い「陀目だとは兼「支度金が入るなら出して遣る
柴野採菊	6 涙の媒介	1895	6	被成えといふ事サ新「なる程程く分りました太陽	で遣る	つやア無え息子さんの新三郎さんの嫁に貫ツて遣る

本國民の根底を動搖して更に日本人を縮纏し始め、英國人自から率先して印度の文學を研究し始め、ハダきは起りたり筒は煙りをはきそめてめぐり始めるときは舟舟沙上に置して潮水の満つるを待ち始めるといふ血氣の浪士五六人、劍を抜きて舞ひ始めるとになりました、是れが先づ抑も公然寺を造り始めははずして、=々として涙の盡始母が面を眺め始めひいて先頭に歩めり。儀仗兵は列を正して進み始め又足利義晴の頃なるべしとす。淨瑠璃を語り始めは將來頗る多望なるにも拘はらず、其發達し始めし來り、而して今遽にペンを以て羅馬字を綴り始める頃舟は兩國川に戻りしが恰も好し花火を揚始め、村吉彌、玉川仙之丞などいふ美男子が唄ひ始め、改良は、近年教育に従する者の頻りに唱導し始めとぞ。吐月峰 連歌師宗長が幾若葉生やし始め半熟になりたる時に、小き板にて漸々にまき始め、住吉祭の餘興に遣はれ、こゝに其進歩をなし始め、凡そ一週日を経れば、上下齋の中央より生え始め、廢し勉強せられしかば三日にして大熱を發し始め、後別殿を破り芋=又は毛虫となりて葡萄し始め、支を脱して羽蟲即ち成蟲となりて空中に飛翔し始め、蚊のが便宜でござります。遺跡の方から述べ、人なる人出でゝ始めて我邦に此堆米等を製し始め、余がニューヨークにて雜誌香稿家として生活し始めを反對にし、西洋風は受取人の名前より書き始めたりしものなり、而てミキ女が天理王命を説き始め、妻の時代をきざした物で有ます、石村の作り始め、夜間に洋學をす、そんなことをしてやり始め、さしめつゝあり。而して世人が此貨車に注目し始め、の組成要素たる公脚華族の頭腦にも漸く動き始め、ふた。山上には出でずして、海底の室に降り始め、尋で器を湯煎器より取り去り、其内容が落附き始め、垂するや否や、忽ち液は木材の孔中へ透入し始め、製造された程ださうで、抑も歐洲へ輸入し始め、◎政教時報近角文學士の西教事情を掲載し始め、五十年、人の入るを許さざる空屋敷より説き始め

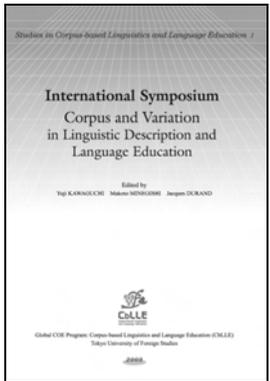
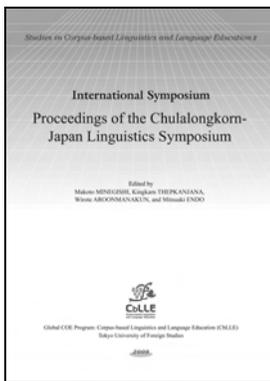
ましたのは即ち西洋の學術であります、夫れ、太陽た位であります、さうして今日に至りましても太陽つ水ぐるまひきはじめつきの鐘 うたひはじめ太陽て川に入るを得 又汽船に乗らんとすも潮の、太陽ぬ。ほでは、狼狽箱は後、席に侍りしも太陽たの、此法興寺は後に都を奈良に移されて太陽ぬ。愛らしき目を能ふ限りにはらぎて、口を一太陽り。五人の僧は車に駕して行けり。三個の勳、太陽たるは、琵琶法師瀧野澤住といふものにして、太陽たるは、究極する所些小の變革に過ぎざれども太陽て反對論者も満足するに足るべき乎 一、繁華太陽る時なりき 因みに云ふ鶴吉が唄ひたる加賀節太陽一時流行して中絶爲したのを加賀太夫が予が太陽し所にして、彼等は變字改良に關する特別の太陽ぬ園の竹は、吐月峰の麗なる柴屋寺に在り、太陽。其卷きははりの所を。はなれぬやうによく焼太陽て、後は、何れの察にも、此『俄』出ること、太陽、六ヶ月より十月に至りて臨齒、邊齒共に此太陽て睡眠の缺くべからざるを悟られしとなり、これ太陽多くは草木の葉を雀して成長するものなり、而太陽ませう。貝塚は貝殻の堆積して居る場所、有太陽たり。當期の時鐘師には幸阿彌、五十嵐等を太陽てからは、樂々と眠る事が出来るやうになり、太陽たるは、屈指すれば二十三年の昔とはなりぬ、太陽、終りに其國名を認むるが從來の習慣なり、太陽たるは、天保十年の頃なりしも全く神道管長の太陽し曲は琉球組を始めとして段々作りそへ、亦、太陽た、サアこれから苦み出した、筆紙に盡し難い太陽たるは、漸く二年此方なれども、是れ決して太陽たりき。故岩倉公は最も此の感情に刺激せら、太陽た。忽ち鷹子は思當つた。小銀次の姉とやら、太陽るに至るまで之を撰梓して後鑄型に注入すべし太陽たるに依り、其減量は更に「ポンプ」にて之を注太陽たのは第十一世紀でサレルノといふ人だとい、太陽◎獨逸より派遣せる日本宣教師シルレル、太陽て、其家の中には義夫の死骸ありて、その義太陽

- 1895 1 戦争後の學術
- 1895 1 戦争後の學術
- 1895 1 〈今様新体詩〉
- 1895 2 広島の形勢
- 1895 2 しら雪物語
- 1895 3 仏教と美術との關係
- 1895 3 吾妻錦絵
- 1895 3 吾妻錦絵
- 1895 3 日本の音楽
- 1895 4 イー、ゼローム、ダイ
- 1895 5 国字を論ず
- 1895 5 東京市内電気鉄道敷
- 1895 6 涙の媒介
- 1895 6 涙の媒介
- 1895 7 欧州諸国に於ける綴
- 1895 7 富士の麗
- 1895 7 季節料理(七月)
- 1895 8 俄芝居
- 1895 9 農業
- 1895 9 時(起臥)
- 1895 9 蝶の話(承前)
- 1895 9 蝶の話(承前)
- 1895 9 石器時代遺跡の實踐
- 1895 10 漆工の話(承前)
- 1895 10 蚤
- 1895 10 小文學者の懺悔録
- 1895 10 海内彙報
- 1895 11 天理教
- 1895 12 国策改良意見(承前)
- 1901 1 青年時代の苦学(上)
- 1901 2 工業世界
- 1901 2 宮廷政治家
- 1901 3 海賊村
- 1901 3 工業世界
- 1901 3 工業世界
- 1901 3 工業より香ばしの梅村
- 1901 4 宗教時評
- 1901 4 文芸時評

前文脈	十一	後文脈	雑誌	年	号	題名	著者	欄名	ジャンル	文体
愉絶快絶、愉快々々などの語が人に用ゐられて、うれし	十一	い、おもしろいなどいふ語が、人に用ゐられぬか。	太陽	1895	1	巴語研究	上田万年	論説	NDC810	口語
たる子守唄、子はスヤ〜と寝る様子、嗚呼嬉	うれし	しい有難い、乳房に刺れぬ人の子を、直の子太陽	太陽	1895	1	1 従軍人夫	鷺庭豊村	小説	NDC913	文語
されたら、生ては折達、死んでは追善、何より嬉	うれし	しくも嬉しく、御夫婦の御方にも、明日なりと太陽	太陽	1895	1	1 従軍人夫	鷺庭豊村	小説	NDC913	文語
日に着き、此が眞の親達の居るところと思へば嬉	うれし	きにも嬉しく又賑やかなるに驚きで淺草橋より太陽	太陽	1895	1	1 新年	鷺庭豊村	文苑	NDC914	文語
もの、あぢきなくゆりゆりなかに、たゞひとつなん	うれし	さは、いつとなけれど、別きてこの、今年の今日太陽	太陽	1895	1	1 新年	多	文苑	NDC911	文語
を迎へてうたふ新體歌 中柳秋香 年たちちかへる、うれし	うれし	四百餘州おしなべて、都にひになに、門ごとの、太陽	太陽	1895	1	1 新年	多	文苑	NDC911	文語
めでたき今日や、祝ふらん、あなよろこばし、あな	うれし	祝ひてうたへ、諸君に、うたひていはへ、今日太陽	太陽	1895	1	1 新年	多	文苑	NDC911	文語
たき年の、ほしめと思へば、あなよろこばし、あな	うれし	いらうなうたふ言はず善平、又其様な事を、太陽	太陽	1895	2	2 書記官	川上眉山	小説	NDC913	文語
に此處へ立寄ると言つて遣したが、お前は嘸嬉	うれし	しいの。そんな事を言つては困るな。と細説太陽	太陽	1895	2	2 書記官	川上眉山	小説	NDC913	文語
てお出ではいんどだよ。貴郎は私を泣かせて嬉	うれし	とおもはぬならねど、いとうるさきを、もはやそれ太陽	太陽	1895	2	2 露のよすが	三宅花園	小説	NDC913	文語
して、鼻あさやかに見ゆるやうにとの心つかひも、うれし	うれし	くて、一日も早う御興入遊ばし、御二人かく並び太陽	太陽	1895	2	2 露のよすが	三宅花園	小説	NDC913	文語
ある人々、一して今日の御姿にならぶはなしたと、うれし	うれし	さ、いかかりとおほす。うるはしき奥方撰このみ太陽	太陽	1895	2	2 露のよすが	三宅花園	小説	NDC913	文語
胸すく心地す、などかたりたまへりき。そを漏聞しうれし	うれし	げに事にもよるを、かの御心の申いかならん。さる太陽	太陽	1895	2	2 露のよすが	三宅花園	小説	NDC913	文語
りぬ、といふを、露すおしどいめて、人のつれへをうれし	うれし	と斗りいよさす、手持のなさをのすずさみと折る袖太陽	太陽	1895	2	2 露のよすが	三宅花園	小説	NDC913	文語
見せたまひしとのみにて、幾千人のほむるよりうれし	うれし	むべき所いにあらず、ために自然の美を揮ま太陽	太陽	1895	2	2 月と花	三宅雪嶺	小説	NDC914	文語
こ足らず、また物の餘りに宏大なるは安んじて嬉	うれし	しまは春の遊びの鞠小弓かななど見え小弓射太陽	太陽	1895	2	2 小弓の勝	川崎千虎	雑録	NDC789	文語
御歌 慈眞和向 秋のいねのおさまれる世の嬉	うれし	さに、なほこのすゑもたひらかにすよかにて、も太陽	太陽	1895	2	2 大感世の	岸上貞軒	家庭	NDC289	文語
、かくて老のこころざしを上げられたるかいと〜うれし	うれし	しくや感じけん、愛らしき眼を細くし、株の如き太陽	太陽	1895	3	3 吾妻錦絵	須藤南翠	小説	NDC913	文語
勇ましくも萬歳を稱へられたるを、幼き身にも嬉	うれし	しさに目には涙のまだ干ねども、亮爾と笑面を太陽	太陽	1895	3	3 吾妻錦絵	須藤南翠	小説	NDC913	文語
手つから吾が兒に取らすれば、了得稚兒の嬉	うれし	しげに笑を湛えて、やア豪傑だなる、是れが知太陽	太陽	1895	3	3 吾妻錦絵	須藤南翠	小説	NDC913	文語
さる、直と大尉に御昇殿になる、忙し中にも嬉	うれし	しさと、珍らしき多くの人々の集まれる悦びと太陽	太陽	1895	3	3 吾妻錦絵	須藤南翠	小説	NDC913	文語
奮げつ、彼を見れば三枚つゝ纏合せ、嬉	うれし	しきやと、自ら尋ねて自ら答ふるに苦し、さ太陽	太陽	1895	3	3 昭君怨	藤谷小波	小説	NDC913	文語
れたる新服を着して、今日始めて世間を見る嬉	うれし	しきやうなる感の、胸の片隅にうごめきぬ、太陽	太陽	1895	3	3 昭君怨	藤谷小波	小説	NDC913	文語
俄かに時めきものから、さて何の爲めにかく嬉	うれし	しう覺えたるに、老公も新しき友を得たる事太陽	太陽	1895	3	3 昭君怨	藤谷小波	小説	NDC913	文語
さる心の露ばかりも起らず、かへりて何となく嬉	うれし	しや知章疾く我をして桃源洞中に學課錢を收帳太陽	太陽	1895	3	3 昭君怨	藤谷小波	小説	NDC913	文語
しとは見ず、心只飽くまでも楽しく、飽くまでも嬉	うれし	しきは海らくかちの軍ひと國のひかりをよそに太陽	太陽	1895	3	3 元時代の	幸田露伴	雑録	NDC772	文語
君の祖父なりけるよ。かく紹介されて、吾は嬉	うれし	き節ぞ聞えける千代をしめたる鶯の聲、翁の固密太陽	太陽	1895	3	3 和歌	多	文苑	NDC911	文語
分ありと云ひたるものと云ふ飛脚が心には、嬉	うれし	しからず思はんやうは無き親心、繁臈大ぎに太陽	太陽	1895	4	4 新字士	幸田露伴	小説	NDC913	文語
旅順口を占領せりと聞て、正三位 福羽美静 嬉	うれし	しさ溢るゝ獨り笑、芽出度き無事の面をば幾年太陽	太陽	1895	4	4 新字士	幸田露伴	小説	NDC913	文語
詠を召さるゝを以て一月盡日之を奉る、くれ竹のうれし	うれし	しさに威張りたさから、下宿住居を厭ひて生家太陽	太陽	1895	4	4 新字士	幸田露伴	小説	NDC913	文語
かは知らず切りに説きしより、兒を寢められて嬉	うれし	しき美人の振舞よと、耳を登して聴き居たりし太陽	太陽	1895	4	4 蘆花	遅塚麗水	小説	NDC913	文語
り今度は云ふまでも無し、絶えて久しき對面の嬉	うれし	きし、とよみければ、あるじをはじめ皆めでつが太陽	太陽	1895	4	4 歌がたつ	中村秋香	雑録	NDC911	文語
かは孰も皆 學校卒業して一人前の男となり嬉	うれし	くも君がそのふの松に來て千代をことほぐ鶯のこゑ太陽	太陽	1895	4	4 短歌	多	文苑	NDC911	文語
たりし彼の美人のすさみなるべし、憎までに嬉	うれし	しけれ、あはれ小川よ聞の夜を、獨りあ太陽	太陽	1895	4	4 今様新	多	文苑	NDC911	文語
はひを纏ひて入れぬと聞くなれば袋かつぎとなるぞうれし	うれし	しけ、明治聖代の恩澤に遭遇して、其六年八十太陽	太陽	1895	4	4 近衛公の	大橋乙羽	家庭	NDC289	文語
一代龍てしるべも高しうぐひすの聲 同夫人 尹子 うれし	うれし	ます六角堂の頼言に日參すると稱し毎夕養鬘太陽	太陽	1895	4	4 美術	*	美術	NDC700	文語

グローバル COE「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」出版物

研究論文集

<p>コーパスに基づく言語学教育研究論集 Ⅰ</p> <p>International Symposium: Corpus and Variation in Linguistic Description and Language Education</p> <p>Edited by Yuji KAWAGUCHI, Makoto MINEGISHI and Jacques DURAND</p> <p>2009年3月発行</p>	
<p>コーパスに基づく言語学教育研究論集 Ⅱ</p> <p>Proceedings of the Chulalongkorn- Japan Linguistics Symposium</p> <p>Edited by Makoto MINEGISHI, Kingkarn THEPKANJANA, Wirote AROONMANAKUN and Mitsuaki ENDO</p> <p>2009年3月発行</p>	
<p>コーパスに基づく言語学教育研究論集 Ⅲ</p> <p>Geographical Typology and Linguistic Area —With Special Reference to Africa—</p> <p>Edited by Osamu HIEDA, Christa KÖNIG and Hiroshi NAKAGAWA</p> <p>2010年10月発行</p>	

研究報告集

<p>コーパスに基づく言語学教育研究報告 1</p> <h3>コーパスを用いた言語研究の可能性</h3> <p>富盛 伸夫, 峰岸 真琴, 川口 裕司 (編) 2009年3月発行</p>	
<p>コーパスに基づく言語学教育研究報告 2</p> <h3>言語記述から言語分析の応用へ</h3> <p>稗田 乃, 峰岸 真琴, 川口 裕司 (編) 2009年3月発行</p>	
<p>コーパスに基づく言語学教育研究報告 3</p> <h3>フィールド調査, 言語コーパス, 言語情報学</h3> <p>峰岸 真琴, 川口 裕司 (編) 2009年5月発行</p>	

コーパスに基づく言語学教育研究報告 4

コーパスを用いた言語研究の可能性Ⅱ

峰岸 真琴, 稗田 乃, 早津 恵美子, 川口 裕司 (編)

2010年3月発行



コーパスに基づく言語学教育研究報告 5

フィールド調査, 言語コーパス, 言語情報学Ⅱ

峰岸 真琴, 稗田 乃, 早津 恵美子, 川口 裕司 (編)

2010年6月発行



コーパスに基づく言語学教育研究報告 6

コーパスを用いた言語研究の可能性Ⅲ

峰岸 真琴, 稗田 乃, 早津 恵美子, 川口 裕司 (編)

2011年3月発行



論文執筆支援集

論文執筆支援シリーズ II

外大生のための日本語研究ガイドブック

早津 恵美子（監修）

中山 健一（編）

2009年3月発行



論文執筆支援シリーズ III

ドイツ語コーパスハンドブック 2009

成田 節（監修）

カン・ミンギョン，時田 伊津子，

高橋 美穂，信國 萌（編）

2009年5月発行



論文執筆支援シリーズ IV

外大生のための日本語研究ガイドブック —増補改訂版 2010—

早津 恵美子（監修）

中山 健一（編）

2009年3月発行



論文執筆支援シリーズ V

Praat を用いた音響音声学的分析の初歩

中川 裕 (監修)

青井 隼人 (著)

言語音声学研究会 (LPC) (編集協力)

2011 年 2 月発行



研究資料集

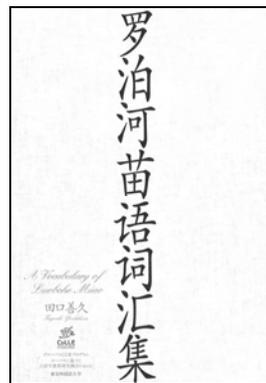
コーパスに基づく言語学教育研究資料 1

罗泊河苗语词汇集

A Vocabulary of Luobohe Miao

著者 田口 善久

2008 年 3 月発行



コーパスに基づく言語学教育研究資料 2

初級教科書の語彙分析—動詞編(1) 語彙的な性質—

早津 恵美子 (監修)

アクマタリエワ ジャクシルク, 金 俸呈, 辺 純影 (編著)

2010 年 2 月発行





論文執筆支援シリーズ VI 2011年3月22日発行

『太陽コーパス』の入門とケーススタディ

発行：東京外国語大学大学院総合国際学研究院
グローバル COE プログラム
「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

監修：早津 恵美子
編集：佐藤 佑
印刷：有限会社 ノースアイランド



論文執筆支援シリーズVI

『太陽コーパス』の入門とケーススタディ

グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
東京外国語大学大学院総合国際学研究院